
建築と社會
第十三輯第一號
昭和四年
建築大觀
昭和X年一月一日
日本建築協會

謹賀新春

旧年中は格別の御引立御愛顧有難く併せて倍旧の御用命奉仕致候

昭和五年正月元日

営業種目

建材第一部
三建工業製スチールサッシ。スチールシャッター。ファイヤーカーテン。三建工業製スチールドアー。スチールパーチション。メールシート。ブロンズドアー。
其他鋼板製品一式

建材第二部
モスラー金庫室設備。スチールクリートメッシュ。メタルラス。グラッヂングマクビーン社製各種テラコッタ。リチャードウイルコックス各種ドアーハンガー。建築用大理石材。人造石。富國石。富士スレート。ロバートソンメタル。天窓。通風器。セメント防水劑ハイドロタイト。特許安全吊足場板。特許萬歳式コンクリート電柱。アトラス空氣式輸送裝置。

煖房衛生部
煖房、換氣、温濕度調整裝置、蒸氣消毒、炊事、浴場、洗濯裝置、水道、衛生、給湯、汚水淨化裝置、廣芥焼却及處理裝置、レイ式重油燃焼機、エームス煖房用ポンプ、トロイ洗濯機械

製氷冷藏部
製氷、冷藏、冷凍、冷房裝置、フリック冷凍機、

電氣部
各般電氣設備

負請事工督監計設賣販

三機工業株式會社大阪支店

大阪市東区備後町三の一野村ビル内 電本町二五二五

部械機店支地各産物井三へ店扱取

會告

本協會定款第十七條及第十八條ニ據リ評議員半數改選並定款第十九條ニ據リ評議員一名補選ニ付十二月十六日開會ノ通常總會ニ於テ選擧執行候處左ノ通ニ有之候

昭和四年十二月

社團法人 日本建築協會

當選 二二七票 吉井長七氏
同 一七三票 原科準平氏
同 一六九票 山田初次氏
同 一六四票 久保田筆雄氏
同 一五六票 木村寛一氏
同 一四二票 須藤隼人氏
同 一三七票 高橋榮治氏
同 一三一票 小笠原創氏
同 一一六票 高田利一郎氏
同 九〇票 阪井米吉氏
次點 七三票 三木來三氏
以下略

當選 一七五票 岡部顯則氏
同 一七一票 岡本新次郎氏
同 一六八票 前內文二郎氏
同 一五七票 村上徹一氏
同 一四三票 武田經一氏
同 一三八票 山中茂一氏
同 一三五票 永田三次郎氏
同 一一八票 本間乙彥氏
同 一〇四票 籠田定憲氏
次點 八二票 篠原太郎氏
五六票 池田實氏

評議員一名補選

當選 一六一票 山下豊三郎氏
次點 七八票 中島智喜氏
以下略

會告

本協會定款第十七條及第二十條ニ據リ昭和四年十二月二十一日開會ノ評議員會ニ於テ理事其ノ他選擧執行候處左ノ通御當選被致候

昭和四年十二月

社團法人 日本建築協會

理事會長	片岡安氏	
理事副會長	古字田實氏	
理事副會長	宗兵藏氏	
監事	池田實氏	
監事	横濱勉氏	
常務	岡部顯則氏	
常務	小川陽吉氏	
常務	木村寛一氏	
常務	篠原太郎氏	
常務	高橋榮治氏	
常務	坪井誠一氏	
常務	本間乙彥氏	
常務	松本儀八氏	
常務	山脇友三郎氏	
常務	吉井長七氏	

（五十音順）

商標 OHNO SHUTTER PATENTED 登錄

特許第七九三五號(延長許可)外十數件併用

大野式防火捲上ヶ戸

〔特許大野式シヤッター〕

主要製品

大野式**シャッター**
大野式自働防火鎧戸
大**野式**工場用軸承
大野式轉子入軸筐
大野式轉子入戸車
大野式廻轉軸抵抗測定機
各種防火扉
應用特殊機械類
特許不二式**サッシ**受托販賣

合資會社 **大野製作所**

東京市芝區三田四國町二番地・電話三田(45)七三三七三三七三三番

八八五(45)島福話電・二中島福上區花此市阪大・所詰員張出付取



建築と社會第十三輯 昭和四年建築大觀 特輯號目次

（卷頭插畫）大阪高麗橋筋の景……本間乙彦…（九）
（卷頭言）……工學博士 武田五一…（一〇）
昭和五年の春を迎へて我建築界に望む…工學博士 片岡安…（一一）
昭和四年建築大觀特輯記事

昭和四年の建築界を顧て……安井武雄…（一三）
昭和四年度に於ける建築思想界の動き……伊藤正文…（一四）
ホテル建築の一考察……古塚正治…（一三）
長屋建築の考察……葛野壯一郎…（一三五）
偶感……石本喜久治…（一三九）
明日の住宅と都市……藤田進一郎…（一四〇）
昭和四年を回顧して……松室重光…（一四四）
都市生活の安定策に就て……岡崎早太郎…（一四一）
京都に於ける建築の回顧的展望……和田甲一…（一四八）



京都と建築……大倉三郎…(五一)
愚考三題……中尾保…(五四)
昭和四年に於ける學校建築の趨勢……富士岡重一…(五八)
最近十五年間に於ける建築工事施工方面の發達と將來……渡邊圭吾…(六二)
昭和四年物價指數の變遷……(六九)
構造より觀たる耐震耐火的建築(中)…工學博士 田邊平學…(七二)
建築工事の勘定と事務(終)……由良基夫 中島智喜…(七九)
附錄 ◆寫眞 國際新建築集……(一)
◆寫眞 京阪神新建築集……(一)
會報……(一)
本誌廣告目次……(廣二〇)
本誌表紙圖案懸賞應募規定……(七〇)
口繪・阪急仁川・村上氏邸　阪急岡本・林氏邸　神戸・鹿高氏邸
阪神魚崎・杵屋氏邸　南海濱寺・柳原氏邸
建築と社會第十二輯總目次……(一—六)

謹賀新年

東京支店　東京市麹町區丸ノ內一丁目二番地
電話丸ノ內(23)自長三四二一番　至三四二七番

横濱支店　横濱市中區相生町三丁目五十三番地
電話長者町(3)長三三三七番　三三三八番
三三三九番

名古屋支店　名古屋市中區新柳町六丁目三番地
電話本局(2)長一〇二五番　一八五八番
一〇二六番

小倉支店　小倉市米町二丁目三十二番地
電話小倉長一四四番

大阪市東區京橋三丁目七十五番地

株會社式 大林組

電話東(94)〔自長八六〇番〕〔自五四〇四番〕〔自六四七一番〕
〔至長八六五番〕〔至長五四〇九番〕〔至六四七三番〕

京都營業所　京都市中京區堺町通御池下ル九木材木町六百七十五番地
電話本局(2)三三六番　三三七番

神戸營業所　神戸市海岸通十二番
電話三宮(3)三一〇七番　八二九番

工作所大阪工場　大阪市港區千島町六番地
電話櫻川(64)自七六〇番　二六九七番
至長七六二番

工作所東京工場　東京市深川區鹽崎町一號埋立地
電話本所(73)一二五六番　二一六七番
長二一六八番

日本ペイント株式會社製

◎アートゲン（木材着色料）

色合拾種（見本說明書贈呈）

製造元　日本ペイント製造株式會社

發賣元　大元商會

大阪市西區薩摩堀東町

電話新町〜二二六五一六

建築と社會第十三輯第一號

廣告目次

有山組……四三
安藤組大阪支店……四三
淺野スレート材式會社……一四
淺海商店……七〇
阿部鐵工所……四八
阿波田良之助商會……四六

C

中外電氣商會……七〇

D

デウエット商會……七三
大和工業株式會社……一〇三
大元商會……一九
大鐵電車事業課……八五

築進社……四九

F

福原工場大阪販賣店……五二
福島合名會社大阪支店……八九
藤田商會……五〇
藤木工務店……四二
古塚建築事務所……三七

H

橋本建築事務所……三七
橋木庭園工務所……二三
白陽工務店……三九
汎建製作所……表紙三
原科建築事務所……三七
本間建築事務所……三七
宏昌大理石工作所……四二

I

今井硝子店……一〇二
池田建築事務所……三七
池田谷建築事務所……三七
池田組……三九
伊丹商店……五八
伊藤建築事務所……三七
井原建築事務所……三七

K

クロースルーフヰング製造所……六六

江東サッシ株式會社……七五
木下謹三商店……七八
熊坂谷熊次郎商店……四二
國枝工務所……三七
川崎工業所……七八
川島織物所裝飾部……九〇
金剛商會……五三
片岡、石本建築事務所……三六
桐田商會……七三
葛野建築事務所……三六
建築金物商會……表紙三
鴻池組……四三
駒井喜商店鐵工部……四三
工村社（阪口芳三郎）……二四
廣業社……一八
龜谷開作商店……四一
關城化學工業株式會社……二一
久保田組……四一

M

みよし組電氣工業所……八四
宮島康夫商店……一〇四
松村組……四二
松本商店……八三
松原木工所……八六
松安家具製作所……八五
村上建築事務所……三六
三井物產株式會社……四四
森本建築社……四四
眞水三橋建築事務所……三六
万年スレート株式會社……一六
三熊製壘所……九六

N

ナンコク商事株式會社……一三
内外エレベーター株式會社……五九
内外土木建築材料合資會社……八〇
浪速設計事務所……三六
日本トラスコン鋼材株式會社……八二
日本洋瓦株式會社大阪出張所……五六
日本木材工藝株式會社……一〇〇
日本レヤート販賣株式會社大阪支店……七七
日本ペイント製造株式會社……一七
日本エレベーター製造株式會社……一二
日本建築紙工株式會社大阪出張所……五七
日本工劑株式會社……七九
日本鋼製建具株式會社……九二
新田ベニヤ製作所……三三
西孫南店建築金物部……五一
西原衛生工業所大阪支店……三八
中川辰藏店……四一
中村グラニット商會……九四
中村建築事務所……三六
南滿鑛業株式會社……六三
野澤幸三郎商店……七六
野村建築事務所……三六
名古屋伊丹商店……五八

O

オキナ商店……六五
大林組……六五
大阪ビトロライト工事合資會社……一六
大倉土木株式會社……三
大阪耐火リノリユーム工業合資會社……六〇
大阪窯業セメント株式會社……二一
大阪鐵筋混凝土工務所……四〇
大阪橋本組……四〇
大阪電氣商會……八八
大阪瓦斯株式會社……九三
大林組……三〇
大倉商事株式會社……三九
大倉土木株式會社大阪出張所……一一
大塚鐵工所金庫部……一一
大野製作所……一一
大阪建築所……三五
大平工業所……九五
小笠原建築事務所……三五
小野木横井共同建築事務所……三五
岡本工務店……四〇
岡部建築事務所……三五
岡田建築材料店……六六
置鹽建築事務所……三五
奥村重兵衛商店……六一

R

ラバロイド商會……一五
玲光社（木内眞太郎）……六四

S

須賀商會……五四
島田建築事務所……五五
島貿易株式會社建材部……三五
佐久間建材工業所……四五
飾磨化學工業株式會社……九一
佐渡島西店建材部……一〇
佐伯組……四四
三五製作所……六八
三機工業株式會社……表紙二
笹岡家具裝飾店……四六
城口研究所大阪支店……七四
宗建築事務所……三五
設樂建築事務所……三四
清水榮二建築事務所……三五
清水組……五
清水組大阪支店……四四
品川白煉瓦株式會社大阪タイル部……六八

T

淡陶株式會社……七一
東洋スレート株式會社……九九
東洋コンクリート合資會社……九八
東洋陶器株式會社大阪出張所……六七
東亞鐵工所……九七
田島工業株式會社……八〇
田中昌司商店……八〇
田村商會……三四
田村事務所……四一
竹中工務店……四一
高安商店……八六
朝永建築事務所……三四
株式會社テーワイ商會……一〇一
東京機械鋼工場……一〇一

U

上野建築事務所……三四

V

ベニス工房……六二

W

和田建築事務所……三四

Y

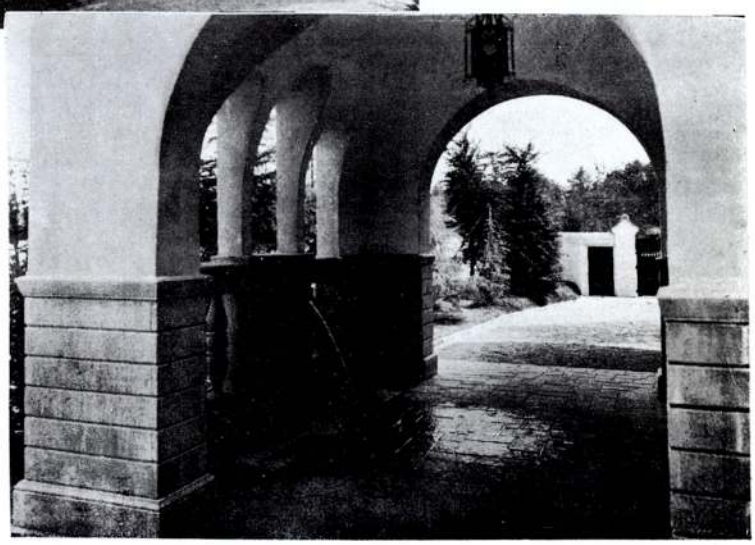
ヤブタ電氣營業所……五七
米本商店……八一
米山製作所……六四
山本窯業商店……六二
山本東作商店……九六
山中商會……六九
安井建築事務所……三四
矢橋大理石商店……五〇
橫河工務所……三四
橫川橋梁製作所……四七
橫濱建築事務所……三四

Z

錢高組……四四







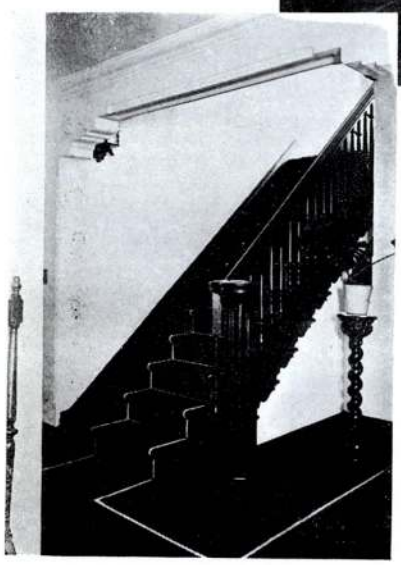
上・外觀の一
中・外觀の二
下・車寄詳細

阪急仁川・村上氏邸

設計　古塚正治建築事務所

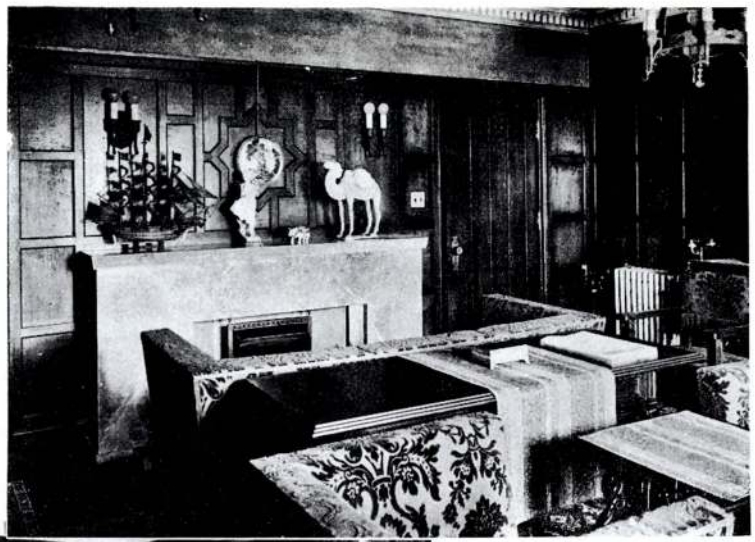






上・日光室外觀
中・日光室內部
下・階段詳細

阪急仁川・村上氏邸
設計　古塚正治建築事務所



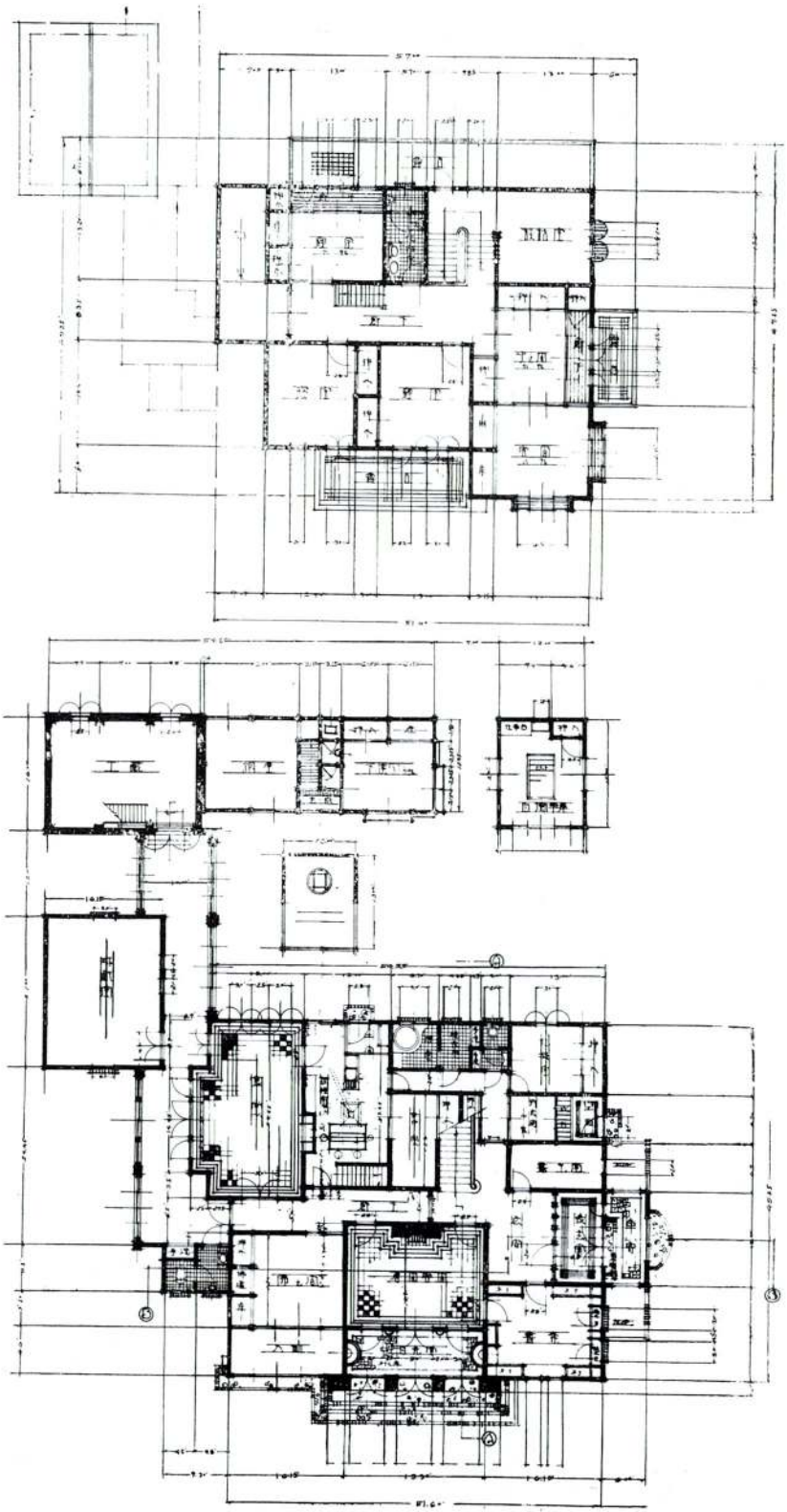




上・客　間
中・書　齋
下・食　堂

阪急仁川・村上氏邸

設計　古塚正治建築事務所



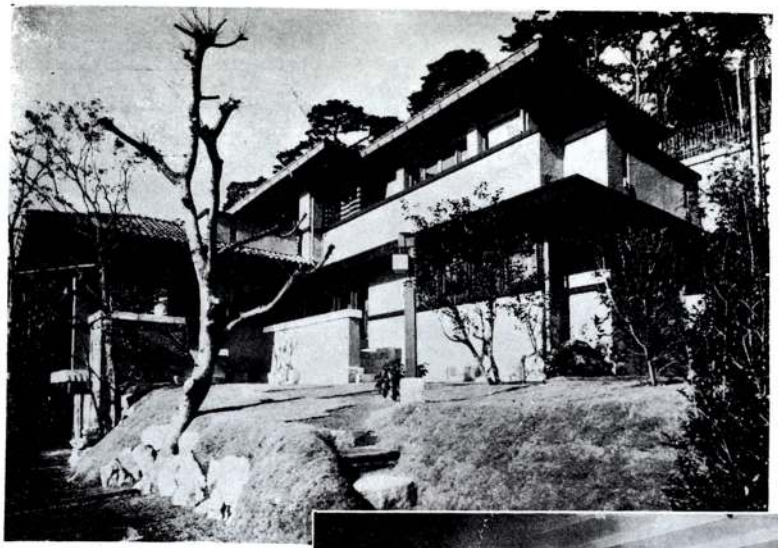
下・第一階平面圖　設計　古塚正治建築事務所
上・第二階平面圖　阪急仁川・村上氏邸

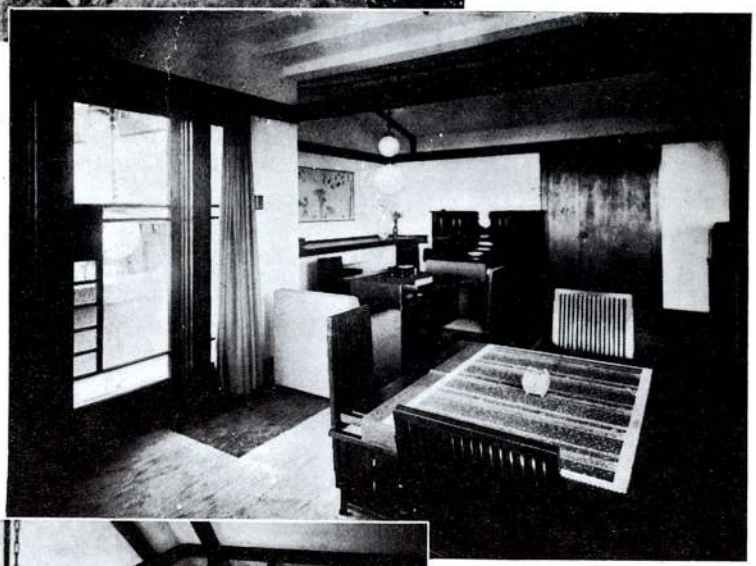




上・外　觀
下・表　門

阪急岡本・林　氏邸
設計　大林組住宅部







上・外觀
中・居間
下・食堂

神戸・龜高氏邸

設計 南信建築事務所

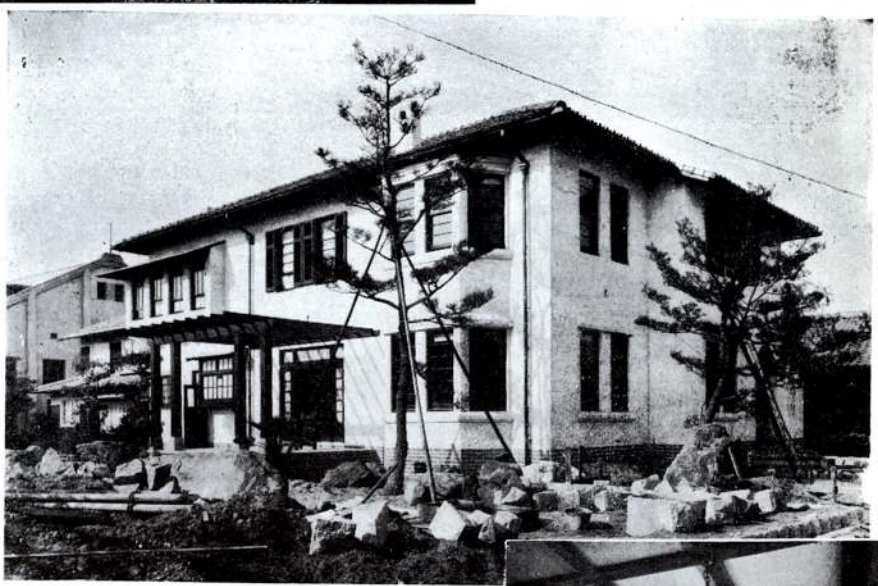




阪神魚崎・杵屋氏邸
設計　大林組住宅部

上・西側正面外觀　　下・庭園より上下座敷を望む







上• 居　間
中• 外　觀
下• 應接室

南海濱寺・柳原氏邸
設計　大林組住宅部

第十三輯　建築と社會　第一號

昭和四年建築大觀號



建築風景・大阪高麗橋の景　　本間乙彦氏畫

巻頭言

武田五一　工學博士

多年翹望した芽出度い更新の新年が來た。累年うち續く財界の不況に惱みたる建築關係者は、緊縮の颶風で更らに不景氣を深刻化され、失業者は踵をついで出で數千に余る學校卒業者は差當つての就職難に直面する。樂しかるべき新年の御慶も、嬉しかるべき正月の遊びも全く破壞されるであらう。其の苦境は察するにあまりありであらうが、經濟國難の打開革新の爲めに之れも忍ばねばならぬことであらう。

六十億からの巨債を負ふた國民が、世界無比の衣、食、住の高價を意とせず、世界での成金國たる米國の眞似をして、噴火山上に踊り狂ひて夜も日もなかつた、こゝ數年前の正月と比較して、今年の如何に淋しき哀れなることよ。其米國でさへ戰後間もなく國民的經濟緊縮を斷行し物價を引き下げ、又彼の巨額の賠償金に責められた獨逸でさへも立派に財界立て直しをしたではないか。獨り我國民は四十億位の俄か儲けで有頂天になり、濫費と奢侈に陶醉して夢の間に浮雲の利得を蕩盡して、遂に其の逆數の外債に喘がねばならないやうになつたのは、あまりにも無自覺過ぎるやうである。

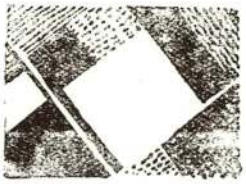
彼の關東大震災を天譴と心得、上下擧つて緊縮、自誡に力めたならば、こんな淋しい新年を迎ふる要もなかつた筈である。無自覺な國民は戰時好況時代の夢を追ひ、黨利、私慾以外は何物もないやうな當局の放漫政策を惡用して、遂に人心を極度の不安に突き込めてしまうたのである。

さあれ我邦都市の地上には、日に日に其の量に於て、其の質に於て、其の設備、裝飾に於て前代未聞の建築物が築造されて行くと云ふことは、我國民の元氣に於て將又其の資力に於て、凜然犯すべからざる底力の蘊蓄されて居ることを實證されて居るものであることは爭はれない事實である。

建築に關する種々の問題、或は疑問は建築術の發達に比例して年と共に其の數を增して來て居る。耐震の問題、耐火の問題、防音、防熱等の科學的の疑問は益々深刻を極めて來て居るが、それ以上に樣式に關する情的問題も思想問題の浸潤につれて、一部人士の間に可なり內面的の問題になりつゝある。糊塗彌縫の解釋、或は獨斷的說明では、もはや誰れしも滿足しなくなつて來た。純潔なる思想と簡易なる神代のさまに立ち返へる眞の年の始めの心を以て、既知の知見に誤りあれば、之れを祓ひ淸むるに何んの躊躇する所なく、陰鬱なる建築界に更始一新の機運を芽生へさせたいものである。

斯くして初めて建築界に國民的自覺を生ぜしめ、眞の我邦の建築を樹立することに驀進して、さしもの不景氣を吹き飛ばし、更らに位置を換へて數十億の債權國たらんことを希望する次第である。

昭和四、一二、二五



昭和五年の春を迎へて我建築界に望む

工學博士 片岡安

建築は藝術であると同時に實用の點に於て社會生活の重要なる地位を占むるものである。實用と藝術は必ずしも一致するものでないけれども取扱の手段方法そのよろしきを得れば相當に之を並行せしめ得るが、又その取扱ひやうによつては實用的には成功するとしても、藝術的に見て甚だ喜ばしからぬものとなるのである。建築物に對する批判は常に此點を基調として論ぜられねばならぬのである。而してその正しき批判によりてのみ建築物の實現が正道を歩み得るのであるから、我國建築界の進路を誤らしめぬやうにするには、之を指導すべき批判の正鵠を得て居るかどうかゞ大なる問題となるのである。

◇

建築物の批判殊に最近勃興しつゝある新しき時代の建築に對する批判は如何であつたか、又如何なる風潮に向つて居るかを見ることは、批判の正鵠を得る前提として大に研究の價値があるのではないかと思はれる。此意味に於て最近の我建築界の批判の方面を窺ふときに、そこに可なり不健全なる分子が見出されるのである。十數年前に大塚保次博士の我國の建築批判が發表された。その趣旨は『我國の新しき建築は主として歐米の模倣であつて、何等我國の藝術趣味と交渉がない。唯二三の建築物には東洋趣味を取り入れんとする努力は相當に認められるに過ぎない。何れにしても我國の建築が我國固有の藝術として精華を發揮するには、少くとも數十年の歳月とその間の不斷の努力を要するであらうと結び、若しその間に一大天才が現はれ一擧にその進路を開くといふやうなことがあれば幸である』と付け加へられた。又伊東忠太博士は三十年前より常に我國の建築界に向つて無意味なる歐米模倣の愚なるを指摘され、或る場合には我國建築界の暗黒時代とさへもあつた。要するに時代の文化を完全に代表すべき氣宇宏大なる建築物の實現を期望する點に於ては大塚博士と常に同一の趣旨を持し、數次それを發表されたことに對して、吾々は最大の敬意を拂ふものである。然し大塚、伊東兩博士の唱へられた趣旨は我國の建築界に對する批判としては最も尊敬すべき根本論であつて、何等批難すべき點を見出さぬのであるが、同時に又餘りに抽象的ではなかつたかと思はれた。若しその趣旨に共鳴したからとて一大天才ならざる限り直ちに我國の文化を十分に代表し得るやうな氣宇宏大なる建築樣式を創造し得る筈はないのである。而して建築物の實用性を如何に取扱ふべきやに就て、殆んど全く批判されなかつたことは甚だ物足らぬ感じがする。

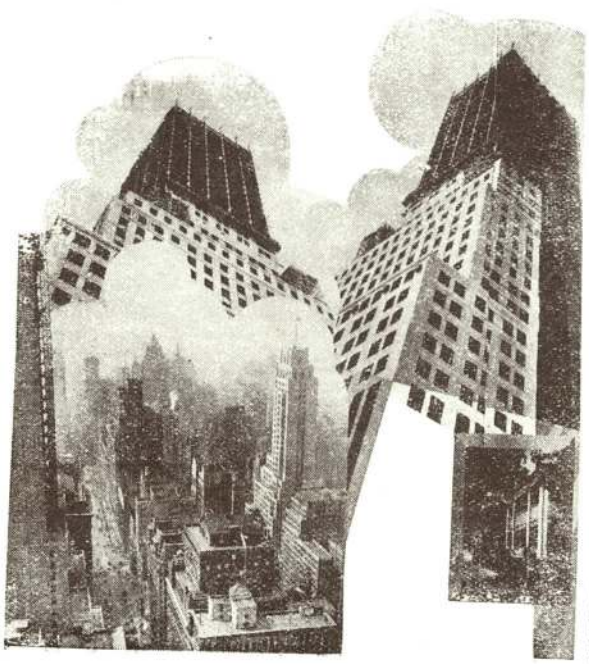
◇

建築物の實用性は社會的に見てその最大使命であることは言ふまでもない。之を言ひ換ふれば建築はその機能を完全に發揮することに依つてその重要性を增すのである。而してその機能を十分に表現することがその樣式をなすのであるから、現代の文化が要求する機能を發揮するやうな建築を無理に古來の又は遠隔の地方の傳統的樣式に嵌め込まんとしても、所詮その目的を達する筈はないのである。我國の建築界が暗黒時代に低迷しつゝあるとか、或は混亂狀態にあるとかいふ批判は即ちその目的を達し得ざる現狀を指摘して居る點に於ては間違はないのであるが、しかし現代の文化は日に月に進展しつゝある。從つて建築に向つてその要求する機能は著しき變化があることは否めない。而して今日の科學應用の進歩、即ち建設、

機械、電氣、化學等の工業的進歩を綜合的に建築に採り入れることに依つてのみ、その要求せんとする機能を十分に具備し得るやうになるのである。その現實の適例は北米合衆國の大都市に於ける最近の高層建築である。北米合衆國の都市に於ける建築は過去百年間可なり著しき變遷を經て來たのであるが、その當初は歐洲各國の模倣に始終した。即ち西班牙、フランス、イギリス或は伊太利等各國の樣式は入り亂れて混合的に建設されて來たのであるが、最近三四十年間の彼國の文化は次第に大なる進展を遂げ、その規模の宏大なる經濟活動と複雜にして多趣味なる都市生活は遂に彼の驚くべき大高層建築を生むに至つたのである。同國の高層建築は其手法の細部に至つては、或はゴシック、或は復興式、更にフランス、伊太利等の影響を受けて居るけれども、高層建築として有する一種の樣式は全くその機能を完全に表現して餘あるとも見られる。

◇

最近歐洲大陸に於て古來の傳統に捉われざる建築の樣式が盛んに唱へられ、着々その實現を見るに至り、所謂セセツション一派の擡頭となり、そこにインターナショナルの氣分を發揮するやうになつた。而してその氣流は漸次我國に到來しつゝあるのも事實である。歐羅巴各國は中古以來それ〳〵の民族藝術を基調として建築樣式の變遷推移をなし以て今日に至つたのであるから、如何に現代の文化が急角度に進展したからとて、その建築樣式が一擧に變化するものとも考へられぬけれども、我國の如く千年の久しきに亘り特種の東洋文化を開拓して來た所へ、突如として西洋文化が奔流の勢を以て移入された場合に、模倣と傳統の二派が生じ、新舊相互に反目し、各極端なる自說に捉はれて容易に融合の道がつかぬのも無理からぬことである。而してその機會に模倣傳統兩派を超越してインターナショナルの流派が侵入せんとするのも亦自然の趨勢ではあるまいか。我國の最近の建築批判が、それ〳〵特種の立場から、可なり隔りのある意見として現はるゝのもその爲めである。そこに批判としての價値は甚だ薄弱となり、我建築界の進路を何時までも低迷せしめるやうな虞がある。傳統に餘りに重きを置くときは純日本式の建築樣式を現代の建築に强ふるものであり、又模倣を中心とするときは我國古來の建築樣式は全然其姿を沒するの憾がある。ましてやセセツションに生きんとするに至つては我國の傳統藝術を全然無視せんとするの反逆的態度である。要するに傳統を棄てず、しかも現代文化の進展が要求する機能を十分に發揮するやうな建築の實現を望むことが現代我國建築界の目標ではあるまいか。敢て英國や、獨逸或は佛蘭西等に於てその藝術美を發揮せるものを移入するの要もなければ、又アメリカの高層建築に倣ふの必要もない筈である。殊に我國の建築界を一擧に國際化せんとする新しき運動も無意義である。故きを溫ねて新しきを知るの古諺は正に我國建築界の現狀に適切なる批判ではあるまいか。



建築工事のスピード變化　目まぐるしい、スピード時代の建築事業と同時に廢物となるだらう、工事計畫で進めたら完成ニューヨーク、クライスラービルデイング、地上67階809呎を上からも、と完成した姿の現在世界最高建築、式中の奇觀



昭和四年の建築界を顧て

安井武雄

最も近き過去の建築界を回顧する。

私自身が勝手に回顧するのである事を斷つて置く。

先哲の言葉をかりて言へば、天賦のない私は『讀書によつて唯單に死せる習癖を修得するか淺薄な模倣者となるに過ぎない』ので餘り讀書をしません。

又近頃私は日本人の手に依て出來た、我國に於て著名だとか代表的とか言はれる建築物を、偶然か不止得の機會の外に、態々見たいと思つて見たものは殆んど一つもありません。

夫れだから斯樣な建物が私にとつては、單に途上や紙上の瞥見の印象に過ぎないものが多いのです。而かし上記の樣な機會があつて見たり、見せて戴くと色々と啓發される所があるのですが、何故か態々見やうとか見せて貰ふと云ふ樣な氣が起らない。而のみならず私自身には却て見ない方が好い樣な氣もするのです。

從て私の日本に於ける最近の建築界に對する見解は非常に狹少のものである。

昭和四年の日本の社會暦は可成り賑かであつた樣に思ふ。夫れは政治方面に於ても、經濟方面に於ても、而して建築界も決して淋しかつたとは言へない。特に評論の方面に於て左樣であつたと思ふ。尤も此兩三年は建築界は評論の洪水で惱やませられる感じはある。

而かしながら現今の社會はまさしく評論を渴望して居る、而して正しき批判を。

◇

評論は、新しき出現に對して正しい其素材を整備し、其の進行に對して善き忠言を與へるべきものでなければならない。方今我が國の建築界の先達や新銳を以て目せられ、又自からも任じて居られる方々の發表せられる我が建築界に對する批判や論議を見ると、其の呼びかくる樣は、王者の態度である。宗聖の風貌がある。常に汝等愚衆よと呼掛けて居るが、其の論ずる所、判する所のものは、吾等愚衆にとつては餘りに物足らないものが多い。

凡そ事象の解說は其何れの方面から觀察する場合でも常に一定の基準に立脚する必要がある。即ち一定の坐標軸に還元して論議すべきである。勿論其坐標軸は觀察の方式に依て異なるべきであるが、如何なる場合でも一定の坐標軸を把持しなければ事象の正當なる解說は不可能である。

試に此一二年間諸種の刊行物に現れた所謂我が國の建築界に就ての批判とか評論とか稱するものを見て御覽なさい。果して確固たる立脚點を持つて居るものがあるでせうか。一定の坐標軸を把持して論じて居るものが幾何程あるでせうか。

甚だ失禮な申し方ではあるが凡ての說述が浮動して居る、其處に何等確固たる信念と理想がない。而して可成り種々の文獻や考證に準據して居られるのに拘はらず、其論旨が常に徹底しない。夫れが爲か凡てが論議腰間秋水的の慷慨悲憤に終つて居る憾みがある。

猶一つ附加へたい事がある。夫れは、私は我々の現實の生活と相伴ひ相應ずるものである建築を批評するには常に論議の根據を人間生活の本義に置かなければならないと思ふのである。

勿論私は是れに就て我國の建築を論ずる人の多くが見落して居るとは思はないが、私の寡聞が未だ其核心に觸れた論議に接する事が出來ない事を此上もなく遺憾に思ふのである。

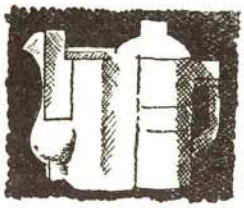
上つ滑りな描寫價値論に沒頭したり、刹那的な流行思想と言ふ樣な狹い範圍に進入する事は、やが

て自からの糞土の中に埋もれる様にならなければ幸である。

飜つて建築其のものに就て見るに多くの人の言はれる如く現今の我國の建築は慥かに雜然たるものである。まさに子供の寶物箱を引くり返した態である。

◇

一方唯々模倣の尖端に無中に突進するものがあるかと思へば、一方には傳統の惡滓にこびりついてまご〳〵して居るものもあり、或は徒らに形式の古典を求めて建築を玩弄して居るのさへあると云ふ有様、所謂過渡期の社會相を現は



昭和四年に於ける建築思想界の動き

伊藤正文

之は日本建築協會から私に課題された題目である。そこで、建築思想とは何か、建築といふ生活の實踐の上に作られて行く物とそれに曝晒して居ると言ふのであるかも知れないが、其れは餘りに無氣力である、無節制である、而して餘りに非創造的で淋びしい姿であると言はねばならない。

慥かに我國の建築は正當なる改造を必要とする。現在はまさにその革命に直面して居るのである。斯の見に對して或る一部の人は斯様な混沌の狀態の存在を一も二もなく排撃して、直に新しき秩序を獲得せんと焦躁して居る。又一部の人は到底濟度すべからざるものとして絶望し、唯々傍觀して居る様である。

私は此混沌の狀態を是認するものではない。如何なる努力を以てでも覺醒せしめなければならないと思ふが如上の様の焦躁と傍觀とに對しては同意し難いのである。

前者の態度は所謂生活の歷史的連續性を根本に排撃するもので、夫れは現實の價値を無視する外何等の意義を持たない事になつて、結局改造革命の眞義を失ふものである。

又後者の様に傍觀すると云ふ事は、消極的ではあるが現在の狀態を是認するもので斯様なものは過去の殘滓として順次に遺棄さるべきものでなければならない。

私は現在の混沌なる狀態を、やがて來る可き新秩序の胚子が發芽を待つて居ると見たいのである。一見其胚子には何等完成された形式を持つて居ない、又持つ可く豫想を許さないかも知れないが、より豊富なる新秩序は此混沌の內にある、必ずや何等かの新しき生命を蓄藏するものである。

今や吾々は其胚子の發芽の爲によき沃土を以て培かわなければならない。其よき沃土こそは我々の全生活の衝動と萬有の法則と而して人間の本能であるべきだ。

片々たる小智の構成は來る可き新社會の建築を生む所以ではない。

ミが如何なる關係にあるか、又その思想が如何に何う動くか、或は又何う動くべきか、それをはつきりして置かないと、此問題の考察解答の足許があぶないことゝなる。と考へることによつてそれを一一吟味する紙數も許されないであらうからこゝには、建築の發展性といふことを一先づ考へて見ることが必要になつて來る。その發展の過程の一斷面として一九二九年度の日本の建築界を流れた思潮を觀察すれば、その歷史的に必然なる思想の根據をも把握し得るものであらうと考へる。

こうゆう態度から私は此稿の筆を執り初める。

1・ 考へて見ると、むづかしい問題である。建築思想といふことの出來る思想的體系がほんとうにあり得やうか、何うだらう、あるとするとその概念はどうゆう內容に於て成立つて、一般に用ひられてゐるのであらう。

建築は文化の反映であると云はれる。そうに違ひないが、その社會民族の心理、意識をも反映する事も同時に認容出來る。又社會的生產事情に依存し、その生產樣式は社會意識を左右し、建築に機能する。

そうゆう建築の下部を構成してゐる事情は常に進展する。その上に依存して發展しつゝある姿が建築の姿であり、生命でもある。

私は社會進化や生產樣式、階級關係の發展法則を建築の雜誌にくだくだしく述べたいとは思はないし、又その力も持合せてゐないから、その點の細論はその專門の識者に讓るとして、建築家個人の藝術的趣味的な感情は建築思想とは關係のない心理に過ぎない事を明にして置けば、それで結構である。

又生產形式、生活狀態から組織される感情意識は、建築のみを唯一の組織的媒體とはしない。繪畫工藝、或は音樂、劇の方面に於て、皆其の感情が組織されゝ媒體となる意義を持ち、その程度の差異は、作者、設計者の社會意識の、或は世界觀の所在高下を等級づけるだけである。

藝術や工藝や、一般美術技術の形式構成の目的が、そこにあるか否かは別として、その作者の世界觀の評價は、確かにその點で定められると見て差支ない筈である。

故に建築のみが特殊の感情組織に役立つものではないので、一般にそうゆう種類の作物の一つとして存在してゐるものであるから、製作の思想が建築だけ特殊であるわけもないのである。とするとつまりは建築思想と云ふ言葉の意味は、勝手な概念であり、普遍性があるか何うか考へものになつて來る。

まして、建築家の趣味的な意識以下にある建築の製作に際しては、必然的な形態も、普遍性のある意志もなく、從て思想としての體系のない感情に過ぎない。

思想と云ひ得る爲には、生活、實技の實踐に即した普遍性のある體系を要求する。

では此むづかしい建築思想を如何樣に認め又取扱つて行かうか。

近代世界に於て、建築思想として取扱ひ得るものに就て顧ると、ウキナ・セセツシヨンに於けるワグナー以來、或はホリアム・モリス以來の、作家としての運動者のもつた世界觀、建築觀こそが、建築思想と云ひ得るもの丶初めであつた。而して、最近ライト・コルビユジエ等の建築觀は夫々に思想的體系を立て、謂ふ所の建築思想としての內容を持つ樣になつて來た。

とは云へ、それを直に、建築思想と稱することは、槪念的な言葉に偏り過ぎ、寧ろ、建築家の制作に對する態度の思想的體系であると見ることが正しい。で茲ではこうゆう見解の下に建築思想と云ふ言葉を、與へられたまゝに用ひてゆくことゝする。

2・ 建築が、生活樣式に依存して發展することを、もう少し立入つて觀察したい。もつと端的に云ふと、生產形式の進展に依據する建築の發展である。その具體的な、又區分的な觀方は建築歷史のそれぞれの斷片が雄辯に物語つてゐる。單に偶然性の變化であるか、或は一つの軌道によつて進展しつゝあるものであるかは、未だに考究されるもの丶少いのは心細い。ヘレニズムがヘブルイズムに轉じた、又はクラシジズムを復興したと云ふことだけでは說明にもならない單なる叙述である。

ましてそれは思想ではない。ゴチツク建築がレネーサンス建築に變つた事情は、建築家が建築の上で變化させたのではないのは勿論であるが、それだけ完成され盡した中世式が復興式に轉ずる原因は社會の生產樣式の變化に伴ふ個人の意識又社會の意識にある。依てそれは文化の反映である。けれども又、成行にまかせて變轉した結果ではない。一つの軌道のある進展である。なる樣にしかならないとあきらめる態度からは何等の展開も現れない。レネーサンスの天才的作家は、なり行の波のまゝに制作したのでは決してない。そこには暗い中世文化が明るい新文化への展開期に際して居たと云ふ理由がある。明るくしようとする意志がすでに培はれ、努力となり、そうゆう社會の生產樣式の上に立つた思想があつた。又そうゆう社會生活の變轉に依據して、上層文化である建築も全く異つた樣式へと展開したのである（拙稿●『建築意匠の研究』インターナショナル

建築所載參照を得れば幸甚)

工藝に對するモリアム・モリスの見解は、現にウヰンナウエルクシュテツテに於て、ホフマン教授等によつて擴大され展開されて來た。又ウヰナセセツシヨンは新興建築の土壤となり表現派、構成派、シカゴ派、オランダ新建築等を培ひ、その母體からは、更に新な個體としての新建築の實行を見たのである。日本建築史上では、寧樂期から弘仁期の間と、藤原期から鎌倉期の間に著しい樣式の展開を見る。それ等はすべて社會の著しい變化から初まつてゐる。一つの文化の傾向が高潮すると、必ず對蹠的な他の動向が生れて來る。その變化は矛盾を孕むのが常でありそれが眞の姿である。

斯く觀る私の態度も一九二九年の思想である。



觀外面正場技競ーピークク園花　　設計者　中尾保氏

3・新興建築が美術、文學の評壇に登場して、時に王座を占めたかの觀を抱かしめられたのは、一九二九年の特異な現象であり、我々にとつては、同慶でもあり、面はゆくもあり、樣々の感情に襲はれたことであつた。

新居格氏、大宅壯一氏、板垣鷹穗氏、土田杏村氏、村山知義氏、朝日の仲田氏等々文壇の諸氏のまなこは期せずして建築に向けられ國際文化、近代生活、文學時代、アルト、思想、若草新興藝術等の雜誌又は新聞紙を賑はせたことであつた。

こんなことは日本の建築界にとつては初めての現象である。

何がそれ程、建築にまで興味を惹いたのであらうか。

口火は板垣氏の四月思想再刊號に於ける『機械文明と現代美術』によつて切られた樣に見えるけれども、時代人の要求する美は或は快適なるものは、すでに機械的な新興建築に充分熟してゐたと云ふことが時季に投合したものである。それ等は輕い意味のモダニズムであり、機械のロマンチシズムの橫行となる原因であつた。世界の生產形式の過程は將にそうしたモガ、モボ、硝子遊戲の家を生むべく民衆を意識づけてゐた時である。

けれども此等の新興建築に對する作家の態度にも二つの方面が明かになつて來た。一つはコルビュジエ等の純粹派に共鳴する純機能主義であり、他はウヰナウエルクシュテツテの主張にも共鳴し得る新しいロマンチシズムの傾向である。

前者にもロマンチケルな部分もあり、後者にも機械機能的な要素を含むものであるけれごも、大まかに見て此二つの潮流を識別することは可能である。

グロピウス等の中心となつてゐるバウハウスが方針とする所は、前者に近く、純然たる工學的現代理智主義のテーゼに動いてゐる。

ウヰナウエルクシュテツテは、先にも云つた通り、モリアム・モリスの思想を引き、藝術的大衆敎化の理想を持つてゐる。

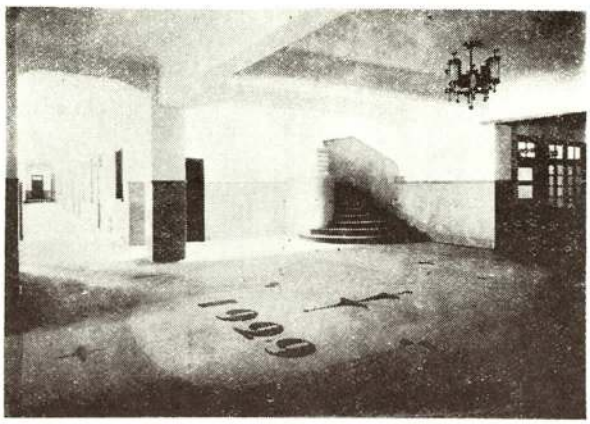
前者は冷硬銳俐であるのに對して後者は、溫かく明朗な中に、藝術的香氣を含む。

ライト・メンデルゾーン等も後者に稍近くその思想的背景を置いてゐるかに覗はれる。

前者が冷硬な銳さによつてはつきりと單純であるのに對し後者は文樣細部に斷截的な區切りが表れない。

そうゆう二つの流れは同時に日本に影響し混合し、時に融合しつゝ、動いて來たことは一九二九年の思想界の反映でもある。且つその動きは目ざましかつた。東京と大阪の新建築、新橋梁の意匠は殆どその影響をうけた。

勿論、昭和前、大正年中から分離派(ウヰナセセツシヨンとは全々別のものであることは當時、同



甲陽中學校ホール（築新）　設計　竹中工務店

流の新建築傾向と、ライト・メンデルゾーン等の手法の移入は、結果の良否はともあれ、日本の都市に一つの活氣を與へたことは事實であつた。

その思想的根據の如何よりも、物稀らしい刺戟は現代都市民の感情をゆり動かさねば置かなかつた。そしてその結果は新味を出すと云ふことの技巧に走るべく思想的考査をすてゝ、世に迎合する安易な方法を遂ふたが爲に、謂ふ所の、モダン建築の簇生となり、意味のない硝子の濫用となり、理由のない直線交錯等、あらゆるのんきなモダニズムの亂舞が建築の特異現象となつた。板垣氏の云ふガラスのロマンチシズムである。しかし、それも必然の現象である。それはやがて洗鍊され、正當な建築への礎石となることは明かであるからである。その曙光は一九二九年から、見え初めてゐる。

コルビュジエの著書は此年に盛に譯出された。それは文壇を刺激した。先にも云つた文壇で取扱つた建築論の多くは、單なる機械的モダニズムの禮讃か、所謂都市主義（ウルバニズム）への憧憬的讃辭の域を脫してゐなかつた。

板垣氏のものは美術史的叙述であり、上田氏、仲田氏等の見解は建築そのものを一つの觀念論的に見た點に當爲的なものを見出し得なかつたことは、氏等が技術者でない點に殘念な所がある。

村山氏のは機能主義の高揚であり、近く氏が作られた素人作としての美粧院はその理論とは反對を行つたモダンマンネリズムの誇張に陷つてゐることも殘念な一つ。

時に又、コルビュジエに心粹の餘り、コル病患者となる血の氣の多い先生も現れたであらうことも一九二九年の現象である。

けれどもそれも、コルビュジエを正しく評價すべき一つの社會的道程であるからには止むを得ない。

ツェツペリンが飛んだと同樣に建築思想は國際化する、と同時に日本の風土的特異性に關する自覺的研究が進められつゝあり、それから、感情生活の上に組織される美術の形式にも眞面目な反省が向けられつゝある時代となつた。

此點に就いては、京都大學の藤井厚二氏の新著『日本の住宅』に於ける濕度の研究は一九二九年度の特筆すべき獲物であらう。

著書としては、板垣鷹穗氏の『國民文化繁榮期の歐洲畫界』は同氏一流の研究によつて近代建築史の發展を外面的に覗ふには好箇のものであつた。

5・ 美術の機械化、建築の機能主義、それは此年度に數多くの論者から繰返し聞かされたテーマである。此主張は一九二九年の建築界の中心思想であつた。そして此國際化しつゝある思想はどう發展し、建築の實體に具體化されてゆくであらうか。此設問に對して一つの當爲的な指示が爲されなければならぬ。

此新しき建築思想は日本の風土に反省を爲しつゝ健全な國際的發展を建築に現はしつゝあるのであるが、それが社會に如何に容れられつゝあるかの現狀を知ることに於て、その將來への動向、當爲を察知しなければならない。

新しい思想が、社會に入れられ

4・ 數年前から混入した二潮流の新建築傾向と、ライト・メンデルゾーン等の手法の移入は、結果の良否はともあれ、日本の都市に一つの活氣を與へたことは事實であつた。

その思想的根據の如何よりも、物稀らしい刺戟は現代都市民の感情をゆり動かさねば置かなかつた。そしてその結果は新味を出すと云ふことの技巧に走るべく思想的考査をすてゝ、世に迎合する安易な方法を遂ふたが爲に、謂ふ所の、モダン建築の簇生となり、意味のない硝子の濫用となり、理由のない直線交錯等、あらゆるのんきなモダニズムの亂舞が建築の特異現象となつた。板垣氏の云ふガラスのロマンチシズムである。しかし、それも必然の現象である。それはやがて洗鍊され、正當な建築への礎石となることは明かであるからである。その曙光は一九二九年から、見え初めてゐる。

コルビュジエの著書は此年に盛に譯出された。それは文壇を刺激した。先にも云つた文壇で取扱つ會々員の聲明をきいてゐる。）としての新興建築運動があり、創宇社の活動があり、共に建築を藝術として見た一種の文化運動ではあつたけれども、今日一九二九年から顧ると、夫々に新しき氣運への發動機となつてゐたのである。

以上二つの潮流が共に揚棄されて、更に展開することは一九三〇年の建築思想に鮮かであらうと考へられる。

4・ 數年前から混入した二潮流の新建築傾向と、ライト・メンデルゾーン等の手法の移入は、結果の良否はともあれ、日本の都市に一つの活氣を與へたことは事實であつた。

その思想的根據の如何よりも、物稀らしい刺戟は現代都市民の感情をゆり動かさねば置かなかつた。そしてその結果は新味を出すと云ふことの技巧に走るべく思想的考査をすてゝ、世に迎合する安易な方法を遂ふたが爲に、謂ふ所の、モダン建築の簇生となり、意味のない硝子の濫用となり、理由のない直線交錯等、あらゆるのんきなモダニズムの亂舞が建築の特異現象となつた。板垣氏の云ふガラスのロマンチシズムである。しかし、それも必然の現象である。それはやがて洗鍊され、正當な建築への礎石となることは明かであるからである。その曙光は一九二九年から、見え初めてゐる。

コルビュジエの著書は此年に盛に譯出された。それは文壇を刺激した。先にも云つた文壇で取扱つた建築論の多くは、單なる機械的モダニズムの禮讃か、所謂都市主義（ウルバニズム）への憧憬的讃辭の域を脫してゐなかつた。

板垣氏のものは美術史的叙述であり、上田氏、仲田氏等の見解は建築そのものを一つの觀念論的に見た點に當爲的なものを見出し得なかつたことは、氏等が技術者でない點に殘念な所がある。

村山氏のは機能主義の高揚であり、近く氏が作られた素人作としての美粧院はその理論とは反對を行つたモダンマンネリズムの誇張に陷つてゐることも殘念な一つ。

時に又、コルビュジエに心粹の餘り、コル病患者となる血の氣の多い先生も現れたであらうことも一九二九年の現象である。

けれどもそれも、コルビュジエを正しく評價すべき一つの社會的道程であるからには止むを得ない。

ツェツペリンが飛んだと同樣に建築思想は國際化する、と同時に日本の風土的特異性に關する自覺的研究が進められつゝあり、それから、感情生活の上に組織される美術の形式にも眞面目な反省が向けられつゝある時代となつた。

此點に就いては、京都大學の藤井厚二氏の新著『日本の住宅』に於ける濕度の研究は一九二九年度の特筆すべき獲物であらう。

著書としては、板垣鷹穗氏の『國民文化繁榮期の歐洲畫界』は同氏一流の研究によつて近代建築史の發展を外面的に覗ふには好箇のものであつた。

5・ 美術の機械化、建築の機能主義、それは此年度に數多くの論者から繰返し聞かされたテーマである。此主張は一九二九年の建築界の中心思想であつた。そして此國際化しつゝある思想はどう發展し、建築の實體に具體化されてゆくであらうか。此設問に對して一つの當爲的な指示が爲されなければならぬ。

此新しき建築思想は日本の風土に反省を爲しつゝ健全な國際的發展を建築に現はしつゝあるのであるが、それが社會に如何に容れられつゝあるかの現狀を知ることに於て、その將來への動向、當爲を察知しなければならない。

新しい思想が、社會に入れられ

る順序過程を、森戸辰男氏はそのイデオロギー觀に於て、次の樣に擧げて居られる。

(1)默殺、(2)嘲笑、(3)排擊、(4)降服、

そして、その降服の中には、新思想を初めから自己のものであつたかの如く裝ひ、いつの間にか反對物に轉化しやうとするものも現れると云ふことが述べられてゐる。

之は社會的階級觀念に就ての考察論究であるけれども、日本の否世界の新しい建築思想の發展の上にも同じことが考へられるのではなからうか。

私は、前に云つた新建築思潮の二つの流れの混入についても、此發展の過程が、大正時代即ち分離派の頃から、現代一九三〇年の間に充分に認められると思ふ。

では假りに、森戸氏の此の一つの引例に從つて見て、一九二九年の建築思想は何の邊の過程にあつたかと云ふに、物により、種類により、人によつて夫々差はあるが大體に於て、

(3)と(4)との間に、即ち排擊と降服との間にあつたと見られてもよくはないだらうか。且つ又その狀態は一九三〇年以後も相當につゞいてゆくであらうと考へる。

6・嘗て、村山知義氏は建築新潮誌上で、白木屋と武藏野館を評した際、日本の建築家の社會意識の低いことを論難された。之も一九二九年度の思想上の問題となり、藏田周忠氏は之に反對の論を『國際建築』に書かれた。或は新名種夫氏もそれに就て『インターナショナル建築』に、建築と社會意識の問題を書かれた。藏田氏の辯は、社會意識が高いからとてそれがどう建築と結びつかれるかと云ふ疑惑を提出してゐる。新名氏のは社會意識が生產諸關係に依存するからには、建築もそれ等の上に依據し、又社會意識の確立にまで感情を組織せしめるものとして建築を取扱ふと云ふ見解であつた。いづれも、新しい建築思想の上での論爭であり、主張であり、反動的なるものとの關係に於ての論爭ではない。

しかし、社會意識が低いと云はれたことを靜かに反省するならば、くやしがる前に、それがほんこうであるのを、認めざるを得ないではないか。社會意識は單なる感情上の斷片ではなく、思想であり、生活實踐の上に築かれるイデオロギーである。且つ、現在に展開しつゝある現實の意識なのだ。それについて鈍感である程、建築家は、生存上惠まれた存在か如何か。そうでないとすると自覺のない非生產的な遊戲的知識階級以外の何物でもないことゝなるが如何だ。

存在せんが爲に媚びることを唯一の手段として、それが一般建築家の生活指導原理となつてゐる樣では、甚だ殘念ながら、村山氏の論難は、茲には甘受しなければならないのである。

では、何故そうゆうことが、建築に現れるかと云ふと、意匠の過程に於ける意識はそこから發生、發展し、又個人としての作家の背景である建築界、或は社會の意識を反映するからである。現代の社會相の全的反映は所謂モダニズムである。此點を揚棄することに建築家の社會意識の向上が望まれもし、必要でもあるのだ。

新建築として一九二九年に居ずまいを直して建ち上つたもの丶多くは、未だモダン・マンネリズムから一歩も出てゐない。歐米に於てすらそうである。

最近オランダのウート氏からの書簡にモダン・マンネリズムに飽く迄戰はうと云ふ言葉があつたのを思ひ合せられるからである。

コルビュジエも、民主主義的な思想を脫してゐないと云ふことも論ぜられてゐたのを見た。最近『建築は理論でない。』と叫ばれる。勿論の事だ。建築は文學でもないし哲學でもないし、經濟學や社會政策では無論ない。コルビュジエは能辯に工學であると云つてゐる。けれども、同じ事をひつこく何遍云つても、不感症に等しい作家を呼び覺ますことは出來ないと云ふことを早く覺らないと、建築理論の宣傳に過ぎぬことゝなり、却て正しからざる原因を孕むことゝなる。

7・然らば、建築理論の宣傳は、如何なる動機から爲されるのであらうか。正しからざる原因とは、その動機から決せられる。即ち、社會意識の低いと見なさるゝ

ものへの誇示的な英雄的態度が、餘りにものんきな建築家への反感からか、そうゆう動機は若い建築家の間に間々覗ふことが出來ると思ふが、更にそれは發展性を認めぬ人々の間には感情上の反感となり、小兒病、理論遊戲としての取扱をうけるに終り易いのである。

とは云へ、作家の制作についての態度をはつきりする爲に、その言論を發表することは思想的體系を立つる上に歡迎すべきであり、默々とディティルを弄ぶこと必ずしも至上の道ではない。

寧ろ、それによつて各自は啓發され、反省せしめられ、村山氏からの不快な批評を、美粧院のデザインを景品につけて償却する時が來ることを豫期すべきであらう。

要するに建築家と社會意識の問題が叫ばれたことも一九二九年は長年の太平な變化のない建築界に思想的成長が見え出したことを裏書する。

斯く見ることによつて、一九二九年度の建築界の思想は、時代の實際を直視する樣になり、又一方機械のロマンチシズム、モダンマンネリズムの時代であり、又コルビュジエの思想の觀念化の時代でもあつた。

一九二九年に現れた各種の建築論は、共にアウフヘーベンされて、健康な建築の組織への基本形式が指示される時が來るに違ひない。そして今後の建築家は、封建的なロマンチケルな考を捨てゝ、新しい實踐的なレアリズムに共感する生產者としての自覺に立つであらうと豫期することが出來る。

8・ 再び飜つて、一九二九年の新建築、新工藝を技法的に見ると、バウハウスの影響時代でもあつた。一面又、コルビュジエ時代とも云ひ得る程コルの思想の私淑者があつた。日本の作者、青年でコルの膝下に參ずる者、二三年前からその數を加へ、益々宣傳される爲に、多少のユーモアを用ひて云ふと、一九二九年はコルビュジエ時代であると云ふことになる。一九三〇年はコルビュジエ批判時代であらう。從て、ライトの思想の如きは片隅に押やられ、ウキナウエルクシュテッテの工藝的作品の如きは、親しく研究されてゐない。鐵パイプの椅子の思想の如きはバウハウスから流れて來てゐる。大きい硝子窓の帶も又その類である。衛生機能の偏重觀は、住居を機械から手術室にまで變形した。斯くて機械讃美の思想は、觀念的ロマンチシズムの形式をとり、感傷的北歐樣式の技巧主義と並立したことは日本の一九二九年の建築界の主要色である。

技巧的にはバウハウス病、思想的には觀念的コルビュジエ病、それはその結果である。

コルビュジエは日本の建築家が歐洲建築の模寫を事としてゐるかの樣に語つた。けれども、コルは日本の風土的特異性から發展した傳統を知らない爲に、眞に國際的なる動向と日本的なる要件とを判別出來ぬ弱點がある。此點は、本野精吾氏のインターナショナル建築十二月號以來の論文を參照され度い。コルビュジエの純粹機能主義は正に世界の建築界の尖端ではある。がしかし、日本の新建築は、すでにコルビュジエの機能や、表現形式とは全く方向を變へつゝある。コルビュジエに私淑するも可、コルを揚棄するも尚可、いづれにせよ、一九二九年の人氣中心は、スキスの貴族講家、パリーの住人コルビュジエにあつた。

9・ 『ソウエートの構成主義者キンスブルグは、建築を、構成的、組織的、裝飾的の三つに別け、構成的な建築は階級の擡頭期に、組織的それは成熟期に、裝飾的なそれは頽廢期に現れることを明かにした』と藏原氏が十二月の改造で云はれてゐる。一九二九年度の日本の建築は多くそのいづれに當るだらうか。新興のインターナショナル型と稱せられる建築ですら、その多くは裝飾的であり、非生產的な意識のヒラメキに滿ちてゐると感ぜられるが何うであらうか。

先にも云つたモダンマンネリズムから一步も出ないとすれば、此中の第三に屬すると考へて差支なからうか。そうとすれば逆に生產組織の頽廢期であることを、政界の現狀等を顧みずとも明かに觀取出來るであらう。近代歐洲の構成派、表現派の建築は——セセッション——勿論、構成的(ロシア)か裝飾的(一般歐洲)であり、組織的ではなかつた。

現代新興建築の思想は、組織的建築の提唱である。一九二九年の新興建築は殆ど裝飾的である。コルビュジエの指示する道は組織的へのそれである。無產階級の秩序的、正確、單純な建築への提唱である。けれども一九二九年の日本の建築は、構成主義的外皮を被つた裝飾建築である。船舶に於ては新造船淺間丸を見よ。此矛盾した事實の底には建築家の社會意識に關する原因と、社會的頽廢期と云ふ原因とが潛んでゐるとは見られないのか。

10・　生產組織の頽廢期には裝飾的建築が生れるといふことを請賣りに語つた。けれども社會心理の一面には、迷信的な宗教觀念や、享樂的頽廢趣味が起つて來るのが常にある例である。グロテスクな趣味や、エロティシズムが民衆心理に投合すると云ふ一面がある。

キヤフェ、バーの現狀は此反映である。そのグロテスクはキヤフエから都市全般に擴がり一般建築にも發展する。而して官邸、邸宅にまでモダンマンネリズムを投げかけることは一九二九年度の皮肉である。此、新變態マンネリズムと新興建築の思想とは一般からは全く區別されてゐないで、相反する二つの思想的動向は、ガラスとコンクリートの形式美の中に共に包まれてゐる。その混同の錯覺が一九二九年度の建築界の思想を低迷せしめた一の原因を作つたのも事實である。

11・　もう一つ、日本を離れての問題があるが、それは歐米に於ける住居問題への思想的發展である。借家、借間が建築家の思想に入り込んだことも日本の本年度の新現象である。フランクフルト市の國際住居協會は目覺ましい一つの實例を示してゐる。即ち建築が社會問題、階級問題、と離れては存立し得ない一端を茲に示すものである。

以上、十一項に渉る斷片的な一年間の回顧を以て建築思想界の動きと云ふ設問への解答とする次第である。（一九二九、一二、一、稿）

建築に關する一九二九年度の記事と所載雜誌

（筆者の思付きのまゝに列記す、參考まで）

思想（四月）　映畵と建築　香野雄吉
思想（四月）　機械文明と現代美術　板垣鷹穗
思想（八月）　建築と機械　香野雄吉
思想（八月）　藤井厚二氏の『日本の住宅』　今和二郎
思想（九月）　機械と藝術との交流　板垣鷹穗
國際文化（二月）　建築と建築家　村山知義
國際文化（九月）　ソウエート協同組合中央會館の建築　永田一脩
アルト（六月）　建築造型理論への視點　石原憲治
文學時代（六月）　近代社會に於ける藝術樣式の變遷　大宅壯一
近代生活（五月）　何故に此種のものに牽かるゝか　新居格
近代生活（六月）　建築が機械化しつゝある事實　今和二郎
近代生活（八月）　斷截美學の一提言　新居格
近代生活（八月）　機械と文學其他　石濱知行
若草（十月）　現代都市と建築　板垣鷹穗
アトリエ（五月）　新形態美說　仲田定之助
アトリエ（五月）　最近の藝術に於ける機械美　村山知義
改造（十二月）　新藝術形式の探求へ　藏原惟人
國民新聞（四月）　尖端日本の批判　新居格
大阪朝日新聞（九月廿七日）　流行の批判　土田杏村

其他（著書及建築專門雜誌を略す）

以上



ホテル建築の一考察

古塚正治

概括的に云つて現代の著しき特徴は大衆的傾向の勃興と、それに伴ふ生活の簡易化と云つた方面に於て、うけた建築界の影響、これ程目醒しいものは無い如うに考へられる。勿論近代建築界の變遷には其の他の條件にも支配せられた大きなものもあつたらうし、また斯う云つた影響は必ずしも今日突然的に起つた偶然な問題では無いが年々斯の傾向が顯著になりつゝあることは否めない。殊に茲數年間に日本の社會傾向が建築界の施設に異常なる加速度を以て進出してゐると考へられる。

吾人は恁う云つた影響を本論の說明手段として昭和四年度に於ける我國建築界の概況を纏める一部である『ホテル建築界の一考察』に就いて述べることゝしやう。

□

在來の日本旅館が青年階級と一部上流階級の人達から何とはなしに、おつくうなものゝ如うに考へられ出してからも可なりに久しいことであるが、各地に洋式のホテル建築の必要が叫ばれ、追々と此方面に手がつけられて大衆的な用途に合致して來たのは未だ極く最近のことである。帝都を始め、京都、横濱、神戸、大阪、日光、奈良、箱根、門司其他主なる都市や遊覽地には相當古くからホテルはあつたが、これを利用する階級は稀有な一部特種階級の人達であつたと考へられる。然るに茲數年來、特に關東の大震災をエポックとして其後が急激なる數の增加と大衆的利用の隆昌期に入つたものだと私は考へてゐる。丁度私の設計監督の下に大正十四年度に竣工したる寶塚ホテルの新築以後に於て、全國的にホテルの新築なり改築がなされたものが頗る多い。

それが昭和三年度に到る迄での記憶を辿つて見ても十指を降らぬであらう。けれども尙大衆的であるには相當の距離があつた。しかるに昭和三年度の御大典期の前には東京、京都邊に續々と新築、改築が續いて起つてゐる。これは言葉は適當ではないが、第三者たる私共から見ては恰も御大典を當て込んだかの如うに考へられる、基礎の確實なる傾向とは云ひ難い。次いで來つた昭和四年度を回顧すると其企業の目論みと云ひ、數と云ひ僅かに一ケ年間に實に十數ケ所のレコードを造つた。(此は相當大なる規模のもの丈けに就いてでの話である)そしてホテルが茲に漸く大衆化の目途に近づいて來たと考へ得ることは非常に興味ある昭和四年度であつたと考へしめる。

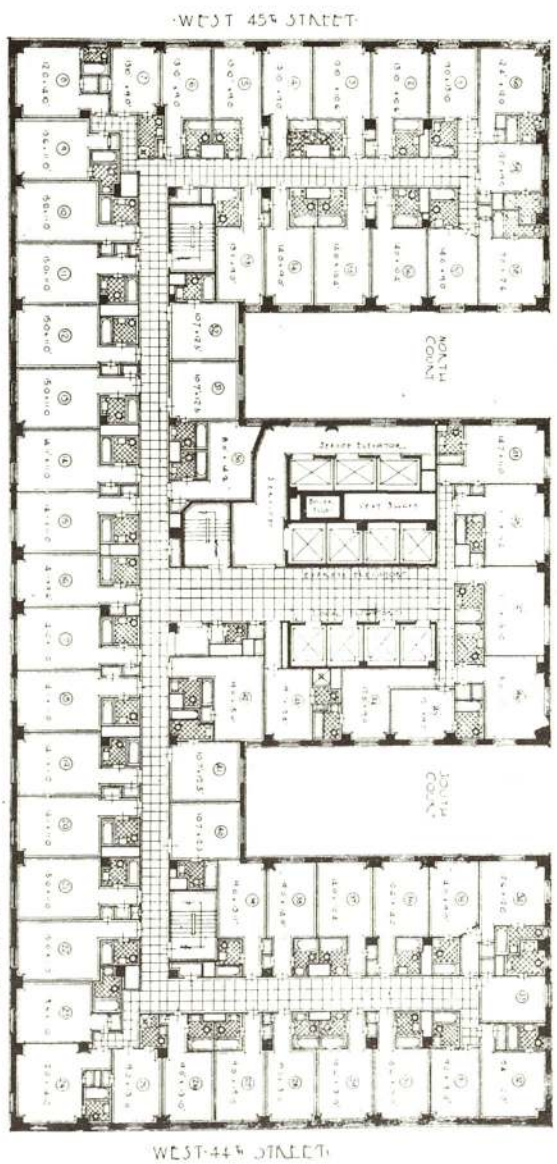
試みに私の知つた範圍に於ける昭和四年度に新築及計畫せられたものに就いて記すれば

甲子園ホテル
(新築中、阪神間上甲子園)
六甲山同 (竣工、同六甲山上)
摩耶山同 (同 同摩耶山上)
高野山同 (計畫)
輕井澤同 (改築計畫)
鎌倉海濱同(同)
雲仙 同 (確か工事中の筈)
高松 同 (計畫)
高知 同 (同)

そうして之等のホテルが此の先如何に實現し如何に利用せられるかは今後を待たなければ批判することは出來ない。

けれども以上の論旨が劃然と建築設計上に現はれて來たことは著しいもので、それは獨り日本の現況計りではない。世界的にも窺はれる現象である。例へば在來の歐洲大陸的なホテル建築では一般にアリストクラチツクな客間がとられたものが多かつた。特種なものには次の間なり、寢室に附隨せるサローンと云つたものを附けるのが普通であつた。然るに最近亞米利加に新築せられる所謂アメリカ

システムのホテルでは客間即ち寢室であつて、アツコモデーション・オンリーに發達しつゝある傾向に進んで來てゐる。第一圖乃至第三圖は先年末及本年度に新開業をなした地方的に主なる三つの代表作として紹介したのであるが、最早や、そこでは歐洲式の平面計畫を持つものは無い。客間は寢室であつて、九尺×十二尺乃至十二尺×十五尺位迄での室が一樣に標準寸法と見られることになつてゐる。



第一圖　アメリカ・ニューヨーク市　ホテル・リンカーン　主要平面圖

これを以て現在日本に於ける新興ホテルの傾向が亞米利加式を模倣してゐるに過ぎないと許りで片付けるには現代社會の思潮を無視することになる。日本現在の社會ではやはり簡易、輕便化に大衆の要求が進行しつゝある結果と見るのが至當であらうと想ふ。

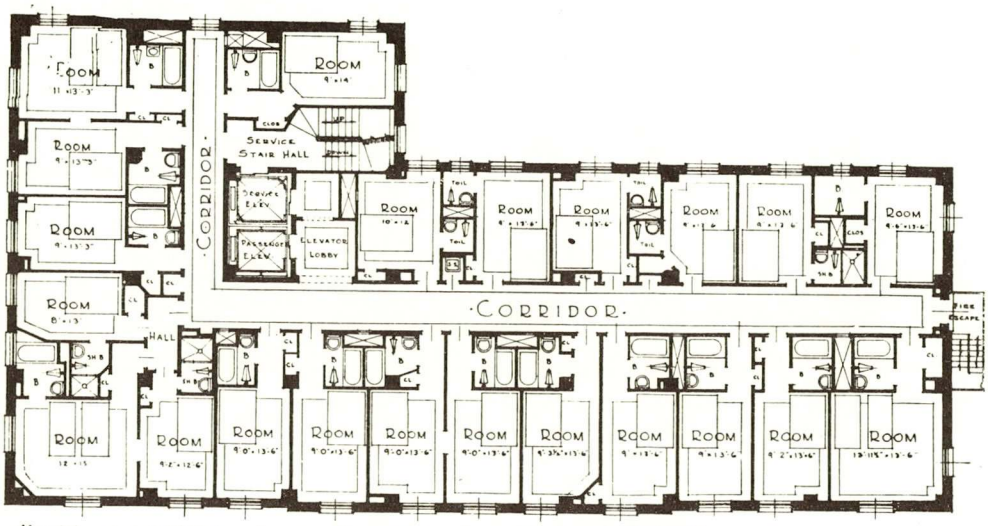
昭和四年度に建築なり計畫なりが進められた日本のホテル建築の總てが私の言ふが如く進められたもの許りとは勿論云ひ難いが、斯種の建築物が大衆的に利用せられなければ將來のホテル經營上には採算的に破產するものであつてホテルの隆昌を見得ないだらうと云ふ考へ方は何れものホテル業者達が殆んど劃一的に考慮せられてゐるところである。

現に關西實業界の先見として經濟界の雄たるK氏（氏の許しを得てゐないから匿名にしておきます）が六甲山ホテル建築に就いて助言せられたところによると、『何ぜ客室をもつと少くして多數の人達に安値に利用して貰ふ如う計畫せなかつた？』と云ふことであつた。勿論必ずしも此ホテルが氏の立論に總てが當てはまるか否かは別に考慮の餘地があるとしても、尚また氏には此立論の根據となるべき幾多の理由もあるには違ひないが何れにしても氏の如き經濟通の先見的見地から將來の日本のホテル傾向に就いて味ふ可き或るものを與へられたことに敬服せざるを得ない。更に最近同氏は現に其の所論に合致した大衆的ホテルの實現に着々其計畫を進められつゝあることを仄聞して愈々吾人の所論に意義のあつた事を嬉ぶ者である。

そこで吾人は論旨を進めて然らばホテル建設の計畫と建築家の考慮すべき二三の事項に就いて說明して此稿を終へやうと想ふ。

□ 建設費の問題

何事によらず企業家として一事業家の日論見には果して其事業が經營後尚買として繼續しゆくか否かの研究である。ホテルの如うなものでは其トータル、インヴエス



第二圖　イオワ州ウオータールー市　ホテル・プレシデント　主要平面圖

メントとトータルインカムの比較研究を第一とする。今私は其の内トータル、インヴエスチメントがチ客室一室當りどれ位かゝるかを例示してみやう。

前揭第一圖はニューヨーク市第八廣路（アヴニユー）の西四十四番街と西四十五番街にあるリンカーン・ホテルで開業は昭和三年一月三十一日。其トータルインヴエスチメントは壹千壹百萬弗、客室數壹千四百室と云ふから一客室當り投資々金は大約七千八百五拾弗位である。

第二圖はイオワ州ウオータールー市のプレシデントホテルで、この街は人口三萬五千人を有する小都市である。昭和四年一月十日開業、其トータルインヴエスチメントは五拾萬弗、客室數壹百五十三室であるから一客室當り投資々金は大約三千貳百六十八弗位になる。

第三圖はアリゾナ州フオエニツク市のホテル、ウエストワード等で開業昭和三年十二月十五日トータルインヴエストメントは二百五拾萬弗、客室三百室であるから一客室當り八千三百三十三弗位となる譯である。

以上は最近北米利加に於て開業せられた三つの代表的ホテルを其所在都市の狀況に應じて例示したもので投資々金と一客室當りの費用の概算であつて、弗を直ちに日本の圓と見れば恰も國情の關係から能く採算關係が了解せられて來る。

日本のホテルでは斯樣な關係を明示することは却つて其會社の狀況に立ち入ることゝなつて嫌はれるから茲では略するが、矢張り採算を主とする事業とすれば一客室當り投資々金は大約三千圓位より一萬圓以下の範圍でなければ事業としては合理的なものでないと云ふことは斷言し得られる如うである。

一寸ことはつておくが、前揭の亞米利加の三ホテルは一階の周圍は商店に貸す設備があり、何れも社交的にも利用し得られるものであり、またリンカーン・ホテルは主として都市の大衆的利用を目的とせるものであり、ウエスト・ホテルはシーズンに東部亞米利加人の利用客を主としたシーズン・ホテルであり、ウオータールー・ホテルは前二者の中間利用を目的とせるものである。

既に米國の如くホテル事業の發達せる國に於てさへ以上の如く比較的經濟的に投資々金が客室當りに投ぜられるに不拘、我國に於ける多くのホテルが比較的多額の費用を投資せる關係上であらうと想ふが、是れ迄での日本のホテルが何うも採算のされたものと云ふのが少く、今ではホテルは社會事業とも考へて少くとも某市あたりは市で何とか後援でもしなくては實現しないと云ふ如うな話を聞いた事があるが、是等の說が若し眞なりとせば市民を愚にせるも甚だしい俊言であつて、この言を爲す者の爲めになさんとする言であると云ふも過言ではない。

大分建築家の立場から離れて行つたが、再び立ち歸つて本論に入らう。

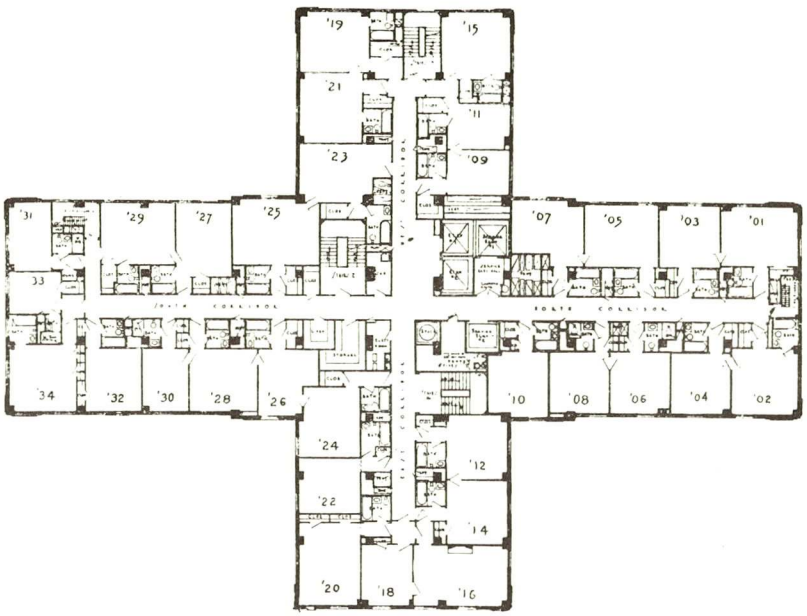
營業目標と其計畫方針

ホテルは其の營業の目標とするところに從つて自ら種類を生じやうと考へる。(一)社交を主とせるもの。(二)旅宿を主とせるもの。(三)月宿を主とせるもの。(四)遊興地及季節を主とせるもの等の區別である。

是等の區別は判然こあることもあるが、二つ以上の目標がミツクスして其ホテル營業の意義となるものがあつて、其の目標により計畫上の根本研究も相當違つて來る。大衆の旅宿を目標とせるホテルでは前揭せる九尺×十二尺乃至十二尺×十五尺位のホテルルームスと云つた範圍が標準客室となつて來やうと想ふ。そこでは客室は寢室としての用途に充分であれば足れりと云ふことになる代りに、ローンジュなりサローンなりが投宿客の共用應接室であり、共用の事務室ともなるのであるから其設備なり廣さが夫れを辨ずるに充分であることが必要である。其代りに第一の種類の様に、ローンジュに附隨して尙幾つかのパーラー等の設備は必要でない。第三の種類のものではさ迄でリツチなローンジュの必要がないこ云ふ様な結果になつて來るだらうと考へる。

一般に現在の日本では斯う云つた廣間の大きい事が無駄の如うに考へられる。業者間では之に充分の費用と設備を施すことは入れられ難い傾向もある如うではあるが、實際ホテルの目的を充分に發揮し、客に充分の利用をなさしむる爲めにはホテルが投宿客の單なる寢所であり夜の休所に止まる在來の日本宿屋式である丈けでは將來の發展は望み難い。幸ひにして吾人が設計の依賴をうけたる寶塚ホテルなり、六甲山ホテルは其の目的と規模の割合に比較的充分なる廣間の設備が許されたことが、今日兩ホテルを利用せられる客人にとつて何んなにか有川に働いてゐるか解らない。然も設計者の立場から採算を度外視して云ふなれば尙今一つ宛位のパーラーの設備が欲しいとさへ考へしめられる。現存せる二三のホテル實例に就いて申上ぐるなれば、東京丸ノ內ホテルなり、昭和三年度に竣工したる京都驛前のステーション・ホテル、寶塚の舊溫泉の間貸し制度と云つたものが大衆的傾向のホテルこしての代表的なものであり、東京の帝國ホテルや京都の都ホテル昭和四年度に於ける甲子園ホテル等は主として第一の種類に主なる目標がおかれてゐるものであらうこ考へる。(甲子園ホテルは未だ開業に到つてゐないし、其の內容計畫等に就いても詳細を調査してゐないので右の如く考へたことに大なる誤謬があれば御寬怒を乞ふここにお願ひする)更に、六甲山ホテルなり、雲仙ホテルは單にシーズン・ホテルとして別個の解釋を附すべきであらうと考へる。

大體に於て右の如うな平面計畫の他に、未だ日本人の趣味性なり、利用の目的によつては、ホテル・ルームに日本間をとる必要がある如



第三圖　アリゾナ州フオエニツクス市　ホテル・ウエストワード　主要平面圖

うではあるが、これは過渡期のホテルとしてはまた已むを得ないことであらうと想ふ。或はまた、近時のアメリカに於けるホテルの新築せられるものの傾向として總ての客室がバス・ルームを附隨してゐると云ふことが一つの新興ホテルと云ふ標準であるかの如うな傾向にあるが、これは現今の亞米利加としては其財的天惠の然らしむるものであつて、必ずしも日本の現在なり近き將來に來るべき傾向とは云ひ難い。

設備方面を考へても、ルームのドアーに、サービス・ドアーや、ヴエンタ・ドアー等が亞米利加の流行ドアーである如うであるが、之亦日本の財の程度に何れ程迄利用し得られるかゞ考慮のものである。

外觀に到つては一定せる論議は更になすの余地はない、殊に日本の國情として一定の方針に總ての建築家の立場が確定せられてゐない今日であるから他日に再び研究の余地を遺しておこう。其他の衛生設備なりの傾向は最新科學の許容し得る總ての滿足を充すことに一樣に進んでゐると考へられる。



長屋建築の現在と將來

葛野壯一郎

近頃痛快を感ずる問題は家賃の値下げ問題で有と自分は考へる。『痛快を感ずる』などと云ふと、家主諸君から或はとんだお眼玉を頂戴するかも知れないので有るが、さし當り適當な言葉が見當せないために左樣言つたまでゞ、大して深い意味があるのではない。只左樣いふより他に適當な言葉が見當らないのである。

家賃値下げ問題が突然として起り、それが急速に多方面に飛火してそこにもこゝにも問題を起して、家主諸君の一方ならぬ頭痛の種となつて居る事實は、新聞が傳へて居るよりは一層深刻の樣に見受けられる。或る方面では恩惠的な五分とか一割などいふ割引案には滿足しないで、全然問題の徹底的の解決を得るまで不拂同盟を決議したといふやうな話も耳にして居る。家賃問題に最も關係の深い土地協會の如き、去る十一月以來特に此問題を重要視して特別委員會を設け、これに對する對抗策だの當局に對する陳情などゝ、さわいで居られるに徹しても一通りでは無い事が察せられる。或は問題が意外の點まで波及して由々しき社會問題をひき起すのではないかとも想像せられるので有る。

◇

論ずるまでも無く都會に於ける居住者の大部分、九十パーセントまでは借家人でありたゞへ一錢でも家賃の安價な事を熱望する人達である。日常生活費の重要なる部分が家賃として家主に提供を餘儀なくされるので有るから、其輕減はあらゆる場合を通じて常に考慮せられ、またせられなければならぬ當然の事である。考へないといへばそれはうそである。それが一朝機會を得て家賃値下げの問題に對し團結し協定し家主に當るといふ事に何の不思議があらうか、私は寧ろ今日まで比較的平穩無事に過ぎて來た事を變則に考へて居る一人である。

つい此春と云つても此稿が讀者に讀まるゝ頃には去年の春と云はなければなるまいが、私は或る大家主と會談した時、今日にして家主諸君が時代の傾向に觀て寧ろ進んで其尖端に立ち、借家經營の改良と合理化を圖る必要があるのでは無いかと進言したが、その人の答へには『今日まで無事にかうして濟んで來て居るのだから』といふ頗る袖にし切らない返事で有つた。恐らくは大多數の家主諸君のお考へは、一樣にすべて此通りであるのでは無いかと私には思はれ

るのである。

『今日まで無事にすんで來て居るのであるから』とは何といふ呑氣な考方ではあるまいか。地方の地主がやはり左樣した考へ方であつたために、年々各處に小作爭議を起して虐められるだけ虐められて居られるではないか。まことに同情に値する事のやうにも考へられるが、一面時代の變遷に對する無理解から遂にかうした破目に陷るのは已を得ない事かと思はれる。地主のお鉢がそろ〳〵家主に廻つて來たのでは有るまいか。一人と一人の場合には裁判所の調停で今日まで片付いて來て居るやうである。しかし團體と一人の場合は左樣簡單には行かないものゝやうに想像せられる　殊に從來調停されて來た借家人對家主の爭議なるものが、十中八九までは家主側の讓歩、泣きね入りに終つて居るやうに聞いて居る。これでは調停ではなくて家主諸君の屈服に他ないと私は考へるものである。

◇

團體の力の恐ろしい事は是亦改めて言ふまでもない。時には非を理で通すやうな場合も出來る。數を以て制するものは理想かも知れないが多數にも其頭の如何が問題であつて、亂暴な多數にかゝつては何うする事も出來ないのである。十人の內に八人までが惡人で殘りの二人が善人の場合、多數決を原則とするならば惡人が榮えるに何等不合理が無いことになりはしないか。家主諸君は何と言つても小數である。小數の家主諸君がいくら聲をからして大聲叱呼してみても、其時期を逸すれば何うする事も出來ないやうな破目となるので有る。

吹けば飛ぶやうな長屋普請をして、二ケ年半か三年も家賃を取れば建築資金を償却するといつた風のやり方が普通の借家經營の方法だと聞いて居る。元金をこつくの昔に償却してしまつてあとは僅少な地代だけのものに、依然として相當な家賃を課するといふ事が暴利でなくて何であらうか　一般に木造建築の壽命といつたものは先ず三十年位と考へてよい。たしか法律上もそんな風に決められて居るやうに記憶する。當然三十年といふ相當長い期間に償却すべき建築資金を僅々二年半や三年で片附けやうなどとは、餘りに虫のよい話ではないかと思はるゝので有る。

又家といふものは三十年を經ても全然無くなるものでは無い。手入さへよければ五十年が八十年でも保存し利用せられる。三十年後の借家から得られる利益は意外に多いものと考へても異議はないやうである。借家經營の有利な點はこゝにあつて、一時的投機的の仕事ではなく寧ろ子孫のためにはかる氣の長い性質をもつた永久的のものでは有るまいか。

◇

よく土地の値上りが家賃に計上せられる事實をも見受ける。建築當初は殆んど問題にもならなかつた地代が、四十年五十年後の今日坪百五十圓とか二百圓或は三百圓の値うちのものと變つて來る。かうした土地の自然增價を當然の利得として此金利何程と是を家賃の上に算定して、自分の借家がいかにも安くて引合ぬものであると言ふやうな泣言も度々聞かされる。元々安い金で買つたものが現在數十倍の價格を持つといふ其事自體が、すでに莫大な利益ではないか。しかもそれを何等建築に改良をも加へずして、今日買入れた土地と同じやうな利益を得やうとするのは、是亦隨分と虫のよい採算のやうに私には感ぜられるので有る。

大阪市內にあつても場末よりは却つて中心の船場、島の內方面の借家が、著しく家賃の割合が安い。是れは言ふまでもなく今の大阪市とはまるで違つた數十年前の大阪市の事情に應じて經營せられたからで有る。一通りの値上げはしても他の場末の新らしいものと一列に行かないのは當然で、割合に家賃が安いからといつて、それが不思議でも恩惠でもないので有る。元來が數百圓と著しく土地の經濟的利用價値を持つて居る場所に、數十年或は百年近くも以前の經營を其儘ぢつと放つて置くのが間違ひで有る。現在大阪の中心地に於ける借家は、年二分或は三分位の殆んど問題にもならない利廻りであると聞いて居るが、しかし私から考へるとたとへ二分でも三分でも利益があるといふのが不思議に思はれる位で有る。

家賃を取る限り其家賃の中には相當修繕費も見込まれて有る筈であるが、近年一般家主は其借家の修繕をしないといふのが通則らしい。たまに疊の表換へでもして呉れゝば、非常な名家主の如く言はれる事實にみても左樣なことが想像せられる。これは工手間や材料が騰貴した結果、一寸手を入れると直ちに一ケ月位の家賃は飛んで了ふからといふのが家主諸君の意見じやないかと考へる。其通りである。しかし一ケ月位の家賃がとんだからとてそれが何であらうか、家賃の一割乃至一割五分位の修繕費を見込むのは當然であり、又建築殊に木造建築の通有性としてそれ位の修理は年々必要とするので有る。假りに月二十圓の家賃とし其一割五分月三圓を修繕費とするならば、年額三十六圓で一通りのつくろひは出來やうといふものじやないか。それを怠つてやらないといふのは非難されてもしかたのない事である。是れはたしかに家主の高慢では有るまいか。

◇

所謂敷金についてもだん〳〵意見があるやうだ。少なくとも三ケ月多きは六ケ月を提供さして、何年置いても一厘の利子も拂ひ戻すのではない。しかも家主の方では是れを金庫の底にしまつて置くやうなお人よしはなく、相當な利廻りをはかつて、たゞへ僅かとは言へ家賃の外に敷金の金利を盜んで居ることになりはしないか。由來大阪には悪い習慣があつて、借家人が半歳とか一年以内に移轉するやうな場合は、敷金の何割かを引き去る等といふ事實があつたが、現在は一さかそんなのは有るまいと思ふ。要するに何らに轉んでも損をしまいといふのが家主氣質とでも言ふ可きであらう。

借家人の方にも隨分と質の悪いのが有る事は勿論である。家賃も支拂はずと云つて家の明渡しもせず何時までも居据つて落附かれてはたまつたものではない。住は人間生活の最重要な要素であるだけにまさか暴力に訴へて叩き出す譯に行かない事は勿論で有る。家主が正直で眞面目であればあるだけかういふ御連中を警戒されるのは當然である。斯うした極端な例はしばらく別としても、一般に借家人が其借つて居る家に對して、まことに不親切極まる取扱をする向の多い事も注意すべきであらう。家が何うならうとも元々家主のものだといふので、若しそれが自分の所有物ならばめつたにやらない樣なことを平氣でやる。かういふ御連中にかゝつては家主の方も云はれる通りの修繕など到底出來たものではない。同じ暮すならば氣持ちよく綺麗に暮すのが得では有るまいか、家を大切にするといふ事は家主の利益即借家人の利益である事が判りさうなもので有る。

◇

建物も衣類もよく似たもので保管がよいと隨分と長く持つものが保管の悪いために其壽命を早める場合が隨分と多いのである。家の壽命が長くもてばもつだけ家主の方にも大變な利益が有るので有るから家賃の割引をしてよい理窟である。借家人の方にしても綺麗な家に安く住める、これ程双方に利益はないのであるがさて實際問題としては何うも左樣は行かないやうで有る。

先年私がある借家經營に參與して居た場合、アメリカに在つた一例に觀て家を大切にして呉れる借家人には、年末十二月の家賃の割引或は全免を策した事がある。同時に借りられたものでも、其住む人の家族の頭數や小供の有無、殊に主婦の心掛如何によつて甲は一年たつかたゝぬに疊の表換襖の張換壁の修理と甚しく荒らされるに對して、乙は反對に三年も平氣で疊の破れないやうな事實は珍らしくない。是れを何等かの方法で表彰するのは當然の事であり、又つとめて家を愛する善良な習慣の養成にも資するのではないかと考へたからである。

誰れから聞かれても理想としては誠に結構であるがさて是を實施してみると中々考へたやうには行はれない。第一審査が面倒である。同じやうな程度のものが幾つも出て來て採否にこまつた許りでなく、一方を表彰するのは隣り近所に却つて一種の反感を起させるやうな懸念もあつたやうである。結局實行だけはしてみたがはか〴〵しい効果をあげるまでに至らずして中止をしたと記憶する。

一向書ふと思つて居る本文にう

つる前につい前置が長くなつて何所らが私の書ふとしたところだかわからなくなつたが、要するに借家經營の重要な考察としては建築の改良と家賃の合理的算定如何といふ事である。

◇

昨年吾が建築協會で長家建築案の懸賞募集があり自分も其審査員の一人とし多數の圖案を拜見したが、正直なところ是れこそはと思はれるものは一つも見當らなかつた。設計の根本に兎角在來の型がこびりついて、借りる方からの立前としてと云つた様な希望があつたやうだが、成程と感ぜられるやうなのを見受けなかつたのを遺憾とする。若し出來るならばかうした計畫を幾回かくりかへしたならば、其内には珍らしい妙案も出て來るのじやないか。一流の大家がさういふ方面に努力し、家主諸君も從來しきたりの頭をすつかり改めて新工夫につとむ可きである。借家建築の改良は先ず『家主の頭の改造から』是非出發したい。

長屋建築の要領として其考案の骨子となるべき點は、此種類の建築の兎角おちいり易い平調を破つて變化を與へ、其居住者に一つ一つ自分の家といふ印象をはつきりさせる事である。醉つぱらつて歸つて來て隣りの家に戸迷ひし其家の妻君に面くらわせた例はあまり珍らしい事ではない。實際十軒も十五軒も並んで居ると何れが自分の家だか私のやうなそつかしい者には間違へそうで仕方がない。日本だけかと思ふと西洋にもこんな例はあるらしく、引越し早々小供が外に遊びに出たのはよいが、さて歸らうと思つて自分の家をさがしたが何れが左様やら分らなくてとう〳〵往來の眞中で泣出したといふ話しが何かの本に書かれて居た事を記臆する。單調といふ事實程人間の心を怠屈にするものはない。長屋建築考案の一番大切な點は此外にはないと私は信ずる。

一列の長屋建築であつて、上階と下階と全然居住者を異にし、上階の居住者は直接道路に面する階段によつて下階の居住者を煩す事なしに出入りの出來るのも面白いと思ふ。かういふ例は歐米には珍らしくないが吾が邦では未だあまり見當らない。普通二階建の長屋としても其居住者が特に家族の多い場合の外は、事實あまり二階は利用せられないのである。大して利用もしない二階のために二十圓ですむ家賃を三十圓拂ふのは愚な話しである。不用な二階を他の人に貸すといふのが殆んど一般的のやうに見受けられるが、本來家の中にさう手輕に他人は住まはせる可きものではないのである。

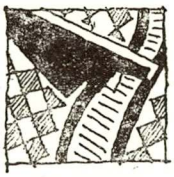
◇

追々とアパートメント式のものも吾が都市に發達す可きは勿論であるが、是れは比較的地價の高い處に適するので、ずつと場末や郊外にわざ〳〵苦しんでアパートメント式のものを造る必要はないと思はれる。尤も米國の都市では郊外アパートメントも相當發達して居る向もあるが、これは彼我事情を異にする點もあり直ちに吾が邦にも其通りとは考へられないのである。英國や北歐の一部にドツペルストツクウオーヌンゲン等と稱して、在來のアパートメントの式を破つて二階造の長屋建を幾層にも積み重ねた式などの見えるのは特に考慮を要する點ではなからうかと思はれる。是れは横に延びる長屋造を更らに上の方へも延したもので、吾が國情に觀て或は一層其應用の廣いものでは無いかと考へられるのである。

二戸建のものを前後左右に面白く組み合せるのも一方法である。ハーグにあるものに頗る巧みに出來たものがあつたと記臆する。二戸建を單純に並べるかわりに、前と後と互に千鳥に面白く組み合せて共單調が巧みに破られて居る。建物の軸を街路に四十五度にとり菱形に一列の家を組み合せたもの等もある。如何にして長屋建の單調を破り出來るだけ一戸建と同じ様な採光通風の便を得るものにしやうと云ふのが斯種の建築考案の根本骨子となつて居るので有る。

家賃の合理的算定といふ事は考へ様によつては隨分とむつかしいもののやうである。つい近頃も或る家主と共話をした事であつたがそれは非常にむつかしいと云はれる。或はその通りであるかも知れないが、しかしむつかしいからと言つて捨て置く可きものではなく、合理的算定によつてこそ初めて家賃の高低もはつきりし、不合理な値下け問題なども一蹴し得るのではなからうか。之は特に貸家經營者の考慮を煩したいと思ふ點である。

（完）



偶感

石本喜久治

一體に過去を顧ることの嫌ひな私として、建築界本年中の歩みが如何であつたかを考へるのはやはりあまり好ましくないし、實際の仕事に追はれてゐるものとしてはさうした氣持ちにもなれない。何でもかんでもしやにむに成長してゆかなければならない子供にさうした心境は求められないものである。私は止に建築界の子供で自分に關係してゐる仕事の範圍に於てはたゞ〳〵進むことを知るのみで假令失敗やつまづきがあつてもそれは何等自分を煩はさないし、世間も問題にはすまいと思ふ。若し自分のした仕事に就いてとかくの批評があるならそれはその人達の勝手で自分には毫も意とするに足らないところであり、又若し何等かのおほめにあづかつたとしても當然の發達でいさゝかも自負する筋合でもない。

これをもつと大きく押し擴めて云ふならば私の考へとしてはわが國、のみならず全世界はまだやつと近世建築の孤々の聲をあげたばかりで、もう少しおまけをすればやつと這ひ出したか立ちかけたばかりでまだ〳〵倒れたりころんだりしてゐる最中ではなからうか。それが一かどの大人のつもりでゐるから大間違ひだ。如何にも目もあり鼻もあり手足も揃つてゐるから、大人と異るところのないやうに見えてもそれは形の上だけで、近世建築の赤ちやんがクラシクのおぢいさんや、ゴシツクのおぢさんの眞似をして泣いたり笑つたりしてゐるのは滑稽の他はない。

◇

生はんかな理論や、一人よがりの見えもたゞそれだけでは有難くも面白くもないのだが、さうかうしながら大きくなるところに意味もあり、價値もある。今日の建築界に一世を風靡する定說や、萬人の據るべき樣式のないのを責めるのは子供の思想や生活に動きのないことを求めるのと同じ愚ではないか。大いに動き、變るところに發達があり進歩がある。近世建築はまだ〳〵安住のところに到つてゐない。そこにわれ〳〵の生がひがあり、興奮がある。われ〳〵はまだ定說や樣式を求めてはならない。吾々は過去を顧る必要は少しもない。立ち止つてはならない。ただ前進あるのみ。出來ることなら理窟ぬきにわき目を振らず自分〳〵の獨特の道をひたすらに進みたいものである。それが期せずして一つの理論を生み一つの樣式となるところにほんとうの成長があり、近世建築は立派な一人前の紳士として他のいろ〳〵な文化の仲間入りをして恥しくないと云へるのである。

◇

實に近世建築は世界的に赤ちやんである。赤ちやんほどインターナショナルなものはない。和服がいゝの四疊半が何うのと云ふのは大人の通がりで必ずしも和服や四疊半が永久に絶體なものではなからうし、それから派出した枝葉の持物や床の置物なんか子供には全然不必要だ。親讓りの煙草入れがあるから帶を締めなければならなかつたり、燒物の香爐がある爲めに元氣に歩けなかつたりするのでは子供は助らない。そこで子供は洋服に限るし、洋食が好きだし、洋館をよろこぶ。近世建築の赤ちやんがインターナショナルで騒ぐのも致し方なからう。インターナショナルでないやうなのは子供らしくなくつて可愛氣がない。又ほんとうに發育する見込みもない。

ブルヂヨアの子供が早熟で袖のおべべやコボコボを欲しがるやうに日本趣味が何うの、傳統が何うのとませた口のきゝ方をする近世建築の子供もあるやうだが、矢張ブルヂヨア氣質と見てよからう

か。この點からインターナショナルミプロレタリアートミが隣り合つてゐるやうで、近世建築の子供はプロレタリアの腕白と仲よしのお友達でも不思議ではあるまい。子供が大きくなつて何うならうとも子供の間は子供らしく振り舞はせておいて、あまり大人のおもちやにしない方がよからう。まして子供自身大人の眞似や小理窟云ふのは感心したことではない。尤もおばアさんのふところに抱かれて、女中や奉公人ににくい口をきいてゐるブルヂョアの坊ちやんも見方によつては面白いものではあるが。

さて、子供のくせにこまちやくれて今年の收獲は何うの來年の豫定は何うのと云つて見るよりも、お正月には何うして遊ばうかと樂んでゐる方がよささうだからこれで筆をおく。

（一九二九、一二、一〇）



明日の住宅と都市

藤田進一郎

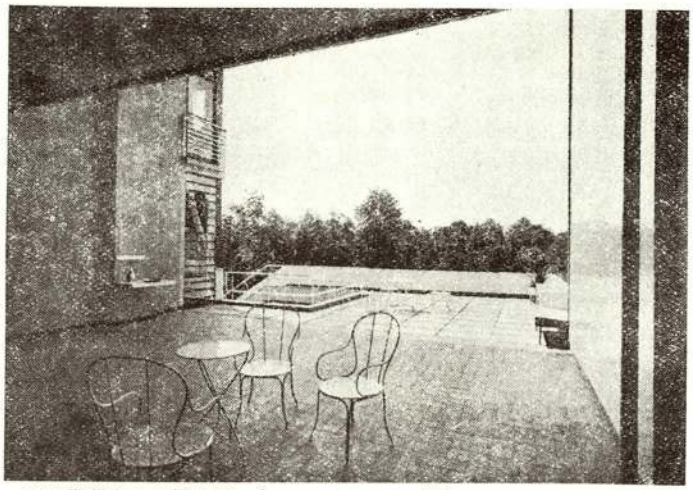
◇

新らしい時代には、その新らしい時代精神を表現した、新らしい住宅や都市が生れなければならぬ。まづ住宅についてル・コルビュジエは、その『一つの建築の方へ』のうちに、次のやうにいつてゐる。

道德の問題。眞實の缺乏は堪へ難きものである。われ〳〵は虛僞のうちに滅ぶ。建築は人間の最も切實なる必要の一つである。何ミなれば、家屋は二六時中缺ぐべからざるものであり、人間が自らのために作つた最初の器具であるからである。人間の器具の原料は、文明の階段を標示する。石器時代、靑銅器時代、鐵器時代これである。器具は間斷なき改善の結果に外ならない。すべての時代の努力がそのうちに體現されてゐる。器具はまた直接そのまゝに進歩の表現である。それはまた人間に眞の援助ミ、眞の自由ミを附與する。われ〳〵は種子ヶ島銃や、長砲や、辻馬車や、舊式の機關車など、すでに役に立たなくなつた古き器具を、掃溜のうちに放棄する。この行爲は健康の、道德的健全の、否道德そのものゝ發現である。われ〳〵が、惡しき道具をもつて、惡しき事物を作り出すのは正しいことではない。また惡しき道具をもつてわれ〳〵の健康や、精力や、勇氣を浪費するのもよくないことである。さういふ惡しき道具は、直ちに放棄され、善きものと置き替へられなければならぬ。

しかし人々は依然として古き時代おくれの家に住み、自分に適應したものゝ建築しとうとはせぬ。棲み塲所は人間の心にとつては、元始時代から最も尊いものであつた。この觀念は、家庭の信仰といふものがうち立てられるほどまでも强かつたのである。家根！それから家庭の守護神！宗教は教義の上に立ち、教義は變化しない。しかし文明は變化し、宗教は頽廢する。家屋は變化しなかつた。しかし家の信仰は數世紀以來少しも舊態を改めない。やがてこれも崩壞するであらう。

一つの宗教を行ひながら、それを信仰しないといふのは、眞に憐れむべきことである。健康と道德とを滅ぼすがゆゑに、價値なき家に住むのは、氣の毒なことである。自然われ〳〵は天命として他人とかけ離れて蟄居するやうになる。不良の住宅は、肺病のやうに、不活潑のうちにわれ〳〵の身體を害する。勢ひ結核療養所を、現在以上に多く



ある別荘とその屋上園 (ル・コルビュジエ作)



當の善き道具とおきかへなければならぬ。

◇

右のやうな精神から、コルビュジエ(ラランス)を初め、ドイツのグロピウス、オランダのオード等の新建築運動が初まるのである。それは何れも、現代の生活様式に、合理的に關聯した一定のモダン型の基礎をすゑつけやうとするのである。換言すれば、われ〳〵の住宅を、現代生活の樣式に、合理的に適應せしめよやうとするのである。つまり、現代生活の樣式と住宅建築とがはなればなれになつてゐるのを、再び密接に結びつけやうとするのである。

外部をどう取扱ふかは、設計と内部配置とによつて、論理的に決定され、設計や内部配置は、一に機能的目的によつて決定される。材料のいかんを問はず、その構造には、自由にして忠實なる表現が容され、以前のやうに、構成要素とは何の關係もない重くるしい裝飾的工夫を賦課しすぎたり、むやみに假裝行列のやうに表面を塗りたてたり、正面圖をりつぱにしたりするやうなことはしない。そんなことをするのは、原案の基礎の微弱をゴマかすためのカモフラージュで、建築家そのもの〻無力を曝露するものとみる。

かれ等新運動者によれば、建築家の機能は『自己の平衡と、自己の建築の一切の要素と、計畫、構造、目的等の一切を、獨創的理想をもつて統一し、一個の平均のとれた調和のある構成を仕上ぐる熟練とによつて、美觀を達成するにある』

しかし、この新運動は、過去のすべての傳統や、因襲から、截然切りはなされてゐるかといふに決してさうではない。もし左樣に考へるものがあれば、それこそ大なる誤解である。元來住宅建築の歷史といふものは、われ〳〵社會生活における新らしい要素に適應すべき善き道具とおきかへなければならぬ。

◇

右のやうな精神から、コルビュジエ(ラランス)を初め、ドイツのグロピウス、オランダのオード等の新建築運動が初まるのである。それは何れも、現代の生活様式に、合理的に關聯した一定のモダン型の基礎をすゑつけやうとするのである。換言すれば、われ〳〵の住宅を、現代生活の樣式に、合理的に適應せしめよやうとするのである。つまり、現代生活の樣式と住宅建築とがはなればなれになつてゐるのを、再び密接に結びつけやうとするのである。

外部をどう取扱ふかは、設計と内部配置とによつて、論理的に決定され、設計や内部配置は、一に機能的目的によつて決定される。材料のいかんを問はず、その構造には、自由にして忠實なる表現が容され、以前のやうに、構成要素とは何の關係もない重くるしい裝飾的工夫を賦課しすぎたり、むやみに假裝行列のやうに表面を塗りたてたり、正面圖をりつぱにしたりするやうなことはしない。そんなことをするのは、原案の基礎の微弱をゴマかすためのカモフラージュで、建築家そのもの〻無力を曝露するものとみる。

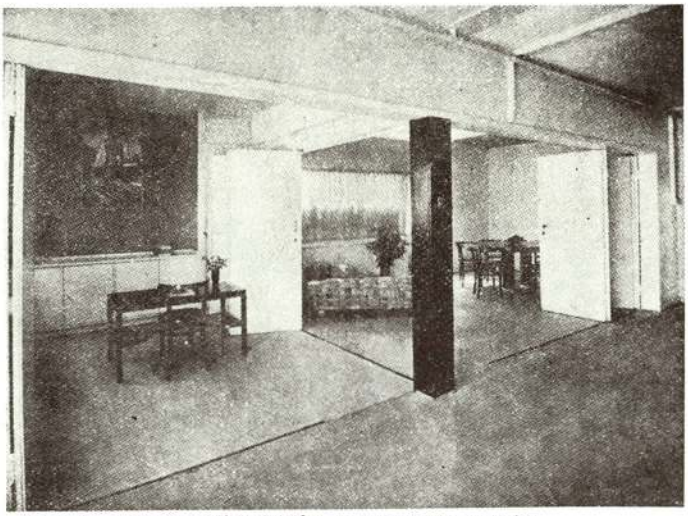
かれ等新運動者によれば、建築家の機能は『自己の平衡と、自己の建築の一切の要素と、計畫、構造、目的等の一切を、獨創的理想をもつて統一し、一個の平均のとれた調和のある構成を仕上ぐる熟練とによつて、美觀を達成するにある』

しかし、この新運動は、過去のすべての傳統や、因襲から、截然切りはなされてゐるかといふに決してさうではない。もし左樣に考へるものがあれば、それこそ大なる誤解である。元來住宅建築の歷史といふものは、われ〳〵社會生活における新らしい要素に適應す

建てなければなるまい。われ〳〵は實に憐むべき狀態にある。われ〳〵の住宅は、嫌な、不愉快なものである。われ〳〵は自分の家を逃れ去つて、しば〳〵カフエーや夜のクラブへ足を踏み入れやうとする。然らずんば、みぢめな動物のやうに、陰鬱に、秘密に、家のうちに集合する。かくて、われ〳〵の風紀は、いよ〳〵頽廢しつゝある。現在われ〳〵の住宅は、最早惡しき事物を生ずる惡しき道具となつてしまつた。われ〳〵の健康や精力や勇氣を浪費し、道德を頽廢せしむる惡しき道具となつてしまつた。須らくこれを種子島銃や、長砲や、辻馬車や、舊式の機關車などゝ一緒に、骨溜のうちへ放棄してしまつて、新らしい役にたつ本

るための不斷の變化の記錄であり、古き建築方法に、新らしいそれを接木し、記錄であり、合理的、經濟的に用ひられた新らしい資源と材料とによつて限定された新鮮な特性の記錄である。無から有を生じるやうに、突如として發生した新樣式、新傾向といふやうなものは、あり得べからざることである。それはたゞ、コルビュジエの言葉にもある通り、眞實の缺乏は堪へ難きことであり、人は虛僞のうちに滅びなければならないから虛僞なる傳統や、因襲を打破し、墮落したる方法を未練なく船外に投棄することを意味するのであつて、すべての傳統や因襲を排斥しやうとするのではない。

◇



取はづしの出來る壁體の應用(アドルフ・ラディング作)

右に述べたやうな見地から、實際に考案された住宅をみると、いかにもそれは現代人の生活樣式に適應した新らしい役に立つ善き器具の一つのやうにできてゐる。こゝに挿入した寫眞の示す通りに、極めて明るく、輕快である。實際には何の役にもたたない單なる裝飾や、重くるしい見かけ倒しは、一切省かれてゐる。

從來は橫に短かくして縱に長かつた窓が、水平線の强調で、縱に短かくして橫に長く、ちやうど日本座敷にガラス障子をはめたやうな恰好になつてゐる。或はこれ日本家屋の建築樣式を模倣したのではなからうかとも疑はれるほどであるが、これがために、太陽の光りはよくさしこみ空氣の流通はよく、はれ〴〵として明るく、健康らしく、氣持ちのよささうに思はれるところ、いかにも現代人の意識嗜好を捕へずんばやまないやうに思はれる。

もう一つ日本家屋の建築樣式を模倣したのではないかと疑はれる點は、床(フロー)のうちには一本の支柱を立てず、一つの床(フロー)全體を一つの大きな廣間のやうに開け放ち、使用の目的に應じ、輕い衝立のやうなものを立てて、小さないくつもの室に分割するやうにできたことである。これはいかにも合理的である。

これらの外にもだ〴〵多くの特徴をあげることができるが、要するに、虛僞の傳統や、因襲や、樣式のうちに喘ぎつゝある住宅建築を解放して、もつと愉快な、もつと健康的な、もつと道德的な住宅を建てやうといふのである。

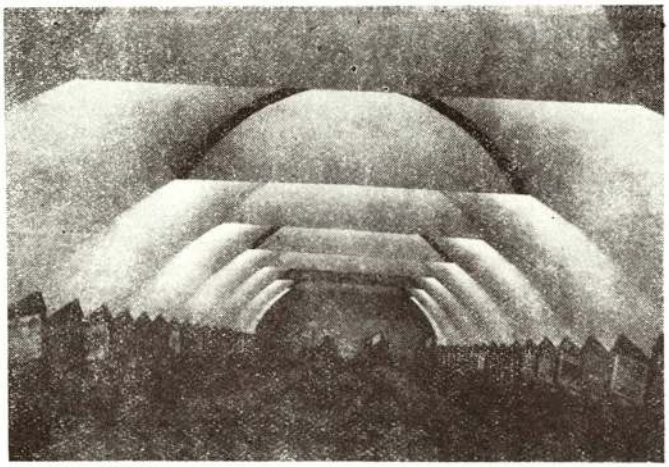
◇

コルビュジエはまた同じ著書のうちで、

家は市街を作り、市街は都市を作る。しかして都市は、驚異し、懊惱し、驚異することのできる・靈魂をもつた一つの人格である。

といつてゐるが、住宅建築の新運動とともに、步調をそろへて起つて來なければならないのは、都市計畫の新運動である。それは果してどんなものであるか。かれが新著『明日の都市計畫』に現はれた思想によると、かれの最も嫌忌し、恐怖するのは、現在われ〴〵が見るやうな世界の大都市である。曰く、

もしわれ〴〵がニューヨーク市とスタンブール市(トルコ)とを比較するならば、確かにかういふことができるであらう。前者はこの世ながらの地獄で、後者はこの世ながらの極樂であると。現在あるやうな大都市は、實際において馬鹿げてゐる。それは事實幾百萬の人間を徐々に



スピード時代　トツテンハムロード、コート停車場内エスカレーター、シヤフト

浪費し、種ぎれにしつゝある。都市に食料を供給する田舍も、また同樣に疲想すべく運命づけられてゐる。

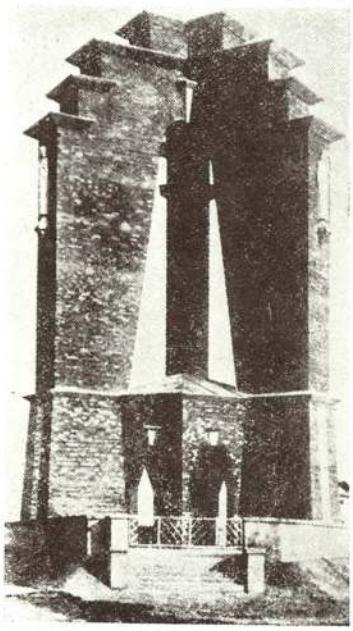
ニューヨークでも、パリでも、ロンドンでも、世界の大都市は、今やみな、發達の絶頂にあり、衰滅の運命をもつて、大に脅かされつゝある。交通の混亂は年々に甚だしくなり、日光と空氣とに、ブレミアムがついて來る。かうして新時代の野蠻狀態を出現するのである。今日は明かに機械の時代だ。しかし機械としての都市は、舊式な時代おくれの中世紀式機械にすぎない、この悲觀すべき狀態から救ひ出すべき唯一の方法は、都市をも、またそのうちにある家をも新時代の要求に應ずるに足るべき有効なる機械たらしむるにある。反復（レペティション）と大量生產とによつて之をフオード化するにある。

單なる美觀を目的としたやうなものは、この計畫中には、何等の地位をも與へられてゐない。それは慥かに時代おくれである。概していふと、コルビュジエは、曲線は大きらひだ。その代りに直線に對しては、神祕的な信仰をもつ。

直線はすべての人間の歷史に入りこむ。すべての人間の目的に入りこむ。曲線道路はガタ馬車の道である。これに反して直線道路は人間の道である。曲線道路はでたらめの不注意の結果である。だらしのない結果である。集中と動物性との缺乏の結果である。直線道路は、反動であり、動であり、積極的な實行であり、自己驅使の結果である。それは安全であり、かつ高貴である。都市生活が、革命的變革を遂げ、機械的大量の大交通時代となつてしまつた今日、最も安全にしてかつ最も大なる能力をもつてゐるのは、どうしても直線道路でなければならぬ。しかしコルビュジエにとつては、この直線道路は、たゞ實用一點ばりの見地から割りだしたのではなく、早い話しが、現代生活はどうしても、その表現を幾何的な形式に求めなければならぬといふ考へから來てゐるのである。しかしてそれは、中世紀においてゴシツク風が榮えたやうに、直線と直角とによつて特性づけられるといふのである。現在の大都市の亂雜なスカイ・ラインは、われ〳〵を混惑せしめ、氣狂ひにする。しかし、

水平線や、壯大な角塔や、尖塔や、球面や、圓筒とのうちに、われ〳〵は喜悅と明快とを發見するのである。

コルビュジエのかうした住宅建築や、都市計畫についての新說を讀んでゐると、何となくわれ〳〵の生活にとつて密接の關係ある住宅と都市と形式にも、ある重大な權威のある變革の徐々に近づきつゝあることを豫感するのである。



スピード時代　世界大戰記念　勇士に對する會堂の大戰記念塔。



昭和四年を回顧して

松室重光

昭和四年を回顧して、その建築の批判など仕れとの御事に候得共其建築の種々相を記述することは別に其人々可有之、此處には小生は遠慮仕りて、顧みて他を言ふ程度に一言申上げ度と存じ候。

（一）

忌憚なく直指いたし候得ば、本年度の建築も矢張り不振に終りたるらしく認め候。我邦の建築界に特に出色の建築は期待せし程生成せざりしを遺憾に存じ候。

實際に於て、隨分と種々の建築は世間に表現いたし候得共、それ等の建築は不幸にして日本及日本人の歴史なり、國情なり、はた又その習俗なりより見て、それが極めて適合良好のものなりしとは申し上げ兼ね候。

此等の建築は、依然として混沌過渡時代の雜貌を呈し居り候も、少しも更新時代の精神を表現いたし居らず候。時代に先んじて進出し、その進歩道程の目標となり居るもの尠なきやに見受け申し候。

（二）

日本の建築界は今も猶模倣追隨をなしつゝあるばかりにて、一向に榮え來らぬ樣に存じ候。

就て見るに、茲に二大病根ありて、深く之に浸潤いたし居り、未だに其病竈より脫却いたし兼ね居るらしく候。

それの第一は探奇求新病にして第二は鐵筋『コンクリート』病に有之候。

（三）

我等の生活に對して、新らしきものを求むるは、蓋し或は自然にして且つ必至の事なるやも知れ不申候得共、いつ迄もそれに囚はれて、日となく夜となく新を求め奇を探りをる有樣は聊さか愼れむべき狀態と認められ候。

建築には我等の生命の一部を寄托するものとして、そこに現代世相の表現も左ることながら、餘りに多く新らしきものを好む結果として、我等日本及日本人の精神氣魄を此方面より漸次毀損減耗し行きつゝあるは慚はしき次第と存じ候。

（四）

東京、横濱の復興建築は殘念ながら日本と云ふ色調が、其傳統的方面に於ては勿論、其更生的方面に於てもさらに粧嚴粉飾せられ居らざる樣に見受け申し候。

その餘りに多種多樣にして混亂したる大小の建築は、日本の都市組織の上に、建築上其基礎的なる必要なる單位原子あることを思はざる結果かと存じ候。

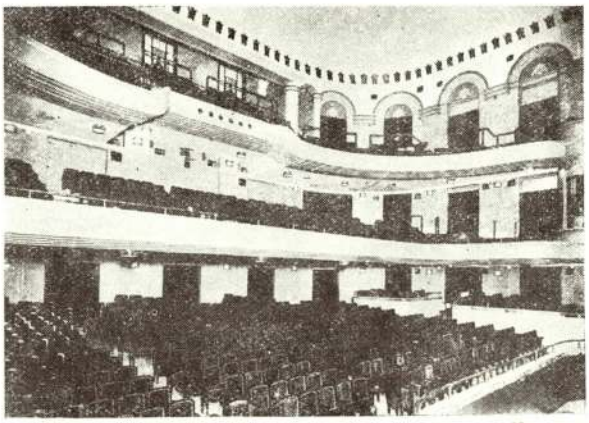
折角大正、昭和の御代の新らしき文化の表徴としては、立派に結晶したる完全體の光彩と輝くものは更に無之、謂はゞ原料の雜合、倉庫の假置物的の内部の樣にも見受けられて、それの整理秩序排列等の出來居らぬものと存じ候。隨て爰に都市と建築との文化表現體の美觀と言ふものは少しも見當り不申候。

これ抑も功を急ぎだる結果か、斯く迄しても新奇を競はねば建築が出來ぬと言ふ樣な考への持主を稱して私は一種の浸潤性病氣の所有者と呼ぶ所以に御座候。

（五）

鐵筋『コンクリート』の其耐震耐火的構造上の肝要なるものたることは言ふ迄もなき次第ながら、之は其方法を理想通りに實施表現せしめて然る後始めてその期待通りの効果を享有し得べきものと存じ候。

然るに當今の鐵筋『コンクリート』建築は、其理論方面の進歩に伴ふて、必然的に其理想通りの施工が出來居るかと見れば、殆んど多くの場合は之に反して言はゞ誤



神戸松竹座觀覽席（新築）　設計　原科建築事務所

く鐵筋『コンクリート』造に改造せられ、又改造せられむとしつつあり、更に一歩を進めて改造が奬勵強制せられむとしつゝありて、而して其改造せられたるものが如何にも輪奐の美を發揮し萬代不易の安全建築なるかの如くに宣傳廣告せられつゝあること、之に關係する教育方面の人々なぞが恰も一大事業に劃期的な、顯著なる功績を遺しつゝあるかの様に誇りがに見受けるのは何としたものに候や。

（七）

火事地震、それに對する將來の安全は萬遺漏なきを期するに不都合は無之、よりて遠き慮ありと申さば如何にも結構とは存じ候得共從來何の不都合もなき隨分立派な木造建築を惜しげもなく放擲し去つて、鐵筋『コンクリート』のお粗末至極なる建築に易ふることは少々馬鹿げた事に候はずや、醉興の沙汰とも見られ申さずや。小學校長などが、如何にも時代に目覺めたるかの様に、大分に此鐵筋『コンクリート』病に罹り居られて、之を入學試驗の問題以上に氣に病み居らるゝは、甚だお氣の毒と申すべき次第と存じ候。

（八）

大體大阪市の様な商工業本位の都會の中樞地區に、昔しながらの住宅群を其儘に存置する事すら甚だ妙と存じ候に、之を其儘としての前提の下に、相變らず居住地としての種々なる設備をなし居る事が頗る奇觀に候。

若し學校其ものを安全のものならしむるならば、之を安全なる土地に移すことが第一義と申すべく候。

無論此中樞地區の住宅などは將來必ず他に移轉せらるべき運命に置かるゝものと存じ候。

此事を考慮に入れての事か否か我等は之に對して一寸奇異に感ずる次第に候。

（九）

病む人達の不用意無自覺なることはそれ迄として放置することは遂に建築を邪道に導くこととなり申すべく本協會の如き、其當然の使命として、建築の民衆教育に努力すべき必要ありと存じ候。

さて、建築界は不振とは言ひながら猶多少の進境を呈し居り候は心強き事に候。

都市の建築（主として『ビルヂング』に於て）に『サブベースメント』の構造せらるゝものが漸次增加し來りつゝあるは其一端にて候。

地下鐵道の貫通する道路沿ひなどは、必然的にこれの行はるゝ傾向相見え申し候。之には其施工上幾多の困難の伴ふことは、當か脫れ難きこととは存じ候得共、道路の建造も次第に改善進歩いたしゆく事と信じ候に付、追々これの利用範圍が擴張せらるゝ事と存じ候。

（十）

ついて思ふに建築の進歩には之の指導目標としての建築法規の改善進歩を肝要といたす事と存じ候。

今日の建築法規は種々の點に於て建築の進歩を妨ぐる結果となるもの尠からず候。これの速やかに改廢せられむことを希望いたし

魔化しだらけのものたるは何と言ふ醜き事に候はずや。

これ矢張り一種の變態的症狀に有之、その建築專門の當事者を始めとして世間にも亦、之に侵されつゝある人々の多數なるには驚心駭目の至りと存じ候。

（六）

それに就て寒心に耐えざることは京阪地方に於ける中小學校の改造の事に候。京都大阪方面の市内の小學校が申し合せた様に既に多

候。

地下室の換氣採光關係など其一に御座候。住宅建築に關しての基礎の築造方法に關して兵庫、大阪京都が接近地帶にも拘らず、可なり相違し居るのも其一に有之候。

後者の如きものは若し之が同一行政地區中にあれば斯かる相違は決して生ずまじきものに存じ候。

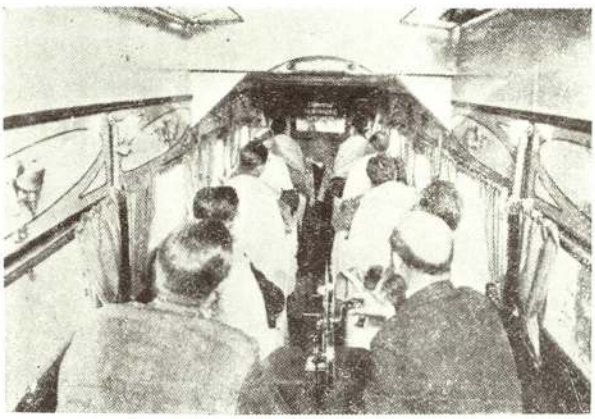
（十一）

近頃大阪市に於て建築の低さの制限を規定せられるの議ありとの事を聞承いたし候。現行の高さの制限についても我等は多少の意見を有する者に候。現代の科學智識に於て構造上の安全は此制限以上に出てゝも一向差支えなき樣に存じ候に、此拘束ある爲に建築の自由進歩は妨碍せらるゝ樣に相見へ申し候。

今度は低さを制限して建築の統一的體裁の美を求めんずる樣に思はれ申候。高低參差、餘りの相違ある現狀は決して結構とは申し難く候得共、其制限を餘りに杓子定規的に取扱ふが如き事のなき樣今より希望いたし置く儀に有之候。

兎角劃一、統一で人間を機械的に教育したる弊に墮して、其結果に苦しみつゝある現狀日本の種々相より顧みて、建築の法規など、共施行の寛嚴共宜しきを得ることが必要と存じ候。

土地區劃整理の出來ていない大阪市なぎ、此制限によりて高低の板挟みとなりて、土地の利用の出來ぬに苦しまぬとは限られず、心すべき儀と存じ候。



スピード時代　空中で映畫　映畫は來人の生活からは取り離せない。今日では大陸横斷の長途旅行には空中に於てすらニュースを映寫してゐる。圖は重量僅かに一ポンド半の映寫機を用ひて映寫してゐるが大陸横斷機の客室である。

（十二）

都會建築の變態的表現として大阪城天守閣の復興を見ることとなりたるも頗る面白きことに御座候。

これが現代大阪市民の福祉こぎれだけの關係ありやは承知仕らず候。寄附者あれば何でも建てると云ふのでは無之、都市經營の名の下に、我邦固有の建築文化の粹美を破壞しつくして侮ひんともせぬかの樣に相見へ申し候。大阪の人達に、金權崇拜以外何物もない樣な大阪の人達に、新舊此兩極端の施設の同時に表現を見つゝあるは慥かに一服の清涼劑を與ふるものかと存じ候。

（十三）

大『デパートメント』の商業で中小商業者の打擊激甚なるものありとは近來の高き聲に候。此大『デパートメント』の地方都市進出が次第に見え來りたるも面白き現象と存じ候。

で、商店建築の如きも勢ひ何等か其面目を一變するの餘儀なき境地に追はれ居る樣思はれ候。

此商店建築とは稍趣きを異にいたし候得共『ビルデング』の經營が近來行詰り居るのは又見逃し難き點と存じ候。

『ビルデング』と稱する名が大小雜多の建築に無暗に使用せられて其綜合的商業機關建築としての價値を損じつゝあるは、恰も商品の粗製濫造のそれの樣に、建築界にはよく響かぬことを遺憾と存じ候。

斯くて茲處にも秋風は吹き捲くりて、其需用に比して供給過多より、其使用料の低減となり、適當なる金利に値せぬことから都市の大『ビルデング』の經營が一頓挫してくることゝ相成、從つて都市の高層建築が豫期の通り實現せぬ結果となり可申、此傾向は省察し置くべき儀と考へ候。

（十四）

工場建築の內面的に進歩し來れることも又特記に値する點と思はれ候。紡績業方面に於ての深夜業廢止の結果としての補足的工場增築が此不況の折柄にも關せず、諸

處に行はるゝのが一寸目立ち申し候。

而して此等の建築が其從來のものに比して其防熱や保溫裝置に種々改善の加へられつゝあるは、建築上の一進歩と見て差支えなきものと存じ候。

我邦の資本家も此方面より漸次能率增進に考慮を拂ふ結果として幸いて從業員等の待遇が次第に改善せらるゝは喜ばしき次第に候。

（十五）

さて、住宅の問題が一般的に次第に眞面目に取扱はれ來れること時勢とは申しながら結構に候。何を申すも住居は人生の大事、もつと早く、此問題が多數の建築家の手に於て、せめては其技術的輪廓だけにても具體的なる成案を見ねばならぬこと存じ候。之に關して朝日新聞社の懸賞住宅の實施表現の如き、亦大阪每日新聞社の住宅懸賞の如き孰れも極めて時宜適合の擧と存じ候。但し此問題は獨り新聞社の共商略としての一端に供せられて止むが如き輕き流行性の表現にては無之、社會の各方面に於ても繼續的に極めて眞面目に考究審議せらるべき最も重大にして肝要なる事業と存じ候。

（十六）

我等日本國民の生活樣式としての住宅建築が今猶和洋折衷の七分三分の兼合を行きつゝありて、何等かの歸趨點をも見ざることは甚だ待遠く心苦しき次第に御座候。

謂はゆる『コンクリート』『すたるる』などゝ稱する住宅建築の樣式の如きものが、山紫水明のこの日本の風土と良く偕合調化を見せて國民の習俗傳統とよく一致しゆくや否や、我等は其價値批判に迷ふものに有之候。

雨多き國、濕度の高き國、其處に『ブラットルーフ』の建築が、何處迄成功發達して參るものか、其點に於ても猶疑問ありと存ずる儀に候。

（十七）

爰に我等は住宅問題に關し看過し難き一大事件に遭遇して、幾多の教訓を受けたることを書き添え置き候。

借家の家賃値下げの問題が之れにて候。住宅を賃借する人々が、其居住せんとする家屋が良好なるものにして、しかも其賃料の低廉なることを欲するは決して無理からぬことに候。左りながら此賃料は正當に算出せらるゝことを必要といたし候、即ち土地の價額、公租諸入用、修繕維持費等は當然其建築費の金利と共に加算せらるべき性質のものと存じ候。

其上、借家には可なり多くある事情＝家を轉々して短期間に屢々居住を易へて平然たる人達が與ふる空屋期間中の損失、家を著るしく住み荒して少しも念とせざる不良性の借家人、さては又家賃を踏倒して恥ぢざる人達、最後には立退料を强求して容易に退居を肯んぜざる亂暴なる人々の尠なからざることを見る時は、借家經營は決して氣樂にして有利なる事業にては無之事に候。

此等は決して家主が强慾なるが爲にのみ起る一方的現象にては無之候。左れば家賃の低減は結構なる事には有之候得共、家主の强慾ならざる限り、此低減引下げを强要するは果して如何のものに候や猶此低減をなしたるが爲に其家主達を俄に奇特なりと稱へるが如き事は一寸妙に感ぜられ候。之に反して其低減をなさざる家主達を非道呼ばはりするのも甚だ異なものと存じ候。之を堂々と大新聞迄が報導して一種の民衆煽動的迎合をなせるは苦笑の外無之候。

（十八）

兎角は借家てふものの愼密公平なる調査研究を必要とせず、その確實なる基礎の上に判斷を下すを正當と存じ候。

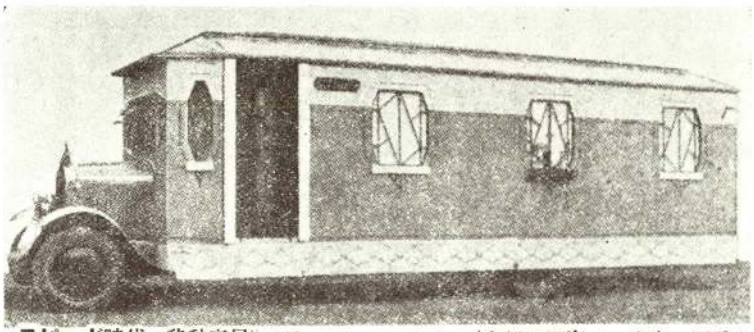
成程非道なる借家人等の與ふる損害を善良なる店子の頭へ轉課することは洵に不合理とは存じ候得共、此善良なる借家人のみを求むる事はなか〳〵の難事に有之候。

斯くて家賃の低下は借家人の爲には表面的には利益あるが如く相見え申候得共、家主側より見る時は公租や其他の負擔のうんと輕減せらるゝが如き時機は容易に來るものとは思はれず候に付、彼等借家人達が皆善良にして其當然の義務を滿足に果し呉るれば兎に角、然らぬ限りは借家の經營は其結果の不利益となりて極めて少數富豪階級の半慈善的行爲として甘んじて之を持續するもの外は、遂に

善良なる借家經營者を失ふに至るべく、終局に於ては借家難と云ふ現象の表はれ來りて、住宅の國營公營などゝ云ふ様な問題が次ぎて擡頭いたし申すべきかと存じ候。

所謂社會政策と言ふものは皮相の擴充は巡て皷蛇的結果となりて此邊に於ても甚大なる累を國家に及ぼす事とも相成候得ば悔ひても及び難き次第に可有之候。

本問題の如きは我協會に於ても最も眞面目に研究調査の上速やかに公明なる批判的意見の發表ありて衆愚の蒙を啓かれむこと至囑の至に不堪候。



スピード時代　移動家屋「ピアン・パールトウー」内部に居室、二、浴室、厨房を有する贅澤な旅行用自動車「ピアン・パールトウー」號の外觀

（十九）

數ある建築事相のうちに於て、運動競技に關係する觀覽場等の建物が次第に立派に出來てきた事も記述に値あることゝ存じ候。

運動競技の國際的位置の進むに從ひて我邦に此種の建造物が可なり專門的に取扱れて、よりよき物の出現を見つゝあるのは結構な事に候。所謂『スポーツマン』精神（武士道にはあらず）の發揚せらるゝことは決して悪い事では無之候。

たゞ不幸にして小生は多く此種のものを觀ることの機會なき爲其等の物に關して評說いたし兼ぬるを遺憾と存じ候。

（二十）

民衆娯樂機關としての劇場や活動寫眞館なども次第に其面目を改め居り候。之は安全維持の上より其建築主體を鐵筋『コンクリート』とする點皆一様に御座候。依て其様式が殆んど悉く西洋臭く、一種の『モダーン』と云ふ言葉で大抵其輕佻華麗とでも申すべきか、何かの表現いたし居候様に相見え申し候。

茲處で私は國民の趣味性が低級なりとは申さず候得共、何とかして今少し日本的の氣分あらしめたき念願に有之候。

これにつき、最近京都に出來上りたる四條の南座は其日本式なる點に於て八百政や菊水の西洋風建築より遙かに優るとの一般の素人評を聞き候。

蓋し京都の様に史的生命に生くべき土地柄としては此評可なりと申すべく、何の遠慮會釋もなく西洋建築をなす事は深く戒しむべき次第と愚考仕り候。

思へば新京阪電鐵の京都近郊の停車場や、愛宕電鐵の山上『ケーブル』停留場など何故に悉く日本風となさゞりしか奇異に感じ申し候。

（二十一）

次手に申添え置候。郊外電鐵の終點停車場が揃ひて『デパートメント』經營の大建築に熱心なるも面白き事象と存じ候。

鐵道本來の使命が何であるかと問ふ方が野暮か、中間中小停車場を其土地相應に良くする方が乘客の幸福か、そんな事を考へずに金儲けに懸命となるのが賢明なるにや我等には一向不可解に候得共、たゞ建築は進歩の様を呈し居り候。

（二十二）

現代的建築世相中に於て、一寸世間と隔絶して殆んど何人も注意せぬかと思はるゝものに古社寺保存の事業てふものゝ御座候。

仕事が極めて地味眞面目なだけ更に世に顯はれざるは異なものに候。勿論格別世間に其價値批判仰ぐの必要は無之ものとは存じ候得共、日本の現代の建築界から好古的骨董的に孤立分離し居りて建築家すら顧みぬ點に少々感服いたし兼ね候。

此古社寺建築（他の彫刻繪畫等も有之候得共）の保存事業は金は少額に過ぎず候得共、歴史日本の

實證としての建築美術の保存なればなか〳〵愼重なる研究調査を要することゝ存じ候。

最近では之が復舊的目的で大分に行はるゝ樣にも相見え申し候が悉く之を舊態に復するが是か、其中間時代の入手混合色を其儘に存置するが非か、其處に猶多く考慮を拂ふ餘地ありと存じ候。醍醐寺金堂の修理を見ての所感の一端如斯に御座候。

（二十三）

鐵筋『コンクリート』構造が日本固有の建築復興に追々其範圍を擴めつゝあるも一段と面白き事と存じ候。併しながら構造の方法と形式との必然的な自然變改と云ふ點から見ると、悉くの日本建築の樣式を此構造で表現せしめやうと努むる上に幾多の無理ありて、折角の日本建築の外的表現の意義を次第に破壞いたす事無之候や、疑惧の念有之候。

社寺の建築や庭園や、其一樹一石すら年歷あり傳說あり、それの折角保有しつゝある錦繡や閑寂の淨境が、びし〳〵と迫りゆく交通機關の擴張によりて無制限に害用せられ、日に月に其面目を新らたならしめつゝあるは果して褒むべき儀に候や。

整理や保存と云ふ美名の下には史蹟破壞の屢々行はるゝは慨歎の至に候。

（二十四）

次は建築材料に關することに候。『セメント』の製造方法が進歩して其品質に一段の向上を見たるは結構のことに候。而して淺野『セメント』が遂に高級『セメント』の製出に先鞭を着けたるは賀すべきことに候。之は『セメント』業界不振の折柄一寸異彩を發揮するものと存じ候。

斯りながら『セメント』の強度向上に反比例して本劑使用による『コンクリート』工事などが段々亂雜に相成折柄の材料の强さを裏切るが如きは成むべき哉と存じ候。

ついては防水劑の種々なる製品が續々市場に出現して、其孰れが最良品かと一寸取捨に迷はざるゝは少々迷惑にて候。其實際上の効果はなか〳〵短時日に於て確認いたし難きものにつき、最良品と念じつゝも、何れも一寸戸迷ひの感有之樣認められ候。

『ペイント』塗料なども溶解體のものが出來て現場に於ける調合と之に伴ふ誤魔化し的弊害より脫却し得ることゝ相成候は自他の便利幸福として建築界には又進歩の一と認め候。

防水布等の材料の製產も同じ樣なものが續出して市場を賑はし居り候。此等は其製造工程に於て特に困難なるものなき爲か、可なり粗製濫造品も出づる樣に有之、施工上の注意は一段重要性を加へ來り候。依りて玆處に此等材料の製造乃至販賣業者が直接其施工に當りて、其効果に對して責任を負ふと言ふ樣な狀態に迄立到り來の候

又『アスベスト』を主劑として保溫防熱等の目的を滿足せしむる屋蓋用材料、天井用板類の製造も大分に進歩したるものと存じ候。

たゞ此等の材料に關しては其効果の試驗機關甚だ不備なる爲め、充分其効果を實證して自他に確信を與ふること容易ならず、從つて今少し長足の進歩を見るべくしてそれに到らぬ樣見受けられ申候。

『タイル』『テラカツタ』の製造は近時益々進歩の境地に置かるゝ樣に御座候。其價格も亦從ひて低廉と相成候て、建築の修飾方面は一層明るく相成申候。擬石の製作も漸次改善せられ來り候。併し此等の材料は其需用の範圍未だ偏ぬからざる爲大規模なる機械的作業による迄に到らず、從ひて其價格の大に低減せらるべくして未だ其域に達せざる樣存じ候。

（二十五）

石材の使用に對して從來錢錆は絶對に拘まれたるに、今日にては其色調の關係上此錆あるものが漸次需用せらるゝことゝ相成、其品質が第二段に置かるゝかの如き事情も一寸隔世の感ありと申すべきにや、面白き事に御座候。

裝飾用材として伊太利產大理石が次第に市場に跋扈しつゝあるは本邦產の豐富ならざる結果不得止ものとあきらめ申すべきや。人造大理石の製造は劑合に遲々として進捗いたさざるかに見受け候。

建築材料の國產奬勵はなか〳〵多難の樣に御座候。戸障子用金具の類、壁紙の類、特殊硝子の類等々猶多く歐米品を高級のものとして需むるは甚だ遺憾に有之候。



スピード時代　紐育市の幾何的模型、錯雜した街の模型は故前大統領ルーズベルト氏の生誕記念日に第二十二街第八十二番地の同氏誕生地に花束を投下する飛行隊飛翔の際の空中寫眞

て夏季の社會生活を愉快ならしめ度きものと存じ候。住宅の建築の如きは、本問題は特に大規模の機械的施設を必要とせず、其材料の撰擇と構造の宜しきを得ば頗る容易に達成し得らるゝ事を思ひて皆人の留意することを必要と認め候。

（二十七）

建築に伴ひて家具類の製作も次第に上手に相成進境を呈し居り候。

之には矢張り本邦風固有の簞笥や鏡臺や膳棚や乃至は火鉢の類迄が、次第に其鈍重の感じのものより輕淡のものに變易し來り候。特に簞笥などは東京簞笥大流行にて上方風の押入れ内に裝置する實用一方のものより一變して裝飾兼用のものと相成申し候。

之は住宅の變化乃至住居の樣式の推移より來る自然的なものも有之候得共、一方六尺を單位一間とする住宅間取りの縮少も其一因にて有之、それが結構なる事なりや否やは聊か疑問に候。

西洋風家具類も次第に進歩し來りて椅子、卓子、洋服簞笥、茶簞笥等々漸次其構造形體の優れたるものが市場に見らるゝことゝ相成洋風居住の安易性の理解には都合よき事に候。

此等の家具類は和洋何れを通じても輕快味のもの多くして莊重味のものを缺くと思はれ候は蓋し日本國民性の然らしむる處なるや、或は生活環境の壓迫に依るものなるや、將來雄大性に生くべき世界的日本國民の心裡映寫としては聊さか不足と存じ候。

（二十八）

最後に建築學術方面を一瞥いたし候。

理論方面の展開は東大、京大乃至北大等より高層建築の構造解析に可なり有益なる論文の公表を見申し候。實際の建築家は之にて餘程訓へらるゝ處有之べくと存じ候。

都市の區劃整理に關する報告なども面白きもの多く存じ候。斯種の各研究など可成なれば本邦それ自身のものに就て願度ものに候。

建築圖書の出版も次第に其範圍を擴張し來り居り候。たゞ其中に世界建築の複寫的印刷物など少々重複の嫌有之ものと認め候。

文化普及に關して潤澤なる圖書の雨下は難有候得共、緊縮節約の世の中には少しく過剰の感有之申し候。

建築に關する諸雜誌については何れも餘りに精彩を發揮いたし居らぬ樣見受け候。

之は雜誌其物の數多きに過ぐる結果ならざるや、之を讀む方面は大抵同じ職業的の人々に限定せられ居るにも關らず、餘りに小異を立てゝ分離行動する爲ならず候や、此中に國際建築に關するものが本年度に表現して孤立奮闘の姿は雄々しく相見え申し候。

兎角は人間が餘りに悧巧に相成利害打算に明敏にして妥協性に富み、一家の見識を立てゝ獨行する

（二十六）

建築に冬時の煖房裝置と共に夏季の冷房裝置が重要性あることを認めらるやう相成候ことも又進歩の一つに御座候。

公共用建築などは其換氣採光に充分の考慮を拂ふと共に今後は必ず此方面に夫々適當の裝置をなし

人の少なき折柄此種團體の健闘は前途多難ながら又勇ましき次第と存じ候。

（二十九）

要するに建築事業は現在にあり



都市生活の安定策に就て

岡崎早太郎

目次

一　住宅不足から家賃引下まで
二　工場を基調に住宅地の選定
三　家賃騰貴の原因は地代にある
四　地代調節の爲にする新稅の創設
五　建築資金を得る爲の新企業

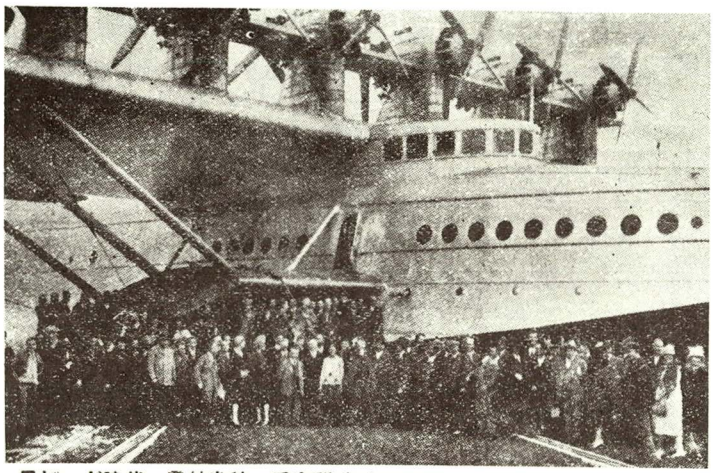
一　住宅不足から家賃引下まで

都市生活の安定策として出現した制度に都市計畫の夫れがある、しかるに都市計畫事業として實現したものの多くは道路の新設又は擴張を本位としての施設であつた。

これ等交通機關を改良し又は增加することも無論都市生活の一助ではならうが、それにも增して緊切なものがありはしないか。苟も都市生活の安定と言ふ以上は少くも衣食住の需用供給に付、聊かも不自由を感ぜしめないことが其の基調でなければならない。而してこの三者中で衣と食との二項目に付ては、その根本に於て重大な問題が遺されあるも、當面の夫れとしては絶對的でない迄も稍小康を得た觀がある。先年勃興した米騷動を機會として社會政策の美名の下に、公設市場又は私設市場を興し、廉價に便利に需用供給の調節を企圖し、これを繼續維持するのみでなく、盛に普及擴張に努めるからである。これに引き換え住宅の問題のみは斷えず紛議があり論爭が止まない、そこへ又物價勞銀の下落を口實として例の官吏減俸案などが飛出し、これを動機に家賃値下運動の口火を切り、時ならぬ火の手を擧げた。所謂官吏減俸案は撤回と爲り、今では其の餘燼もないが家賃問題は一向に終熄せず、むしろ白熱化の狀を呈するに至つた。我等はこの現狀を前に徐ろに所謂住宅問題の推移を窺ふに、過去と現在とは其の論點に大なる異なる所あるを看る、量の問題と質の夫れである。

去る大正七、八年の頃に在りては素より質の問題もあつたが、主要な題目はむしろ量の方にあつた蓋し歐戰の餘響を受けた本邦の都市は、いたる所に大小各種の工業が勃興した。こゝに於て各都市は之に備ふべく未だ何等の準備も計畫もなきに拘らず、宛然津浪の押寄するが如き猛勢もて夥しき人口が集中した。この不自然な膨脹に因る必然の結果として、從來安靜にして淸淨なりし都市は、忽ちにして其の秩序を紊され亂雜喧噪な街衢と化したり、こゝに端なく人口過剩に因る住宅不足が絶叫され著しく社會の注目を惹くことゝなつた。しかれども當時の事情は家の少きに對し、人の多きを致せしては世界を通じて既に一大工業に有之、其取扱如何は直ちに國運の伸張にも多大の關係あるものと存じ候につき自他共に大に奮勵すべき儀と存じ候。

右ながら〳〵妄語いたし失禮仕候。



スピード時代　發航を待つ乘客群　瑞西に於けるドーメ號の試驗飛行に便乘せんとする人々。同機は乘務員十人と乘客百五十九人とを載せる空前の大旅客機である。

關係に因り、無住宅者がこれを得るに急なるの餘り、家賃の如きは多く之を顧みるの遑なき傾向であつた。從て物價勞銀の廉き時代に建築し、疾くに元本を回收し了した上に相當な利益を擧げ、剩さへ改築期に瀕せる如きボロ家を、從來の家賃より二倍も三倍も値上し暴利を贏ち得た家主も尠くはなかつた。

當時家賃引上の爲に行はれた手段は千差萬別であつたが、就中最も辛辣にして且普通に行はれたものに賣渡の形式を以てした方法があつた。この方法は先づ以て賣買讓渡等の形式に於て家屋所有者の名義を變更する、而して新に家主の名義を襲ひたる所謂新家主は從前からの借家人に對しゆきなり立退き明渡を要求し、この要求に應じないときは家屋の買受又は讓受價格を口實に舊家主との契約を蹂躙し强制的に値上の證文に署名捺印せしめて其の時から家賃は高價に更新される之に反し借家人に準備がありて素直に明渡しの求めに應じて立退いた場合は、借家拂底の場合だから殺到する新借家人に破格に高價な家賃で貸渡し、さらに一年若は二年未滿で轉居する場合は敷金の幾割かを沒收する條件をさへ附加した程だから、惡家主鬼ではなかつた。かゝる强烈な權利者たる家主に對し、經濟的弱者の地位に置かれたる借家人を保護すべく、社會政策的立法として制定施行せられたものが所謂借家法である。しかれども借家法は家主對借家人の紛爭を解くに有效であるが、當年の急務たる家數を殖して供給を潤澤にする爲には効果ないから、これが爲には別途の方面から住宅の建築を勸誘し、政府からは低利資金の融通までして奬勵これ努めたものだ。現存の市町村公營住宅も其の殘影の一だ。住宅を建築し月賦若は年賦の方法で賣買讓與を業務とする會社若は組合も其の遺物の一だ、自ら住宅を所有すべく建築資金關係から設けた住宅組合の如き亦其の一である。しかも之等は單なる標準的若は調節的施設たるに止まり、素より之れのみで當時の需用を滿足せしむることは不可能であつた。こゝに於て投機的に出現したものに住宅企業家がある。高利な資本を投じ、粗笨な貸家を建築し、高率な家賃を以て其の家屋を賃貸し、依て一時に巨利を博せむとせし貸家業者が夫れだ。現下最も重要な問題視せられある所謂家賃引下運動と謂ふ大火の火元は實に茲に潛在した。すなはち燃え上るべき所から煙が立ち、火燄を吐き出したまでゞ、奇でなく珍でなく、むしろ當然の結果である。しかも之が解決は徹底的に爲し置かなければならない、將來さらに再燃三燃の惧ある重大問題なるが故である。

二　工場を基調に住宅地の選定

都市住宅問題の解決を前提としての研究に於て最大重要な地位を占むるものは住宅それ自躰の位置の如何ではあるまいか、住宅地の位置は都市計畫の施設として有權的に指定される住居地域である。しかも都市生活の資源を供給するものは工業であるから、住居地域と工業地域との關係は常に不離不即の關係に在りて兩立しなければならない。都市繁榮の原因が工業であり、工業の進步發達が住居地に於ける衛生保安等の狀態如何に左右せられる場合多きが故であ

る。これに關し畏友飯沼一省君の名著『都市計畫の理論と法制』の一齣を拜借する。君曰く『半開國の大都市には工場はあるが住宅はない、勞働はあれども生活といふものを市民は知らない。將來の都市は工場をしてよくその處を得しむると同時に、宜しく良好なる住宅便利なる生活といふことをも考慮の中に置かねばならぬ。而して住宅敷地を選ぶに當りては、衛生的にしてかつ愉快なる場所を求めねばならぬ。即ち容易に仕事場に達し得る程に近くなければならぬと同時に、また工場の喧噪と惡臭と塵埃とを避けるに充分なる距離を保たねばならない。かくの如く工場からの侵害から防禦されねばならぬと同時に、また住宅相互の間の侵害についても豫防するところがなければならない。すべての市民の住宅をして豐富なる光線と、新鮮なる空氣と、相當なる樂園とを有せしむるがために、あまり密集せる生活はこれを避けしめなければならぬ。而してこの目的を達するがためには、地域をさだめて一家族用住宅もしくは數家族用住宅等住宅の型を制限することも必要であり、また建築敷地内における建築面積の割合を制限する必要も生じ、更にまた一英町當りの家屋數もしくは家族數を制限しなければならぬことゝなるのである。かくの如きことは初めより適當なる計畫をもつて構築せられたる都市にしてはじめて爲し得るところのものである。また各家庭の樂園の外になほ休養慰安のすべての設備がなければならぬ。而して運動場、野外空地等は、市民が容易に到達することを得て、以て日々の仕事を忘れることが出來なければならぬ』云々、まことに簡にして要を得た至言である。借問す本邦各市が行ひつゝある、所謂都市計畫の施設は、果して飯沼君所期の如く實現しありや否や。

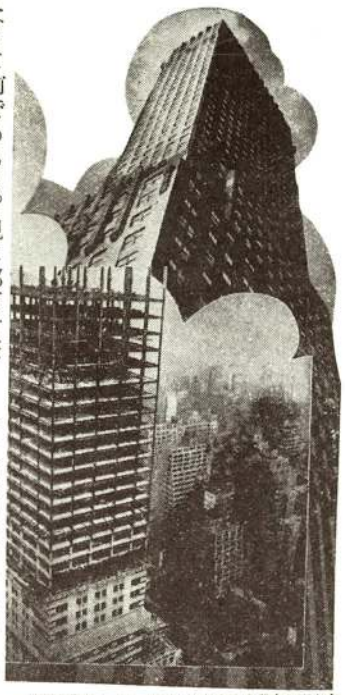
顧みるに本邦に行はれある所謂都市計畫は、名は都市計畫であるけれども實は舊式都市の改良に過ぎない、都市計畫すなはち都市改良計畫で、新興都市の創作ではない。飯沼君の所謂はじめより適當なる計畫をもつて構築せられたる都市でないから、理想の實現を見ないのは當然かも知らない。さり乍ら所謂都市計畫は總括的に見れば如何にも改良計畫に他ならないしかも夫は中樞部等の既設市街區にして、廣き都市計畫區域中には必ずしも創作計畫を施すべき部分なしとしない、現に都市計畫法規に依り、土地の區劃整理を行ひ居る地區が夫れだ。

これを都市計畫施行の初めに於て決定した、都市計畫區域の說明書に見るに、既成市街地に在りては其の人口飽和度を幾程とし、これから新開せらるべき市街豫定地の夫れは幾何と爲すべく、一々數字を擧げて明確に計畫の基調を示しておるではない乎。すでにこの計畫がある以上は、所謂郊外地―住居地域に於て、新に整理設定する宅地に付ては其の規格を一定するは素より、宅地内に設けらるべき建築物の面積に付ても一建築内に收容する人口に付ても其の制限を定め、土地所有者や整理施行者の依據すべき基準を示すは、所謂計畫に權威あらしめ、その實現を期する所以であつて、計畫の手前まさに爲すべき當然の措置であらねばならない。蓋し賢明なる當局者は既にこれが手段を講じて漏すところなく、知らぬは獨り筆者のみであらうことを信ぜむとする。しかも事こゝに出でず、徒に箇々の設計や圖面に付、知つたか振の批評や改惡を加ふるに熱中するの餘り、根本的觀念を沒却する當局者ありとすれば、吾人は都市住宅の基礎を爲す、宅地造成事業の前途に對し、大なる憂を抱かざるを得ない。

三 家賃騰貴の原因は地代にある

所謂家賃の安定を圖る前提としては、先づ以て土地價格の騰貴を豫防し、調節するより急務はあるまい。本邦に於て社會政策と謂ふ標語が唱へられ出してから、大分多くの年月を經過し、その間に於て拜見した社會政策的施設も尠くはない。しかも地價の騰貴を防ぎ、土地賃貸料の安定を企圖する方法としては、一も示されたことがない、否却て地價の騰貴を煽り、これを何かに利用せむとするかの如き手段が屢々出現したと思ふ。鐵道の敷設然り、道路の開鑿然り、水道の普及や下水道の開設を始め都市計畫の施設その物が一として、地價の騰貴を誘發する夫れで

なくて何であらう。現に都市計畫の事業や道路の改良工事に因り、特に利益を受けたりと認められた所謂受益者なるものに負擔金を賦課し徴收する局に當れる吏員は、貴下の所有に係る土地は工事施行前の價格に比し、幾十割、幾百割の增價ができたから、これ斗りの負擔は當然である、否むしろ輕きに失する觀あり杯と公言しておる。實際賣買した上でなければ、自他共に知り得べからざるものに對してすら斯く斷言して憚らないのだから、其の心理狀態を推測するに難からない。又實際に於ても附近一帶が改善せられ、現に利便が表現しておるのであるから、經濟的價値の動かない道理はないから斯く斷定するに聊かも無理はないのである。而して都市計畫は永久に公共の安寧を維持し、又は福利を增進する爲の重要施設だと法律の正文にまで書いてあるが、かくの如く地價の暴騰を促すことが果して公共の安寧を維持し、又は福利を增進する方法であらうか。何とかして調節の途を求めなければ、却て反對の結果を招きはしまいか、否既に借家住居の市民は絶大の苦中に惱みつゝあるのである。



摩天閣「チヤニン、ビル」建設中の市街建設中の五十六階の「チヤニン、ビル」の完成せる高塔と殆ど同時に工事中の一部。同ビルは道幅上七〇〇呎の高樓である。

かくの如く地價が暴騰し殆ど底止する所を知らない狀態に於て、その騰價した土地に立脚し、そこに基礎を置いた家屋の賃貸料の低下を求むる如きは、古の支那の賢人をして評せしむれば、夫れこそ木に依て魚を求むる好個の實例だと謂ふかも知れない。しかも家賃値下の運動は滔々として天下を風靡し、今や都鄙到る所この聲を聞かない所はあるまい。而して甚しきに至ては値下の要求に應じない家主を目して、惡家主なりと罵倒し、非人間扱さへ爲し兼ない傾向があるが、貸家業と雖も亦一種の營利を目的とする企業であつて、斷じて慈善事業ではないのである。しかるに彼等が貸家拂底時代に投下せる資本も、その資本に對する高率な利息も、殊に昂騰し切つた高き地代をも計算することなく、天引的に三割五割を引下よとの要求に應じ得ざるは家主としては寧ろ當然であつて却て無理矢理に要求する方に無算當な無理がありはしない乎。宜なる哉勇敢に値下要求を拒絶した家主は、地代の低下なき限りは家賃に値下の餘地なしとまで放言しておるのである。筆者亦借家人として極度の値下を希望する一人で、容易に家主には與みしない、亦彼等に買收された譯では勿論ない。同時に彼等の主張を全部眞實なりとして肯定する者でもないが、地代が高くして大なる低下なきことは爭ふべからざる事實である。從てこれに藉口する彼等に對し、眞向正面から虛構の主張なりとして、一刀兩斷を試むるだけの勇氣なきを奈何せむ。

四　地代調節の爲にする新稅の創設

所謂家賃低下の前提としての、地價の騰貴を防止し抑制する一策として、間地稅と土地增價稅とを市町村稅として興すことの必要を提唱する。この兩稅は曾て都市計畫事業の執行に要する費用の財源を得べく、目的稅として之を興すべしと相當有力筋で主張せられ、筆者の如きも聊か尻馬に乘りて驅け出したこともある。しかし夫は收入を目的としての主張であつて地價の騰貴を豫防する手段に供せむとする今次の夫れとは其の根底に於て目的を異にする。目的の如何は暫く擱きかゝる沿革ある兩稅の成行は、前者は關東震災に依て興へられた間地の保有を必要とする教訓を誤解して其の聲を潛め後者は政友會內閣の地租委讓問題の爲に一時鳴を靜めて形勢を觀望したまでゞあつた。しかるに現濱口內閣は政友會內閣の地租委讓を繼承せず、地租は飽くまで國稅と

して維持し、單に課稅標準の變更に止むると謂ふから、茲にこの問題の擡頭は當然の順序と言ふことも可能る。これ筆者がこの問題を拉し來りて、家賃の安定策に善用せむとする所以である。

間地稅　この稅は建築を爲すべき宅地に建築を爲さず、空地の儘で遊ばして置き依て地代の釣上手段に供することを禁止すべく考案された新稅である。彼の關震當時に罹災地の市民を救ふた公園廣場の如く、建築を爲さゞることを本來の使命とする土地とは自ら其の性質を異にする。從て關震の教訓は都市計畫の施設として、公園廣場等永久不建築地を定め、これを保存する理由にはなるが、建築を爲すべき場所に建築を爲さない空地に稅しない理由にはならない。併し乍ら之を實施するに付ての必須要件は、年々增殖すべき人口を概算し、之を收容すべき面積及區域を劃りて、豫め地主若は公共團體をして、都市計畫として宅地の造成を行はしめ、さらに建築を爲すべき年次を有權的に法定し之を實行せしむべきである。稅制の爲に未だ建築年次の到來しない土地にまで、使途不定の家屋を造らしむるは、土地及建築經濟上至大の損失なるが故である。而して當該年次に至り尙建築を爲さない地主あれば、土地の價格に等しき重稅を課し、依て家屋の建築を促し其の供給を潤澤ならしめむとする。

要するに間地稅の新設は收入の目的でなく建築の目的である、建築さへすれば稅金は徵らない、從て稅の重きは問題として論ずべき限りでないのである。

土地增價稅　この稅は土地の賣買ある毎に其の土地を獲得した當時の價格を標準とし、標準價格と賣買價格の差額の幾分かを賣主から徵收し、又は同一地主が一定の年期間引續所有するときは、公平な評價機關を設けて時價を評定せしめ、その期間內の增價に對し其の何割かを所有者から徵收せむとする考案であつた。從來本邦で本稅を興すべく行はれた運動は、主として收入の多きを主眼とし、或種の事業の財源を得べく目的とした關係から、その課率は增價格の百分の五—百分の四十位であつた。

然るに筆者今次の主張は絕對に地價の騰貴を抑制し、依て家賃の安定を策せむとする所謂社會政策的見地からするのであつて、收入を目的とする所以でないから、其の稅率は增價の全量としたい。すなはち增價あれば其の全量を公共團體に收へし、一錢一厘も私人には與ふべからずと言ふのである。土地增價の利得を私人に與へないことにすれば、地價に騰落を來すべき原因がなくなり、土地投機は自ら熄むべきである。蓋し土地は人間の創造した物でなく、空氣や水と等しく人間が生活する爲に共用せしむべく天與の惠澤であるから、資本家や商人等をして投機の目的に供せしむべき理由ありとは認め得ない。

只現在の所有者若は其の祖先が科學的計算を基礎として支拂つた代價と、特に加へられた改良その他有益事業の爲に投下した資本の對價を保有せしむれば足らう。而して之が實施に付ては賣買價格を僞り不當に土地の賃貸料を貪らむとする徒の簇出を豫防すべく、其の初頭に於ては土地所有者又は地上權者をして賃貸料算出の基礎たるべき時價を、その後賣買ありしときは其の都度の賣買價格を、共に公共團體に申告せしめ、さらに公共團體は其の申告價格を公示することゝし、以て地價の騰貴を理由としての賃貸料の引上を絕對不可能ならしめむとする。

しかも尙より以上に高き保存價格若は賣買價格の申告を爲す地主あれば、これを其の原價に比較し苟も增價を認むるに於ては、所謂增價額の全量を公共團體に收入し土地所有者には其の利益を與へないことゝするのである。

五　建築資金を得る爲の新企業

都市住宅の問題は敷地の地料調節に次いで更に重要な事項に建築資金を如何にすべきかの夫れがある、勿論住宅の全部を都市の公營とする必要はないが之を純然たる營利的企業として放任せず、社會政策的事業たる性質を最も濃厚に加味せしむる必要は認めぬ譯には行かない。これが爲には都市をして資金融通の任に當らしめ其の對償として經營に干與する權能を與へる、しかも其の資金の調達が問

題であり又難題である。我等はこの難題に對し左の諸問題を提供し、かつ意見を陳べ、かつ研究を要求する。

火災保險の公營　建物はこを創設すると同時に其の毀損亡失を防ぐに足るだけの準備を要する、殊に生活上絶對的の安全を要する住宅に於て然りである。而して其の毀損亡失の原因を爲す災厄中最も恐るべきものに火災がある諺にも恐るべきものとしての標語に地震、雷鳴、火事、親爺と言ふことがある位だから恐れざるを得ない。

火災保險は罹災後に於ける再興を目的とする善後處置の一で、絶對的火災防禦の方法では勿論ないが、消極的除損手段の一と言へやう。我等はこの除損方法としての火災保險事業の經營を都市の公營施設とする途を開きたいと思ふ。蓋し火災防禦に於て必須的要件は水道の設備と消防機關の充足であらう。否、水道と消防機關の存在は積極的火災保險施設の一と斷言するも敢て過言であるまい。而して都市は水道を所有し、市民は國民又は府縣民若は自己の名に於て消防機關に要する費用を負擔して居るのである。すなはち其の名目の如何に拘らず、既に火災保險上積極的部分を擔當してゐる。しかも所謂消極的の火災保險業の經營は許されてゐない、保險事業は株式會社又は相互會社に非されば之を營むことを得ずとの禁令あるが爲である(保險業法第二條　然れども都市住宅の供給が公共的施設であり、而して之れが建築資金の供給を都市に於て斡旋調達の勞をとるに於ては、所謂火災保險事業を營利業者の一手に放任し置くべき謂はれはない、況や積極的火災保險の機關たる水道及消防に要する費用を負擔する事實あるおや、併し乍ら我等は所謂火災保險業の全部を現在の營業者から奪ふて之を都市に與へ、彼等を都市の境域外に驅逐せむとする者ではない。都市が住宅建築資金を斡旋し供給する關係に因り、市内住宅の爲にする火災保險のみは都市自ら之を擔當し、その終りを全ふせむとするに過ぎない。而して之が實施方法としては家屋所有者の意向如何に拘らず、各建築物の建築費を標準に一定の保險率を定め、家屋稅と同樣に賦課徵收する途を設けて罹災者の保護に任じ、不幸にして一朝罹災者を生じたるときは、被保險者の請求を待たず保險金を交付し又は代家屋を建てゝ與ふることゝする。而して保險事業の經營に依りて生ずる收益は、保險準備金として蓄積するものを除くの他は總て住宅建築資金として、低利を以て融通せむとするのである。

論者或は謂はむ都市の火災保險經營は其の趣旨に於て敢て不可としない。しかも不幸にして一朝都市の大半若は其の全部を燒失するが如き大火に遭遇したる場合ありとして、都市は果して保險義務を盡すだけの資力及覺悟ありや如何。想ふに火災の如きは慘禍の劇甚なるに拘らず其の被害地は比較的狹隘であるしかも之が一都市若は一町村の大部分に延燒することは絶無でない、否現に幾多の事例がある。然るに其の保險區域を一都市一町村と言ふが如き狹き區域に局限するは、保險料の收入少きに反し負擔上の危險は多きに過ぐる嫌がある。從て所謂保險區域は一國若は全世界と言ふが如く廣き區域を對象としなければならない。保險料の吸集範圍を增大するに反し、安全地帶を擴張し危險率を薄くする利益あるが故である。さらに現制に依れば再保險の方法に依り危險負擔を同業者に分配し、依て自己の負擔を輕減し得る利益もある。然るに斯かる安全方法を無視してまで之を都市の獨占に歸せしめむとするは、當然あるべき火災の殺到を無視し、收益のみに垂涎した偶發的議論で、その結果は薪を荷ふて猛火に投ずるに等しき愚論たるを免れないと。

蓋し火災保險を目して營利の一點に歸せしむべき前提の下に爲された議論ではなからうか、火災に因り一都市の全部若は其の大部分を燒いた例はある、近くは大正十二年關震に因り東京横濱を燒いた如きも夫れだ。しかも當年の火災に對し保險業者は誠實に其の損害を塡補したか如何か。これを保險業者が被保險者に交付せる保險證券に看るに『當會社は本證券裏面記載の約款に基きて火災保險契約を締結せり仍て前記保險の目的が火災に罹りたるときは前記の保險金額を限り其損害塡補の責に任すべし』とある。これあるが爲に被

保險者は會社に向て損害塡補の請求をしたが會社は應じない、所謂保險證券に左の如き保險約款あるが爲であつた。

左に揭ぐる損害は當會社塡補の責に任せず

一、保險契約者又は被保險者の惡意又は重大なる過失に因り生じたる損害

一、火災の際保險の目的を紛失し又は窃取せられたるより生じたる損害

一、保險の目的の性質、瑕疵又は自然の消耗に因り生じたる損害

一、原因の直接と間接とを問はず戰爭暴動一揆其他の事變の爲めに生じたる火災及び其延燒其他の損害

一、原因の直接と間接とを問はず地震又は噴火の爲めに生じたる火災及其延燒其他の損害

一、保險の目的中に存在し又は其目的に附屬する汽罐、汽機其他機罐の破裂又は火藥の爆發の爲めに生じたる火災其他の損害

一、保險契約者又は被保險者が法律命令に違反したるに因り生じたる損害

この約款の條項は蚊の足よりも小き活字もて所謂保險證券の裏面に他の條項と共に滿載されあるのだから大抵の人は讀むでゐない、讀むべき大切な條項である以上は過失は讀まない人にあるのである。從て保險業者を責むべき理由は少しもないがこの條項あるが爲に大火の原因となるべき事項に付ては保險業者は疾くに其の責任を免れて居るのである。かくの如く大火の原因と爲るべく想像し得らるゝ事項に付ては、すでに現在の保險業者が其の責任を免れてゐるこの事實を前に容易く其の原因を想像し得ない大火の襲來を想像しての議論は、所謂千中唯一の例を想像して現實の活題を抹殺せむとする類ではあるまい乎。要するに論者の議論は正論であらうけれども、保險業者はこの正論を實行する他、大火の原因と爲るべく想像し得らるゝ凡ゆる事項を擧げて保險約款の範圍外とした。この關係から看ると現在行はれある斯業は絶對的の保險ではない、被保險者が危惧の念を抱く亦避くべからざる理由ありと謂ふべきである。しかも彼等は莫大な利益配當を爲しかつ巨額な蓄積金を有して居る者さへあるのだから、經營よろしきを得れば有利に發展できる事業なることは自ら明かである。而已ならず都市公營の場合は基本金に對する利子の支拂を要するの外に、出資者に對し利益の配當を要しないから民營に比し收益の多額を豫想することが可能る。同時に火災に因る損失を絶對的に塡補しかつ如何なる場合に遭遇するも、破產倒產若は解散等の憂なき點に於て住宅所有者の心裡から危惧不安の念を一掃する副產物的利益もある

信託業の公營　信託行爲はこれを營むに付絶對的の禁令はないたゞ之を營業とする者に限り資本金百萬圓以上の株式會社たることを要する規定あるのみである。(信託業法第二條)從てこれを營業とせざる場合は私人たると公共團體たるとを問はず、信託法の規定さへ履めば何人でも可能る。就中公益信託や不在者の財產を管理する行爲の如きは其の性質から見て、都市の行ふ信託行爲として最も適當なるかの觀がある。而已ならず本邦に於ける信託制度は創始以來日尙淺く世人の多くは未だ信託の妙味を知らず、甚しきに至つては信託會社を目して他人の財產を無償にて獲得し、これが利用に因り會社の爲に收利を圖る者と思料しゐる者すらある。都市の信託公營は所謂信託行爲の趣旨精神を宣傳し、延てこれが普及を促進する手段ともなるのである。而して之を都市の公營とするに於ては保險の場合と等しく、出資者に利益の配當を要しないのみならず、火災保險の如く特定の出來事の爲に損失の塡補を要する如き資本を消耗する危險なきが故に一層有利な事業である。蓋し住宅建築の爲にする資金を得る方法としては便宜であり、委託者としても最も良き放資目標と謂ひ得やう。これ第二の策として提供する所以である。

第三策としては政府の低利資金を都市に於て貸付を受け、さらに住宅經營者に融通する方法を提供する。これは現に各種事業の爲に行はれかつ住宅建築の爲に實施せられた實例があり、萬人周知の事なるが故に方法其の他に付詳說する必要ないから省略する。その他住宅問題に付ては書きたいことは澤山あるけれども、約束の紙面に限りありて意に任せないから、近き將來を期して一先この稿を終る筆を置くに臨み讀者諸彦に深甚なる敬意を表し、謹で昭和庚午の新年を賀し奉る。

落葉開花一轉回　鐘鳴百八報春來
霜頭加雪還增健　起揭國旗擧壽杯

京都に於ける建築の回顧的展望

京都府建築監督官 和田甲一

京都に於ける最近の建築に就て別にやかましい議論でもなく、又批評でもなく、唯日常職務に從事しつゝ、偶々感じた事どもを、漫談的に綴つて見やうと思ふ。

山紫水明の千年の古都も『昭和だ〳〵』の合唱を聞く樣になつてからは、生れ出づる新しい力が急激に、勃興した樣であつて、山河襟帶をなす都の、こゝかしこには、赤い灯、青い灯の酒場が、グロテスクな姿を出現し初め、ジヤズの音は、加茂のせゝらぎに、響き渡るといふ有樣で、京極行進曲も、道頓堀のそれに對抗する世とはなつた。

一方都市計畫によつて、大小の路線は都の內外を縱橫に擴築され紅柄塗のサル戶格子の連つたオツトリした京の町並も、茲に面目一新し、頗る明るいモダーンな姿と變りつゝある。殊に四條、烏丸の二大路は、防火地區となつた關係上、特にこの傾向が著しい、曾ては柳櫻をこき交ぜた並木の下を衣冠束帶に、牛車を驅つて練り歩いた、平安京の何々通であつたのであるが、今は幅員何十メートルかの、ブルバーとなり、アスファルト、コンクリートにペーブせられて、坦々砥の如く、數層の建物は、其の兩側に櫛比し、圓タクの洪水に、もまれる人波は、『雷』さまでアダ名される交通巡査を、必要とする時代とはなつた。

斯の如き世の情勢が、どうして京の建築に、影響を見せずして濟されやうか、先づ最近コンクリートに變つた目星しい新建築を拾つて見やう。

○

千鳥鳴く鴨の涼床で名高い、花街先斗町に於ける鴨川踊の歌舞練場は、先年武田博士の設計によつて、鐵骨コンクリート造三階建の堂々たる洋館に改まつて、エレヴエーターで昇つてから、茶の湯の席につくといふ寸法で、總ての設備に、和洋の調和を圖つてある新式演舞場になつた。そして近頃は、其の內容に於ても、モボの禮讃して措かぬ、レビューもどきの舞踊を以つて、小屋との調和を、よく保つて居るそうである。之に對する鴨東祇園に於ける、ヨーイヤサ、チヤンチキリンの都踊も、御大典前頃には、京都有數の木造大建築である。その女紅場を、新式に改築するとの噂があつたが、今はどうなつたか談もないが、何れ多少のモダーン化は免れないであらう。又鐘の音にけぶる智恩院山內には、同院信徒婦人會の事業として、綠の松に圍まれて、外觀純和式の鐵骨コンクリート造を以つて華頂婦人會館が出來上つた。之れも武田博士の手に成つたもので、還境に調和を保ちつゝ、內部は現代的設備を遺憾なく完備したものであつて、安全な集會場として今や連日諸種の催物に、利用せられて居る。少し南して丸山公園に隣接しては大倉鶴彥翁の、喜壽記念とかの、祇園祭の鉾そのまゝの祇園閣がある、伊東博士の意匠によつて、之も鐵骨コンクリート造で百尺の空に聳えて居る。兎角の批評をする人もある樣だが京都新名物の一に加つた事は確かである。前にも書いた、青い灯赤い灯の親玉とも云ふべき、大料理店は四條橋畔に集つて居るが、口さがなき京童の、有平糖とアダ名を付けた八百政を始め、菊水館さては祇園館等、皆鐵筋コンクリート造の、高層建築物である。大小の所謂カフエーに到つては、新築に或は古家のお化粧に、到る處珍姿奇態を現はして、ジヤズの音と共に、盛んにモダーン氣分を發散して居る。四條橋畔の序に、最近完成した四條南座を擧げねばなるまい。改築前の同座は、大正の初年に建てられた木造の大建築であつて、左迄古くはなかつたのであるが、

どうした事か近時主要構造部に、非常な故障があつたので、昨年の顔見世芝居をすましてより、急いで改築に取かゝり、遂に本年の顔見世に、間に合したものである。外觀和式の鐵骨コンクリート造で正に鴨東の一偉觀をなして居る。お城の感じがあるといふ批評も、誠に尤の事と思はれるが、兎に角櫓も持つた、和樣の外觀は、一般に受けて居る樣である。そして目下は破れる樣な人氣を持つて、顔見世の蓋を明けて居る。此の小屋の設備等に付いては、何等變哲もないと思ふが、唯一寸變つた事は樂屋が屋根裏即觀覽席の天井裏にある事である。敷地の都合で斯うなつたらしいが、觀客の頭の上で鴈次郎がお白粉を塗つて居樣とはサラ〳〵氣が付くまいと思はれて微笑まれる。

○

近頃急激に變つた事の隨一とも云ふべきものは、小學校の建築である。曾て京都市民は小學校の形と云へば入母屋の起り破風で外長押付の和風で無ければその感じが起らないと迄言はれて居たそうであつて、先年佐野博士は、建築協會主催の耐火構造宣傳の演壇上より、其の無禮を公衆に戒められた事があつて、未だその聲は耳に殘つて居る程である。然るに今や小學校は鐵筋コンクリート造の、三四階建で、屋上に遊歩場を備へたる、モダーンな外觀を持つものでなければ、承知しないといふ事に變化して、各學區は競つて其の改築に熱狂し、市の營繕課を手古摺して居る。然し最近に於ては、緊縮風が起債の火元を吹き拂つたので、右の熱も漸く下火の樣子である。

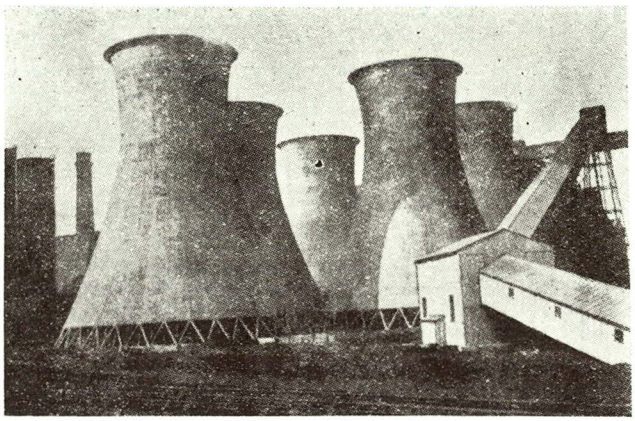
京はお寺の都である。お寺は京の主要存在である。而して其の內特建指定のもの又は、由緒ある寺院にあつては、浮世の風もジヤズの音も他所に、昔乍らの其の姿を、紫の山に包まれて悠然としてオサまつて居るが、市井に散在するものに到つては、經濟的に又實用上よりその改築に付て、種々の問題があるらしい。社寺行政を司る其筋も、この變化に對しては、隨分とブレーキをかけては居る樣だが、最近遂に鐵筋コンクリートのお寺、西光寺が東七條に建築中であつて、此の變化は今後何處迄行くか見當が付かない。寺院又は神社附屬の、寶物庫に到つては、既にコンクリート化したものが、北野神社、太秦廣隆寺其他に完成して居るものが尠くない。

○

以上の如く閑雅靜寂を象徵して居る樣な、京都の名を持つ都に於ても、時代の力には敵し兼ねて、漸次其の名に背く姿を現し初めた。此の現象を自然の成行として、放任してよいであらうか、心ある人(多くは相當の年配の人)は大に之を慨嘆し、このモダーン化に對し嚴重なるブレーキをかけ、京都らしくない建築物は、悉く之を絶滅し、以て昔乍らの京都を維持する必要ありと、力說して居るのである。勿論京都の特色を保持する事は、京都を生かす所以であつて、誠に緊要の事である。是非ともやらねばならぬものとは思ふが、如何に京都らしくありたいと言ふても、何でも彼でも閑雅靜寂一點張では、第一生きて行けるであらうか。古都とは言へ生きた都である、生長しつゝある都會である以上、全然死んだ飾物の樣にもなれないであらう。その邊の調和が非常に大切で、又實に至難の事と思ふ。今其の第一步とも見るべき施設が進められつゝある。即ち都市計畫の施設として、布團着て寢たる姿の東山を初め、四圍に連なる翠巒一帶共に、加茂磧の兩岸等を、風致地區に指定して、現狀の破壞を禁じ、風致を損ずる建造物を取締ふと言ふのであつて、近く決定公布を見る筈であるから、其の一帶の名勝は、安全に後世に傳へ得る事とはなつた。斯樣に名勝舊跡を抱擁する一帶其の他必要ある一定の土地を限り、堅くブレーキをかけて京都の特色を何處迄も維持しつゝ、其の他の土地は自由に時代に順應した現代的都市となしてこそ、初めて京都らしい都市計畫が出來るのではあるまいか。又此の區分に從つて、京都の建築にも自ら色分が出來るのではあるまいか。

何と言ふても京都は優雅の土地である。建物の屋根が京らしい。木の葉がくれに勾配の緩い、檜皮葺か柿葺の屋根が、シツトリと青苔を置いた姿は、何處にも求め難

い情趣であらうと思ふ。故に當地に相當の邸宅を營む程の人達は其の大部分が此の特色を慕ふて、屋根にこの種の材を用ひたがる事が多いのであるが、建築物法の規定中には、神社、茶室、四阿の類又は輕微なる庇の類に限つて、土地の狀況によつては許可されるのみで、其の他のものは絶對的に不燃材で葺かなくてはならぬ事になつて居る。而して右の建物の多くは、廣大なる庭園に圍まれた場所であつて、唯輕微ならざる庇の程度のものである。保安上の危險も左迄案ずる程でもない、此の場合其の取扱に苦しむのである。劃一的の規定に對する愚痴が出るのは此等の取扱に對する批難を受ける際であつて、其他構造手法等の細部に至つても、此種の惱みは、京都らしいと言ふ建築物には相當に多い事が察せられると思ふ。



スピード時代　近代工業に見る奇怪なテント　リスター・ドライヴ所在リヴアープール發電所の混凝土製冷却塔。その奇妙な形は一作家をして巨人の幕營だと評せしめた。

○

市街地建築物法が施行せられて以來、却つて普通住宅の建物が惡くなつたと言ふ話は、常に聞かされる處であつて、或は京都だけの事ではないかも知れぬ。この說は只結果からのみ見るときは、之を裏書する多くの事實があるのであつて、全然無稽の事ではない。然し其の理由は他にあるのであつて、決して建築物法の罪ではない。否若し之なかりせば尙一層惡化した事と思はれる。今其の理由を考察するに、建築物法の施行せられたる大正九年前後より、我國には未曾有の住宅難が襲來した。その結果當地の如きは、從來は祖先傳來の家持と稱する旦那樣であつた家主の手堅き住宅經營が茲に一變して、利廻り採算にスマートな、現代的建築投資家に代はつたのである。そこで今迄は其の經營方針を如實に表はす如き堅實な構造であつて寧ろ木太に失する程の恒久性ある借住宅が、採算に急にして只最少限の必要を充すに止る借家普請と變つた事が、第一に擧げられる原因だと思ふ。又其の影響は從來借地上の建築が殆んど無かつた當地方に於て、今は郊外の新市街地は、概ね借地建築になつたといふ程の變化を來した。此の變化が又建物の質低下に、大に與つて力あるものと考へられる。更に驚くべき事は、是等借地に依る住宅經營家の中には、最初無一文のものが先づ借金によつて借家を建て、その未完成の內に早くも之を擔保として第二の借金をなし、更に之を級數的に繰返すのであつて、其の道程に於ては、無論材料も諸職の工賃も、殆んど踏倒しに等しきものとなし、末は喧嘩別れとなつて順次請負人を取替へて、之を經續するのである。この手段によつて數萬の不當利得を得たるものもあるそうである。斯の如き經過により設けられた建築物にどうして質の良いものが出來るであらうか。勘定高いと言ふ評はあつても、悠容迫らざる、京都人の中に、實に物凄いものが、現れるもので、時勢の變化とは言へ、誠に恐ろしい事である。最も此の種の輩は、土着の人に非ずして、外來のものに依つて行はれて居るのかも知れない。外來と言へば、大工其他の職工に、外來者漸く多くして、彼の關東の、ナグリ仕事を輸入した結果が、京の建築を、惡化したと稱ふる事も屢々聞くが、或は彼の關東大震災の際などには、斯樣の事實もあつた事と、推察し得られるのである。以上諸々の原因により、其の結果に於ては、昔の京の建築に比し、質の低下したものが、目立つて殖えた事は事實であつて『建築物法の施行以來、建物が惡くなつた』の惡評を恰も時を同じくして生れた。此の法律が背負される事とな

つたのである。

○

世相の變化は日に月に、時々刻々止る所を知らないであらう、結局『京都の建築は何處へ行く?』と



京都と建築

大倉三郎

は非常に重大な問題で、又此の世界に比類なき、千年の古都を、生かすか死なすかの鍵であると思ふ。從つて此の題目は啻に京都一地方の問題に非ずして、我國內の重要議題であると思ふ。天下有識の士須く此の問題に、明快な指針を與ふるならば、それはひとり京都のみの幸でないと思ふ。兎に角新舊の調和と、自然と人工との偕調が、圓滿に且つ、理想的に行はれて、そこに初めて、其の光明を見出す事が出來ると信ずる。取纏めなき漫談に貴重なる紙面を汚した事を謝して筆を擱く。(四、一二、初旬)

京都は千年の古都、今尙靜寂と平安の都として古蹟遺物に富み、近郊至るところ偉大なる先人遺構の跡に親しく接することができる。それは藝術とさびの世界、京都の寧ろ日本の古い歷史が物語る傳統と美の世界である。

一度び歩を附近の郊外に向けるなれば天然美の中に澄み切つた單純さをもつ田家のたゞずまいや神社佛閣の奥床しい幽邃、さては靜かな偕調とものさびの極致を如實に示す茶室や庭園など到るところに散在し、吾々をして日本の傳統的な美の示す心境に心ゆくばかり浸たることができる。それは直ちに萬葉集や源氏物語の國であり、芭蕉や利久の味到した境地である。もしも時間と勞を惜まないでかゝる山野を逍遙して先人の遺せる洗練されたる藝術に接するなれば、心はいつしかその境地に彷徨して無限の感興に打たれ、胸にせまる美の渴仰に恍惚として吾を忘れ時を忘るゝに至る。このことは單に古典美術に關心をもつものゝみの經驗ではないであらう。之を單なる懷古的デイレッタンテイズムに過ぎないと云ふものは眞に我國の古典藝術の心境を解せざるものであり、皮相、淺薄のそしりをまぬがれないものである。

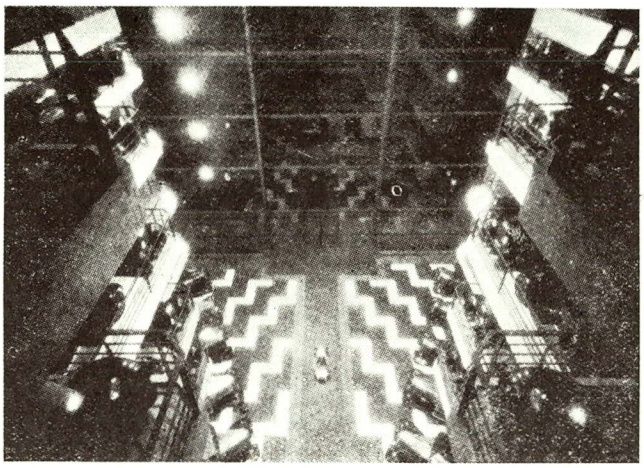
京都の山水は美しいであらう、清遊と四季の行樂には他に味へない興味もあらう。しかしながら此等は京都の有し得る唯一の誇りではない。偉大なる先人の味徹せる日本の古い藝術その香り高い氣稟を味ひ得るこの境地こそ京都最初の誇りであり、喜びであり、そこに感ずる吾々の心境こそ京都特有の雰圍氣でなければならないと思ふ。然るに、今一度歩を轉じて京都の市街に向ふなれば、こゝにも現代文明の混沌たる色彩は濃厚に繪取られて喧噪と混亂の巷を現出してゐる。或はローマのオーダーが誇りげに居並び、或はスペインの彫刻が首を出し、その隣りには繩のれんが得意顏に控へてゐる。醜惡なる廣告塔と看板と、電氣の明滅。アメリカニズムとコンマーシヤリズム。もしも靜寂なる境域に古藝術を味ふ心境から突如街頭に歩を運ぶなれば、その雰圍氣のあまりの變化に一驚を喫しないものがあらうか。

□

この大なる矛盾は吾々に何を語るか。これは單に京都ばかりの問題ではない、東京も大阪も寧ろ日本全體の今日味ひつゝある惱みであらう。獨り京都に於てはその傳統的色彩から特にこの感を深くするのである。

然しながら一方京都と雖も近代思想の洗禮をうけた都會である。

近代都市としてのあらゆる文物制度、その施設に於ても又その建築に於ても近代文化を背景として形造られることに何等の疑ひもない。時代には時代の思想があり文化がある。新しい内容は新しい外形な要求することに何等の不思議はない。時を基準として文化乃至藝術の變遷を縱斷的に觀察するなれば、時代の變遷と共に藝術も美術もあらゆる形式の變遷することは火を見るよりも明かである。今日の造型形式に苦むした古代の形式をあてはめ様とすることの非なることは、これをもつてしても論をまたないところである。だから京都に西洋建築が建並び、乘合自動車の疾走することに不思議はないのであるが、その形相のあまりの無反省と無秩序とに驚かざるを得ないのである。



スピード時代　硝子の家に入る人々　巴里に於ける最新最大の間かレーヂ内部。實用的な車庫と言ふよりは超近代的な硝子張の一場面の如く見える。街路面は六階を通ずる最新宛ら劇場の如き外觀である。設計者アルベール、ラプラード氏。

最近京都に現出した多くの建築物を一瞥するなれば、そこに二つの大きな傾向がある様に思はれる。一は傳統から一歩も出てない從來の純日本の形式を踏襲するものであり、他は西洋建築直輸入か然らずんば之が改惡に過ぎない似是非建築である。前者は無智、無反省に從來の傳統を受入れてそのまゝ習慣的に踏襲してゐるか、又は意識的に京都と云ふ氣持を重んじ之を誇示せんとしたものもあるであらう。しかし此等は何れにしてもあまりに唯外見の形骸のみに捉はれて何等の生命も内容もない、云はゞ死んだ形骸に過ぎないものが多い。

或一團の人は云ふであらう。近來日本文化の傾向は物質文明過重の結果固有の奥床しい藝術は冒瀆され、人々は荒廢し、傳統的な古典美は日毎に破壞され西洋文明移入の混沌たる亂舞をもたらして遂に日本を壞しつゝある。之を救ふ唯一の道は傳統の美を崇め、日本固有の精神的な美を反省することであると。

かゝる考へ方が時代の調節辨として、清涼劑として淺薄に無節度に盲目的な洋風模倣に驅られた一部の人々に向つて重要なる反省の機緣となるなれば、感謝せなければならない。

□

しかし乍らもしもこゝに他の一團の人々があつてかゝる所言の下にかくれて、今日の時代の文化史的意味と生活の時代的特徴とに開眼することなく、彼自らの無智と無自覺とを蔽ひ、徒らに似て非なる傳統を弄ぶディレッタンテイズムの辨解に供するなれば、私はこゝにかゝる考へ方の廣く横行することに就て強い異議を申し出でなければならない。何故なればそれは彼等の危ぶむ洋風模倣以上に我が建築界に一抹の暗影を投げその未來を害するが爲である。

日本の京都の古い藝術を誰れが拒否せう。そこにはそれが營んだ過去の生活に即して一つの完成した美があつた。これが持つ古典としての價値を吾々はいつの世にも嘆賞するを惜みはしない。ものさびと調和の韻。朗らかな晴れと深い靜寂、直線と曲線の美しい諧調、完璧を極めた單純の效果。かゝる藝術は偉大なるものがすべてそうである様に、その藝術の心境乃至意識は何時の世にも時代とは關係なく最高價値をもつて生きるに違ひない。

併しながらその美或は作品のもつ條件、内容や形式はその時代性に縛られて動かすに唯古典としての價値をのみ殘してゆくものである。それは過去に於て先人が營んだその時代の生活、條件、技能をもつてして生れた文化の結晶であ

つて、その作者がその時代の文化の中で如何に生き、如何に味ひ、如何に構想をめぐらしたかの遺稿遺書たるに過ぎない。

それにも拘らず外形を徒らに模して傳習と固定した形式を盲目的に踏襲して、輕卒にもこれこそ日本の眞の美であるとするに至つては、これほど得手勝手なものはありはしない。しかもそれが日本藝術の疲弊期における庶飾、虚構の多きものに於てをやである。之が日本の過去の偉大なる藝術、先人の透徹せる心境に對する大なる冒瀆に非ずして何であらう。

□

過去に於ける偉大なる藝術の先驅者達の心を動かしたものは、その過去の時代に於ける文化乃至生活意識であつたのである。その偉大なる心がいつの世にも變らないなれば、その生き方、味ひ方を以て、現代文化乃至生活意識を如何に生き、如何に受入れ、如何に味つたかを吾等の子孫にまた一つの古典として殘すのが、吾等の眞實の態度でなければならぬ。そしてそれは必ず生き方にも、味ひ方にも、過去の時代とは全く異つた現代文化に即したものがあるに違ひない。

その生き方、味ひ方はその目的方法を異にするであらうけれども、唯一つこゝに變らないものは不斷に時代と生活に觸れてゆく心、絶え間なく新しい要求を紡ぎ出し、常に對象に働きかけ、新しき興味を見出し、いつも美を建てたり、毀したり、眞を作つたり、破つたりしてゆく心。時代と生活に眞實であり、そこに藝術と美を味ふ心である。

日本古典の盲目的踏襲に對立して他の一つの傾向を示すものは、洋風建築に對する過信的讃美である。之に就ては多くの言を要しない。

外國の特殊の文化と雰圍氣に生育して、その機能と美の要求とを完全なる充足にもたらした洋風建築が、その固定した形式に於て直ちに我國に持ち來らすことの誤りであることは言ふまでもないことであり、國民性を異にし生活氣稟を異にするものであるのに、特殊の氣候と風土とを持つてをり、之が建築への關係が既に科學的に說明されてさへゐるものであるのにそして今日現在の日本の生活文化の特殊の機能を充足する建築が生る可きが當然であるのに、そうでなければ日本の近代建築史は無意味となるのに、今日に於てその仕事に棄權して、過去の洋風の型式を踏襲してその型式感にまで逆行することを云ふのは、之が大なる矛盾でなくて何であらう。

□

今日までの建築の歩みを廣く横斷的に觀察するなれば各地方各國々によつて特種の風土、文化を背景として個有の特徴ある色彩を有することは今更ら喋々を要しない。

あらゆる意味に於て今日の建築は去就に迷つた様な姿が見出される。それはとりも直さず社會一般の人心の不整、無秩序の反映ではあるが、之を統一して正當なる進行を促すものは、唯一つ時代を正當に觀、地方的雰圍氣を素直に感じ、そこに自己の充全を見出す心であらねばならぬ。之を退歩と混亂に導くものは美を古典と習慣と概念の中にのみ求める心、異を衒ひ、己を欺き、輕佻に走る心である。

時の變遷を縦座標にとり、地方的區別を横座標にとつて一つの座標を造つて見る。現代の點から引いた横線と、京都の點から引いた縦線とは期せずしてこゝに一つの點を決定する。

この一點は『いま』『こゝ』に生きてゆき、感じてゆき、摑んでゆく心の一點であり、その心の苗床に植えつけられた建築こそ眞の京都の建築ではあるまいか。

最近京都に建てられたものゝ中にもほんたうによい建築が可成にある。しかしそれ等は砂中に金を採るが如く、寥々としてあまりに少なさ過ぎることは遺憾に堪えない。

それではどんな建築が眞に京都の建築であるかと問はれるならばそれに答ふる具體的な形は何も頭の中にない。唯そこには如實如境の心あるのみである。

騒々しい大阪から又東京から京都の停車場に降りる、大氣は清く澄んで冷氣さへ覺える、靜寂と明徹、快よい空氣の感觸、落着きを得た心、ごこなく朗らかな氣持

ちが涌いてくる、晴れと寂しみと單純の偕調。之が京都を色彩づける心の土臺であると思ふ。

桂離宮や孤蓬庵等の藝術の香り高い建築を味ふ氣持ちが、科學と民衆の生くべき今日の建築に自ら現れ得ないものだらうか。

□

最近のドイツやフランスの新しい建築に見る、日本建築に多くの類似を有する單純さと眞實性を味ふ氣持ちから一つの暗示を與へられないであらうか。

要は精神の活力の問題である。

技術の拙劣はロマネスクの彫刻裝飾にさへも吾々は、人間的な共感を抱き無限の美しさを感ずることができる。それは自然と人間との直接の感銘に浸つて自己の中に生ける自然の精神を取扱つたからであり、之を同じ形を眞似て如何に手際よく適用するとも、模倣は遂に死んだ人爲の形であり生きた裝飾にはならないのである。單に形式的な表面裝飾として眼に映ずるに過ぎない。

生きた建築、それは取りも直さず常に『いま』と『こゝ』にある心から必然的に出發する。イタリーのレネサンスやフランスのロココの建築がそうではなかつたらうか。平等院の鳳凰堂や唐招提寺の金堂がそうではなかつたらうか。

京都には他市に率先して風致地區の指定があり、近く更に之が區域を擴大されんとしてゐる。しかし眞に這般の關係に觸れないならば法のみがどうして建築の生ける心を左右し得られ樣か。寧ろ之が活用を誤るなれば唯建築の屍を隨所にさらす結果に終りはしないだらうか。もしも生ける法の眼によつて充分に活用されるなれば、更に市内全般に亘つて區域を擴張されんことを望みたくも思ふ。

藝術の精神を精神とし之を鑑賞する氣高い氣持ち、隨緣隨境に新しく生きてゆき感じてゆく素直な氣持ち、之が京都の建築を形造らねばならないと思ふ。少くとも疲れ切つて凝り固つた技術家根生と醜い得意を鐵面皮に大道にさらす商人氣質の貧弱な想像に停滯した建築は京都から追ひやりたいと希ふ。



愚考三題

工學士 中尾保

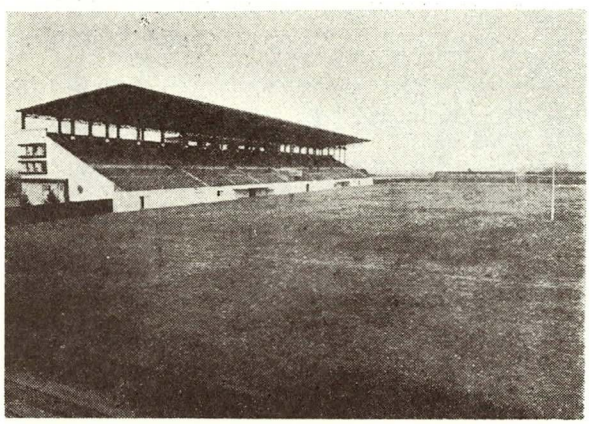
建築家は何れもスペツシヤリストたれ

一九二七年の暮私が海外へ鹿島だつ前、京大の武田先生から『外國へ行つたら是非スタディアムの研究をして來給へ、そして歸つたら大學でその講義をして貰ひ度いのだ』と云はれて急に私は大いに感ずるところがあつた。

『自分がスタディアムを研究するに最も好いコンディションに在る身だ、日本の建築家の誰よりも競技場を理解するのに一等惠まれた位置に在るこれは大に努力すべきだ』と何だか責任でもあるかの如き感がした。

それ以來私は專心競技場の研究に沒頭し、歐洲ではギリシヤ、ローマの古いところから最近出來たアムステルダムのオリムピック會場に至るまで先づ一通りの視察も し研究もして相當の自信も得て自惚れて居たところ、歸朝早々花園ラグビー場の設計に當り急に自尊心を傷つけた。それは自分の研究がまだ〳〵足りない事を知つたからである。それで同時に凡そ物事は解れば解る程ムヅかしくなるものだと云ふことも今更の如くさとつた。

特に最近某所に計畫された水泳場の設計に際してはラクビー場以上の苦心を要した。先年設計した濱寺の庭球場はラクに出來た。美吉野グラウンド（陸上、野球、庭



花園ラクビー競技場スタンド外觀　　設計　中尾保氏

球、相撲場へも比較的容易に出來た。然るにその當時より頭が進んで居る筈の自分が何故この種の設計に苦しむ樣になつたか。殊に水泳場に至つては一層の困難さを感ずるのは何故であるか。誇るべきか、恥づべきか、私は何時も水泳場の設計を最も困難として居る。それは自分があまりに水泳を知り過ぎて居るからである。私はスイマーとしてまた役員として大抵の水泳大會に關係して來た。世界中の水泳選手を知つて居る、また彼等の氣分も充分呑み込んで居る。それが爲水泳場の設計が寧ろ困難となるのである。

凡そいづれの建築にしてもその機能の眞髓を充分に理解せなければ如何なる名建築家と雖もその設計にどこか間の拔けたところがある。

そのつもりで各種の建築を一々見て廻ればよくわかる。例を擧げると設計者に失禮だからそれは止めるが一人の建築家が病院もやれば商店もやる、學校もやればカフエーもやる、劇場、株式取引所、敎會寺院、ホテル、新聞社、停車場と何でもござれで、手當り次第に設計するから一つとして好いものが出來やう筈がない。

若しそれが出來たらそれこそ弘法大師以上の天才である。望まほしきことながら普通人ならば天才と雖も住宅を除いて先づ三種を出づることが出來まい。一種でさへも容易でないのが普通である。(『住宅を除いて』と云ふことについては今此處で、述べると長くなるから他日に讓る)。

『借家の設計は大家に限る』『お寺の設計は坊さんがうまい』といふことを聞いて苦笑したことがある。何と云ふ皮肉振りであらう。それ程現代の建築家に定見がないのである。しかしこれには無理のないところもある。一人々々の建築家の罪でなく、これは全く建築界全體の罪である。何となれば今一人のスペツシヤリストが出來ても、その人が設計のお鉢がまはつてくるまで待つて居るとパンが得られぬ。止むを得ず他のものに手を出すと云ふことになる。であるから建築家のすべてがスペツシヤリストにならねばならぬ、又斯くあるべきは當然である。

今こゝに學校、銀行、百貨店、劇場、競技場、ホテル……等十種の建築が計畫されその一種が夫々十個宛あり、又設計に當る建築家が十人ありとする。この場合十人共スペツシヤリストならば、各その專門とするものを十個設計することが出來る。例へば學校をやる人は學校ばかり十個、銀行をやる人は銀行ばかり十個と云ふ風になり、從つて好い建築を社會に提供することになる。こゝろで十人の建築家がその設計を取り合ひすると一人で學校も、劇場も、ホテルも百貨店も別種のものを得なければならぬことになり、從つてその結果は弘法大師に非ざる限り何れも惡い建築を世に出さねばならぬことになる。現代は敢てこれをやつて居るのだから困つたものだ。一つの建築が計畫されるとまるで砂糖に蟻がたかる樣にあつちの事務所もこつちの事務所もプランとパースペクテイブを畫いて『何うぞ私のところに』『……』と三拜九拜で喞集する。建築家もかうなればあさましいものだ。

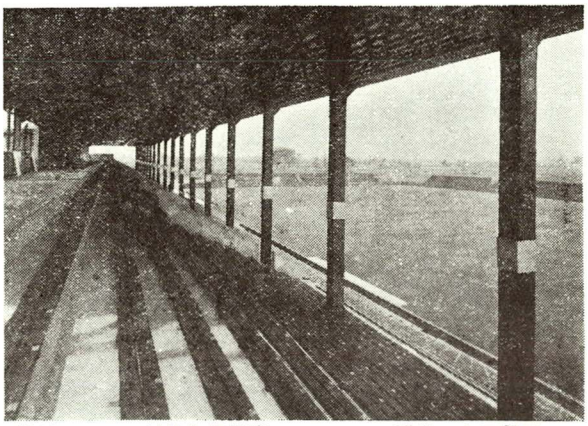
一方では建築家の社會的地位向上だの人格云々を口にしながら裏へ廻ればこの有樣だからお話にならぬ。社會的地位を自ら低くし人格を自ら傷けて居るのである。醫者は頭を下げずとも患者が集る。それは何れもスペツシヤリストであるからである。

建築界も醫藥界に倣ふがよい。醫者を設計專門家とすれば、丁度藥劑師は計算專門家に相當する。この點は現在の建築界も割合に理想に近くなつて來たことは慶すべ

きである。

以上述べたスペツシヤリストとは勿論デザイナーを意味するもので醫者に內科、外科、眼科、齒科、小兒科と夫々專門的に別れて居る如く、建築家もこれに相當するスペツシヤリストたれと敢て叫ぶものである。

こゝに附け加へて云はねばならぬことは、スペツシヤリストと雖もその知識は自己の專門の範圍を一步も出ないと云ふのでは眞のスペツシヤリストたるの資格がない。醫者は人體一と通りの生理、病理は勿論のこと臨床のことも心得て居てその上一つの專門を定める如く、建築家も斯くあるべきは當然である。學校には集會所もあればジムナジウムもある。百貨店には食堂もあれば集會所や展覽會場もある。船にキヤビンあり汽車に寢臺ありですべてのものは綜合的であり且つ獨立した特徵を持つて居る。"English and Engineer" と云ふ書物に "Engineers must know something of everything and everything of something" と云ふことを敎へて居る。



設計　中尾保氏　競技場觀覽席　ラクビー場花園

技師たる者は須くすべてのもの〻何程かを知ると同時に、何物かのすべてを知らねばならぬ。即ちすべてのものに對して多少の知識を得、而してその中の一つを專門的に深く研究せよと云ふことである、吾人の味ふべき言葉だと思ふ。

何にしても將來の建築家は各種夫々の專門家となり內輪喧嘩を止めて共存共榮の實をあげるべく一致協力し、以つて建築家の社會的地位の向上をはからねばならぬと思ふ。

古いものと新しいもの

『新しい』と云ふことは『古い』の對稱語である。古いものがあるから新しいもの〻存在を認識し得るのである。從つて古いことを知らぬ者が新しいことの解る筈がない。

現在は過去の連續であり、又現在は將來の過去となるべきものである。こんな解りきつた理屈を知らぬ人達が世の中に隨分澤山居るのだから困つたものだ。

『新しいもの』が天降り式の偶然だと心得て古いものに對する何の知識もなく、新しいものを論ずる不心得者の居ることを痛嘆する。

『モダーン』と云ふ言葉は近頃旺んに用ひられるが、モダーンの眞意も解せずして、やれ『モダーンの尖端』だの『モダーン化』だの『モダニズム』だのと徒らにモダーンを振り廻して喜んで居る憐むべき人種が居るが、彼等の唱ふるモダーンは『所謂モダーン』にして眞のモダーンを解して居ない。

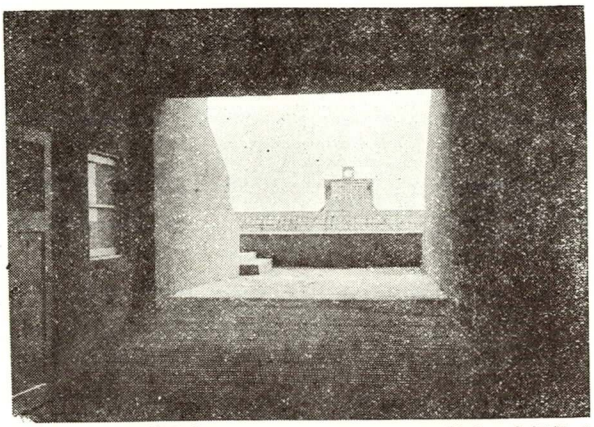
建築家の中にもこの種の人間の多いのを誠に遺憾に思ふ。

苟くも新しいものを論ぜんと欲せば先づ歷史を研究する必要がある。歷史を知らずして現在や將來を語ることは禁物である。

これだけは止めてもらひ度い。

私は昨年『パリ』で或る日本の建築家を『ノートルダーム』へ案內して種々說明して居る中に言たま〳〵古美術に及びギリシヤ、ローマ、ビザンチンから遂に回敎を通じて東洋趣味の捨て難いことを語つたが、彼も私の說に同意してくれたまではよかつたが、その歸途私は『明日ル・コルビシエ氏を訪問するここになつて居ますが貴方も御一緒に如何ですか』と誘つたら、彼は意外な顏つきで『貴方は古いものに趣味をもつて居らつしやるのに何うしてコルビシエ氏なんかのところへいらつしやるのですか』との事『いゝえ私は新しいものに趣味をもつて居るから古いものを研究して居るのです』彼は益々不思議さうな顏つきで『それは又何うしたことですか』と來た。私はそれ以上彼と會話を續ける勇氣はなかつた。

彼は日本に於て相當名の知れた



花園ラグビー競技場　設計　中尾保氏
スタンドより競技場を距てて正面に揭げた眞正面の寫眞を見渡せばコルビシエ氏の作品展覽會の如くベタ〳〵と張りつけて、彼はその中でムツシユ・フジタそつくりのお河童頭にロイド眼鏡をかけてパイプをくわへながらエツに入つて居る。私は彼を訪問する前

相當の地位にある建築家である。嘆ずべきことであつた。

かぶれることは止せ

最近或建築家を訪問した。その人の書齋を見渡せばコルビシエ氏の寫眞を眞正面に揭げ、あたりは一面にコルビシエ氏の作品展覽會の如くベタ〳〵と張りつけて、彼はその中でムツシユ・フジタそつくりのお河童頭にロイド眼鏡をかけてパイプをくわへながらエツに入つて居る。私は彼を訪問する前に彼に對する一と通りの豫備知識はもつて居たがその光景に接して唖然たらざるを得なかつた。

『ナール程、コル病患者とは君のことか？』と云ひたかつたがそれは止した。

彼はコル病の他にフジ病を併發して居ることも私は容易に診斷することが出來た。この種の患者が建築家の仲間にも隨分居ることは全く困りものだ。すべてのものにかぶれるとよくない『アバタもエクボ』こやらで物に對する判斷力を失ふ。

勿論コ氏の作品には立派なものも澤山ある。しかしコ氏自身がまだ未成品である。『私はまだ未成品です』とは謙遜かも知れないが彼自ら口にして居るところである。

日本建築家はコ氏に敬意を表することは、一向差支へはないが、神の如く崇拜してはならぬ。彼の說のすべてに吾人は無條件で贊成することは出來ぬ　日本の建築の解決は日本の建築家がすべきが當然である。外國建築家に教へられるところはあつてもかぶれるべきではない。

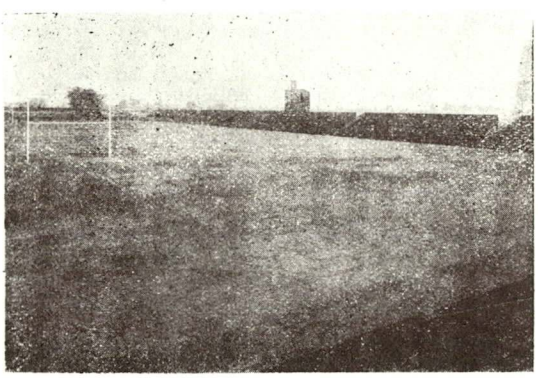
日本人は眞似が上手で何でもすぐイミテイシヨンをやる。これが日本人の長所であり且又短所である。尤もこの長所があつた爲明治維新當時から僅か六十年にして今日の程度にまで文化を向上せしめたのではあるが、今日は最早や外國崇拜イミテイシヨンの時代ではない。獨立した日本文化而も日本味の橫溢したインターナシヨナル文化を築き上げねばならぬ時代である。これには何と云つても建築家はその尖端に立たねばならぬ使命を有するのもこ信ずるのである。

一例をあげてみれば、窓の上に棒を突き出してあるのはよくオランダあたりで見受けるが、あれは三階、四階に住んで居る人が通りの物賣から物を買ふ際入れ物の中に金を入れて紐で吊し金こ品物とを入れ替へてもらつたら又その紐を手繰るので、あの出張りの棒はセミをつけてあるものである。棒の機能を知らないで徒に外國の寫眞でミミテイトするこ妙に滑稽なことになる。細長い巾一尺高さ八尺も九尺もあるあの窓は識家のアトリエに必要なものであの窓から大作を室外に運搬するのである。あの窓はそんな機能を持つたもの。それを知らずに徒らに奇をこらして、居間や客間に眞似するのは全く無意味も甚だしいことである。コルビシエ氏は『日本の建築家はなぜイミタシオンばかりするのか』と云つて笑つて居る。『笑ふ者は笑はせておけ！』と云へる程コ氏は低級な人ではない。

この邊お互に注意もし又研究もすべきであるまいか。

漫言多謝。

一九二九年、一二月誕生の日、中尾生



花園ラグビー競技場全景

昭和四年に於ける學校建築の趨勢

大阪市技師
工學士 富士岡重一

1

大阪市及び其の附近に於て昨年中に竣成したる大小の學校は其量に於ては相當多量にのぼつてゐるのである、恐らく他の種類の建築に比しては學校建築は遙に優勢であつたらうと云へる。

で先づ其内相當大なるものを擧げて見ると仁川の關西學院新校舍を第一とし、甲子園の甲陽中學校住吉區の府立天王寺中學校、長柄の關西大學の新築校舍等はいづれも總延坪二三千坪を算し鐵筋コンクリート構造の雄大なるものであるが、又小學校建築に至つては其數に於て質に於ても又量に於ても多數を算する事が出來る。今其校名を擧げて見れば大なるものとして南區の精華、金甌、高津の各小學校、天王寺第九、西區では靱、明治、西六、本田の各小學校、東區にては集英、眞田山、愛日の三校、下福島、濟美第三、堂島等を其雄なるものとする。右は其構造全部鐵筋コンクリート構造のもので學校としては整備せるものであるが其の他の一部改築又は增築等は擧げて數ふ可くもない。斯く多くの小學校が昨年中に改築事業の竣成したる事は昭和二年四月に學區廢止の制度が定まり學校建築の事業は擧げて全部市にて統一したる爲、其當時各學區にて改築計畫の議の熱して居たるものは一時に輩出して工事が始められたるに據るのである。それが爲めに一昨年あたり大阪市中あちこちに建てるコンクリート塔の多くは小學校建築のそれであつたのである。

斯く市の中心部に於ては優秀なる鐵筋コンクリートの三階或は四階建の小學校々舍が數多く出來たのであるが、市の周圍部に於ては矢張二階建木造校舍が又相當建築されたのである。

それは制限せられたる豫算を以て數多くの校舍を建て尙往年の二部教授の行はれて居る地方を改善せんとするが爲めであつて、從て新設校の計畫されたる方面も、遂年人口增加率の多い市岡方面、田邊方面、東部方面一帶の地であつた。同時に新設小學校の計畫されたるものは數校であつて場所も上記地方に設置せられたのが昨年中に其竣成を見て開校せられたるものは田邊地方の長池小學校と六甲山腹在の郊外學園の二校であつた

扨て茲に昨年現在の大阪市内小學校の鐵筋コンクリート構造に改められたるものと木造校舍のものとを各區に亘りて調査し以て、改築計畫等の考察に資せんとしたるものを擧げて如何なる方面に改築せられたるものがあるかを述べて見樣と思ふ。昨年現在にて校數は二百十八校を算する。而して其總面積は延坪として約二十六萬余坪であつて一校平均約千二百坪の割となり三階建校舍としては一校建坪四百坪が平均したる所のものである。

昭和四年現在大阪市各區小學校構造種別面積比較表

區別	校數	鐵筋コンクリート構造		木造構造	
東區	一七	一八、五八八坪		八、八二〇坪	
南區	一三	一五、八九六		五、二六九	
西區	一一	一四、〇九		七、七〇五	
北區	一九	一三、六四五		一三、〇四八	
浪速區	一六	八、三三五		一一、七九六	
天王寺區	一三	五、三八二		八、七四〇	
此花區	一五	四、〇四五		一七、三六八	
東淀川區	一八	一、〇一六		一四、六一九	
西淀川區	一四	七〇二		一一、四四〇	
西成區	一三	五六六		一一、三四	
港區	一七	—		三三、一一四	
東成區	一三	—		一一、六六八	
住吉區	一〇	—		一七、二四七	
計	二一八	八一、二一〇		一九、四七三	

此の表より見て次の樣な事が云へる。即ち

(一)鐵筋コンクリート校舍に改め

られたるものは舊市に屬するものに多く即ち東西南北の四區、浪速天王寺の大阪市の中心部であつて他は今尚甚だ貧弱なものであると之等のものと雖も新しき校として現はれたるものは一もなく凡て舊木造校舍を逐年改造するか又は他に新敷地を求めて新築移轉せるもので此は僅に北區に二校を算へるのみである。即ち堂島小學校と濟美第三小學校で其平面配置は稍理想に近いものとして見られる。

(二)次に各區で最も多く改造せられたるものを見れば南區が筆頭であつて區内の小學校中其四分の三は改造せられてあり、次は東區と西區の約三分の二、次で北區と浪速區の約二分の一、天王寺區の三分の一となる、此花區は僅に五分の一に過ぎない。他は殆んど全部木造校舍と云つてもよく、僅に鐵筋コンクリートの改造として數に出たるは其一部分の改造に過ぎない。港區東成區、住吉區は全くの木造建築で進んで居る。

(三)此の總市全體として考ふれば全市小學校舍の三分の一が鐵筋コンクリート校舍に改められたと云はれるもので、夫等の改造計畫は市の財政上容易のものでなく其調査としては既に一つの成案を得たるも相當多額の金額に上るのである。

尚右の表で見るに中心區に於ける小學校は敷地面積の豊かならざる爲め一校分の坪數は少なきかと云ふに、其反對に却て周圍部の學校に比しては遙に大なる規模のみが中心區に多いと云はれる。即ち東區南區では一校千六百坪、西區では一校二千坪の延坪を有するに比して東成、住吉、西成等は千坪或は九百坪を有するのみである。

以上で昭和四年度現在大阪市小學校の情勢を大體說明したるが、次に其構造方面の改良、設備方面の改善に就ては如何なるものであつたかを些か述べて見やう。

2

小學校の改造事業は前記の如く昭和四年度現在にては殆んど三分の一までは之を鐵筋コンクリート構造に改築せられたるが、尚中心部の舊市内に點在する學校にして木造のまゝなるものは尚五千三百延坪を存して居る。此等のものは古きは二十年位も經て居るものもあり耐震の方面では極めて不安のもので遠からず改築すべきであるが市の目下の財政では此の事業も早急にも行きかねるものがあり、適當に補强を施す事となつて居る構造の特長として昭和四年に擧げらる可きものは一は鐵骨鐵筋構造で一は木造の耐震構造校舍である。

市内の地價の高價にして校地豊かならざる場所にあつては、屋内體操場を階下として其上に二階、三階は教室であるものを大阪市では近年設けられる様になつた。之は他の都市にては見られざる特殊の構造で東京市では屋内體操場は必ず之を平屋として校舍の一端に設けて居る。階下が廣間で其張間十間内外、桁行十五六間の内部無柱のホールの上に六教室を有する階が二つ乘る事は其構造として鐵骨鐵筋コンクリート構造を採らした。之は唯に大阪市小學校建築の特長とも云へるもので他市では見られないものである。此構造法は之より將來も市内各學校に見られるものであらう。梁又は柱も出來上り見掛も輕く、フアインに鐵筋構造に見る如き重くるしきものではない。

次には木造校舍の耐震構造である。大阪市でも共周圍部は豫算の關係上尚木造二階建の新築校舍を見るのであるが、之等のものゝ構造は往年震災豫防調査會で決定した、木造家屋の耐震構造法を小學校舍に採る事は最も必須なる事とし全部其構造法を採り水平梁に附せる方杖の爲に、教室の天井が左右兩端折上げとなると云ふ不體裁の誹りも顧みず之を採用したのである。之は恐らく大阪市が他よりも率先して斷行したる所のものと考へられる。

其耐震的手法を概略述ぶれば

イ、主要部分の基礎は鐵筋を入れ地耐力を等布せしむる様配筋したる事。

ロ、土台、柱、梁、胴差、小屋梁等は凡て柱の位置に架渡すこと

ハ、柱は全部通し柱とすること。

ニ、合掌及梁と柱との接合は挾方杖にて繋結すること。

ホ、二階梁は合せ梁とし柱を挾み胴差も挾み胴差とし柱兩面より締付くること。

へ、屋根葺材料は殊に梁間大なる所にありては石綿盤の如き輕量且つ耐火的なるを用ふ。

ト、壁の部分を外壁にも又内壁にも成る可く多く作り之に筋違を入れること。

木造校舍の屋内體操場に就ても大阪市では他市ではやらぬ構造を採つて居る。即ち階下の體操場の大廣間はスパン九間半のもの桁行は十五間位のものとして其階上に中廊下を有したる教室六室を共兩側に取つて居る。勿論階下ホール内には柱を建てぬ事になつて居る。構造としては鐵骨を以て二階教室界壁を利用して組立て全部を之にて持たすと云ふやり方で、思ひ切つたるやり方であるが、他市では此方法はあまり採つた事を聞かぬ。

以上の如き耐震構造にて昨年中にて竣成を見たものは新築のものとしては前記の田邊の長池小學校で、增築としては港區の北恩加島南恩加島、石田、田中、八幡屋の五校、北方では十三、啓發、東では鶴橋第五と鶴橋高等、城北、榎本榎並等、南方では依羅、津守第三、泉尾第二等であつた。

3

次に學校建築の設備方面の趨勢或は傾向としては如何なる方向を採りつゝあるか、又將來は如何にあるべきかと云ふ點に就き一言茲に述べて置かうと思ふ。

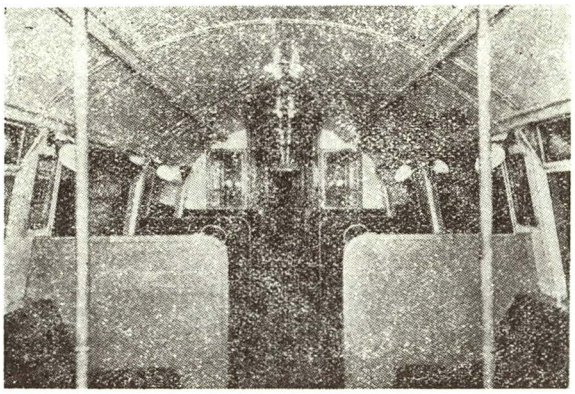
學校建築の目的は生徒の生活を保護する容器である。一日の學修を安全に且愉快にさらしめる所の容れものである。其の一日の學修及び運動、作業等は甚だ多技に渉つて居るもので各種の設備は之等のものをよく悉知して充分の研究の結果適當なる設備計畫をすべきであるが、其の内主要なるものを擧げて現在學校設備の一端を述べやうと思ふ。

利便及目的

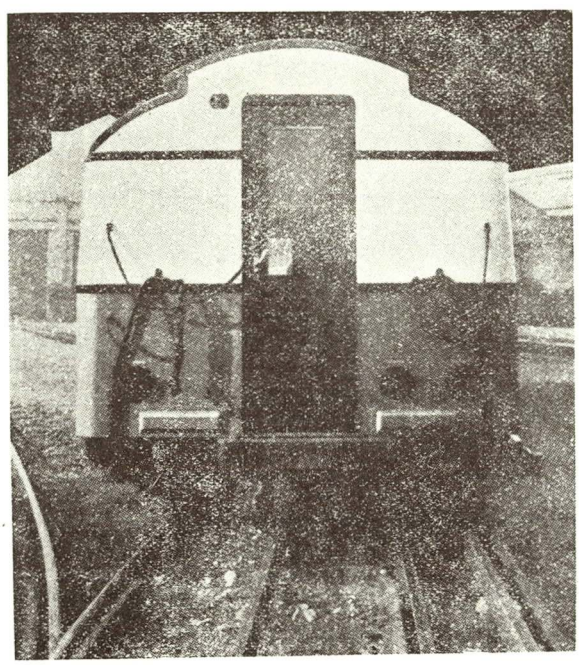
平面は可成く簡明とし廊下は成る可く一直線とし曲折を多からしめざる事、此は教育當事者の監視上からの希望から出て居る。

スピード時代　ロンドン地下鐵道の諸相

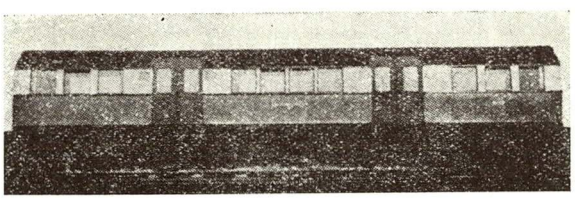
1、ベーカルー線に使用の客車内部



2、ハムプステッド程に使用の客車正面



3、同側面



教室の大さは長さ三十尺幅二十四尺のもの二十坪が普通であるが鐵筋コンクリート構造の際は相當大なる柱となつて壁厚の差だけのものが柱形ミなつて教室内に突出する時は壁際の座席は視界を遮ぎられ、從つて前記所要二十坪が減少され有効面積が縮少する事となるを以て、柱は全部壁外に追ひ出し室内部に突出部を設けない。之は普通教室の事であるが特別教室にあつては此の室内に突出せる柱の間を利用して作業臺ミか戸棚、地袋等の設備を設けられる爲め便ともなるから考へは別である。

學校設備では下駄置場、傘置場、の設備ミ教室附近に設くべき外套掛、帽子掛、辨當棚及び一教室分の掃除道具を入れるべき場所を都合良く設置すべき事が最も肝要なる事である。下駄及傘置場は生徒昇降口及び廊下の一面になるべく小面積に有効に取設くべき爲め鐵骨と鐵線ミ鐵板とを以て構造し汚物の溜らない樣にする事である。帽子掛、辨當棚等は設備としては最も考慮を要する事項で其要求條件が地方によつて異る事が多く其地方の經濟狀態或は利便の關係によつて或は外套掛を多く要したり又は辨當棚は多きを要しないと云ふ樣にまち〳〵であるが、多くの研究の結果此等のものは一括して教室と廊下の界の柱間に幅約八尺位の場所に仕込む事とし教室内には帽子掛を、廊下側には外套掛を半分、辨當棚ミ道具入れを半分に設けて教室内に繁雜なるものを避ける事として居る。

4

衛生方面に於ても採光、換氣、通風、清潔等の點で最も考慮を要する事が多々あるが、第一採光としては充分なるものとして窓面積を室内床面積の四分の一乃至六分の一ミする事は一般の規定であるが尙一層の完全を期するものとして塗板面の光の反射を避け、又生徒席に於ける採光量の均等を採る爲めには、窓の開け方は柱間の中央に一樣にとらずして塗板のある方の壁を四尺五寸程とり、窓は總じて室の後にずれる樣にとるを良しミする、爲には外形に於ける窓の配列は不整頓を免れないが、室内の採光の完全を期する爲には外形をも犧牲として爲さる可きである。此の實現されたるものは昭和四年には見られないが、目下の計畫では此の方法を以てし近く施工されるものは二三あるのである。

換氣通風としては鐵筋コンクリート校舍は不完全にして衛生上不良なるミの説も一時唱へられたるが、之に對しても相當考慮を拂ひ外壁にも換氣孔を設くるが、壁の強さの爲あまり多くの開孔をゆるさず、爲に外壁窓の下部を一部回轉開きとなし通風をとるも生徒机上には直接にドラフトを感ぜざる樣になし廊下堺の出入口、窓障子、欄間は凡て引き違ひミなし自然換氣に便ならしむ。此面の壁は木造となし相當大なる開孔を有する換氣孔を設けて廊下側に換氣する。

屋上設備は狹隘なる市中の運動場は光線及通風が不充分なる爲此部分は運動場の延長ミして充分利用さる可きものであつて、日光浴場ミもなり愉快に生徒が遊戲運動する場所ミもなるものであるから單に相當高きを有するパラペットを圍らし此上に金網を廻らすのみの設けではなく光線を充分にとり又濕度も相當保たるゝ爲めに南方のパラペットを低くするか又は全然無くし却て北方の壁を高く遣くと云ふ方法も屋上全體を明快ならしむる考案であらう。

5

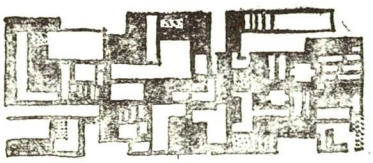
保健に就ても親切な考慮を要するものであつて、保安上の點については廊下の幅、階段の數或は其幅、蹴上の高さ踏面の深さ等標準の寸法は規定されて居るが更に微細なる點に於ても生徒の保健上考慮を要する所あり 舊來の木造校舍が鐵筋コンクリートに改められたる學校に於て學校當局者の言に鐵筋校舍ミなりてより日々多くの負傷者を出し衛生室が繁昌すミ云ふ事にして、柱の角、床材料の堅き爲なりとの事であつて、床面は可成當りの柔かきもの或は形をとられたいとの意見があつた。

其他最近の構造にして注意を拂ひし部分は階段廻りにして、多く階段の角にて辷りて頭部を打つものある爲めに階鼻に金屬を廢し之に代ふるに木を以てし、又或る例として階段手摺の上を辷る遊びをなして重傷せるものあり、爲に或所には手摺上の所々に突起物を設けて其遊戲を防ぐ方法もあつたが

近來は中仕切壁をとりて手摺を附せず止るに由なからしむる事として居る。

尙最後に保健施設として擧ぐ可き事は、六甲山腹に昨年中に竣成せる郊外學園であつて、大阪市小學校內の虛弱兒童を或期間中收容して學業を課しつゝ健全なる身體とする林間學舍にして、大阪市內各學校全部の弱き兒童を全部容るゝ可き力もないが、此棟のものは逐年適當なる地方に增設せらるゝ事と思ふ。

以上學校建築の昨年中現在の狀態を略說した次第である。(了)



最近十五年間に於ける 建築工事施工方面の發達と將來

渡邊圭吾

目次

一 建築工事施工と產業の合理化運動
附、テーラー氏の科學的管理法とフォード氏流動作業法
二 現今に於ける建築工事施工法發達の概要
1 施工設備
2 施工材料と施工法
3 勞働力の變化
4 企業經營組織の發達
5 工事期間の短縮
6 建築業者間の協調
三 建築工事施工狀態の將來

一 產業の合理化

(Rationalisierung)と云ふ言葉は現代生產に關係するもの丶凡てが口にする流行語である。吾々の仕事即ち建築工事施工の實際に當る者が如何に建築施工と云ふ企業を合理化せしめつゝ努力し來つたかは過去十五年間に於けるこの方面の異常なる進步發達にて明かに證明する事が出來る。即ち工事期間の短縮、施工方法の改善と標準化、建築材料の改良と規格化、工事施工組織の改善等はその重なるもので、從業者の選擇と訓練、建築業者相互間の協調等は其の効果今後に現れんとしつゝあるものである。

世界大戰の最中又は其の以後に當りて急激なる企業の勃興は急激なる建築工事の增加となつた。從つて之に要する材料は急激に生產せられ急激に改善せられなければならなかつた。この時代に建築工事施工の合理化運動が生れ助育せられつゝあつたが、最近工事減少とこの種企業家の增加とは競爭を激甚ならしむると共に、特にこの運動が注目せられ各自相共に合理的施工に努力せらるゝに至つた。

吾國の生產工業と同じやうに建築工事施工に最も大なる影響を與へたものは矢張テーラー氏及其一派によりて唱導せられた科學的管理法と、フォード氏の主唱實行せられた流動作業組織(作業の徹底的機械化)とであつた。直接米國式作業方法を示して吳れたのは今を距る約十年前東京驛頭の丸の內ビルヂングや郵船ビルヂングの建築工事であつた。これに刺戟せられたる吾國の施工者は爭ふて之れを見做ひ或は遠くその社員を米國に派して彼の國の施工方法を調査せしめ、或は書籍報告によりて之を模倣した。特に之等の書籍や報告中にはテーラー一派の書いたものが多かつた。其結果當時米國に宣傳せられつゝあつた法式を踏襲したのである。或は模倣を嫌ひ獨

自の立場より研究して案出した方式も大體前記の主義に合致するに至つたのである。

附、茲に冗長ながらテーラー主義とフォード主義は建築工事施工界に於て受くるところ大なるものあるにつきその輪廓を述べて見たいと思ふ。

テーラー式の管理法は前世紀末に堀方や運搬等のことから始められ初期には要素時間の研究、標準作業方式、賃銀制の考察、疲勞の研究等に限れてあつたがテーラー氏が工場管理法を公にせる頃よりその研究の領域を擴大して一般經營管理を對象とするに至つた。乃ち設備や仕事の組織化、指圖書勞働力の選擇、供給品の管理等に論及し、又有名な計劃部及び職能的職長制度の建設等を說いた。かくてこの運動が次第に普及したが大戰後、一層研究の領域を擴大せられ單に現實作業をなす工場の經營のみに止らず、配給生產及財務の各部の統制等、企業に含るゝ一切の要素を研究せらるゝに至つた。かくて經營管理の全領域に亘り一つの合理的方式を提供したことは實に劃期的な貢獻をなしたと言はねばならぬ。特に彼れの指導による人的要素の合理的處理法は最も注意せられねばならぬものであつた。けれどもテーラリズムに就ても勿論幾多の欠點もあつた。例へば彼は之等を以て勞働方式の科學的にも合理的なものと稱したが、然しそこには心理的な、社會的な要求と矛盾せるものがあつた。尙傳統的方法の廢棄につきては尙研究に不充分の點があつた。又彼れの徹底的な中央集權組織は現代的大經營法に對してある限度があるではないかを考へせしめた。又彼の方式は技術的圓熟期には好都合であるが技術的發展期には其の進歩發達を一時的にもせよ停止せしむるものがあると非難せられた又あまりに人間を機械視せる點即ち人間勞働に重きを置いたために後に生れた機械的生產方式に敵することが出來なかつた。

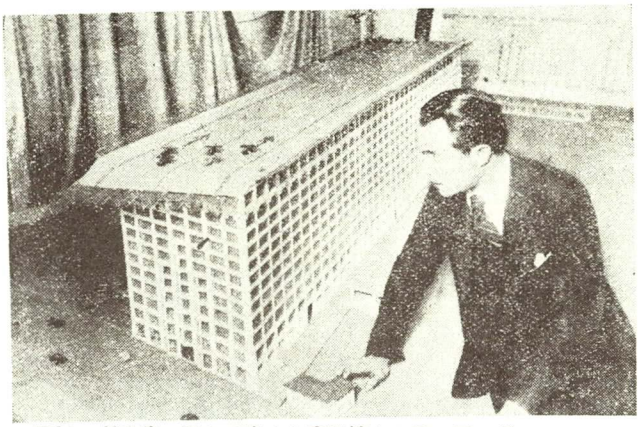
フォード氏流動作業方式は人的要素を徹底的に廢棄して凡てを自働機械化へ突進せしむるをその使命とした。ある生產に對して原料から製品まで凡て機械により人間勞働は單に機械に對しての奉仕に過ぎぬ。極端に言へば人間が機械の助手に過ぎぬ點で、この舊習を破り新しい方式を考案した點は實に格段の進歩を產業界に與へたのであつた。然し生產品の多量なることは勿論少量を望む產業に對しては不適當である。又フォード式の方法は設備に於て多大の資本を要するを以て大資本を有するものにあらざればこの方式を採用することが不可能で、製品の極端なる標準化は一時たりとも技術の進歩發達を阻害するものがある。フォード式の連續作業にありては極少の一部分に人間勞力を要求するものであるから、益々勞力は分業化され傍人の仕事に對しても之れ助くることが出來ない狀態にあるのである。けれどもその分業的一部分を熟達するには舊來の如く多くの時日を要しない。如何なる難部分でも三日乃至八日以內には完全に使用し得る職工となすことが出來ると言はれてをり實際に於ても其の通りである。故に雇傭せんとする職工は必らずしも熟練工であることが必要でないことには多大の利益があるのである、飜つて

二現今に於ける吾國建築

工事施工法發達の概要 を十五年前に於るものと比較するに

1施工設備 は各種工事とも著しく機械を利用するものが漸く多く近來大規模の混凝土工事の如きはフォードシステム直寫の觀をなすものがある。即ち船や荷車、自動車で送附せられたる砂利や砂は起重機又はコンベーヤにて運搬せられ一先づ混合機上なるタンクに貯藏せられる 混合作業始らんとするや自動的に砂利、砂、セメント、水等は正確に計量せられ混合機の中に入れらるゝ混合の時間等も已に自動的に確定せらるゝもの發明せるゝに至り、混合せられたる混凝土は昇降塔や流樋、又は壓搾空氣による混凝土送管により て意のまゝに運搬し之れ型枠中に流し込むのである。この間の人間勞力は單に機械の助手たるに止まる、堀鑿工事に於てもステームショベルやガソリンショベルと土運荷車や荷物自動車との連絡によりて人間勞力も十五年前の數十分の一とすることが出來た。鐵骨工事や石工事等も凡て機械により加工せらるゝに至り、鐵骨の建方や石材の据付等も起重機の力により

て勞力を十五年前の二十パーセントか三十パーセントに引き下げた假設材料も以前には木材を重に使用しつゝあつたが近來は鐵製品を使用することが多くなつた。例へば鐵矢板の如き鐵脚立の如き、鐵梯子の如き、釣足場の如き鐵假枠、同支柱の如きである。又假設工事の多くは大工や手傳等に任してあつたが近來では凡て專門の技術者が綿密に調査し計畫の上に下方に命令指し圖するやうになつた。例へば型枠の如き、建方設備の假設工事の如き、荷揚や、運搬設備の如き、動力配線や、給水設備の如きで、足代や下小屋等も忽にしないやうになつた。工事は十五年前に比して數も多くなつたし、工事の内容數量も大きくなつた。その上急速を要する場合が多くなつたから、これに使用する工事機械の容量や能力も約二三倍となつた。その上機械の速度も約二倍のものを多く使用するやうになつた。例へば抗打の分銅の如きは六十貫乃至八十貫位のものであつたが、近頃では百貫乃至二百貫のものが普通に使用せらるゝやうになり、一噸や二噸の落下錘を使用することも稀ではなくなつた。その上ステームハンマーやエヤハンマーが使用せられ、大なる打撃力と急速テンポの打撃を利用するやうになつた。ウインチにしても速度一分間六十尺乃至百尺、容量能力も單索引力三分の一噸乃至二分の一噸のものであつたが、最近では之等のものは恰も影を沒し、速度は一分間百五十尺乃至二百五十尺となり、その容量能力は一噸内外のものとなつた。電動機の如きも五馬力や七、五馬力のものを使用して意張つてをつたが、今日では十五馬力がその主力となりつゝあるやうになつた。のみならず其の以上のものも多數に使用するやうになり何れの會社にても十年前に所有してをつた電動機の數と今日所有の數とを比較するならば正に十倍以上となつたであらう。混凝土混合機にありても同樣で六切練や七切練のものが普通であつたのが今日では十四切練や二十一切練がその主力となるやうになつた。鐵骨建方では起重機を使用することがなく、恰度坊主丸太のみで建方をなしつゝあつたが今やガイデリツクやステフレツグデリツクがなければ工事を進める事が出來ないやうな狀態となり、其の容量能力も動臂の長さ八十尺乃至百尺、なり動臂を水平にせる場合に於ても十噸乃至十二噸を釣上ぐるに差支へなきものを使用するに至つた。鐵骨加工には益々高速度の切斷機や穿孔機を使用するやうになり、殊に鋲鋲に當りては錠鋲鋲機(jaw riveter)を使用するとが段々多くなり、現場鋲鋲に使用する空氣壓搾機は五十馬力や七十馬力のものを使用する事が稀でないやうになつた。ターボエヤコンプレツサー(turbo air-compressor)やロータリーエヤコンプレツサー(rotary-air-compressor)の出現は益々工事に壓搾空氣の使用の途を開いた。尙特筆すべきは完成に近き鐵骨の電機熔接法で鐵骨工事に對して一大革命を與へんとしつゝある。建築工事の速成や價格に對して最も關係ある材料運搬の爲には交通道路の改良と自動車の價格低下とは荷物自動車を利用する事益々多くなつた。更らに建築工事に使用する器械の内容に至つては驚くべき進歩改良を見るに至つた。例へば荷物自動車の如き五年以前のものは今日已に不經濟にして使用に適せざるに至り、その價格等も半減せらるゝに至つた。汽機汽罐の如きも電動機や變壓機の如きも同樣である。工事用燃料として石炭や輕油(特殊の場合を省き)を使用するの



スピード時代 初めて出來た摩天樓上のユーア、ポー ロスアンゼルスに建設せらるべき總工費一千五十萬圓の大ビルデイングの模型とあらゆる便益を有する飛行機發着場とせられる筈。

時代は已に去り重油の時代に變りつゝある。動力は吾國は到るところに電力を得らるゝ關係もあるがその使用量は十年前に比すれば數倍となつた。又電力のないところには瓦斯倫發動機が使用せられてをつたものが數年前には石油發動機に變つた。更らに今日では重油汽關(Diesel engine又)は半重油汽關を使用するもの多くなつた。然も近き將來に於ては重油汽關により小型發電機により發電し便利な電力に變へやうとする傾向さへも見ゆるやうになつた。現場に於ける照明もアセチリンランプや石油白熱灯の時代は去つて凡て電灯に代へられんとしつゝあるやうになつて來た。

2 施工材料と施工法 に於て現時と十數年前との相違せるところのものは工事現場に於て調合したり、加工したりして取付け或は塗り付るものは著しく減退し、工事現場に於ては單に取付又は塗り付けをなすに過ぎない材料を撰ぶ事が多くなつたことであらう。最近施工現場に近接して仕事場を得ることが困難であり、現場にて調合加工する製品は器械を使用して生産する工場の製品に比して不同であり、且良好でない、依つて現場加工は隨時排斥せらるゝ傾向さなり十五六年前に比すれば現場加工の品目が著しく尠少となつた。例へば塗工材料の如きは今日各製造會社さも直ちに使用し得る溶解ペイントを製造し往年の如き硬練ペイントさ各種の油、シナー等を持ち込み、恰も工事現場の一隅が製造會社の調合場の觀をなせしことなどは見出すことが出來ないやうになつた。況んや濾過用の吉野紙を今日工事現場に於て發見することは恐らくはないであらう。塗料の最近十數年間に於ける進歩は實に目覺しいもので凡ての材料が著しく優良なものさなつた。例へば光明丹の如き數年前までは四三化鉛が七十五パーセント內外を含むに過なかつたものが、今日では九十パーセント以上含むものを製造し得ることが易々たるもので其の他の材料も恰も同じように改良せられた。亞麻油や桐油の適當なる熱處理はフロアシイルやスパーワニスさして優秀なる性質のものを市場に出すやうになつた。特に最近に於て建築塗料としてのラツカー(硝酸綠質のベンキやワニス)はその耐久性と美しさのために從來の塗料を壓倒せんさしつゝあることである。左官工事に於ても石灰に布海苔や角又を煮て製造せる膠着材料を入れて造る日本漆喰は追々排斥せられつゝある。現場で沸化して造れる水硬性石灰をレターダーさして混合するにあらざれば使用出來ぬ石膏性のプラスターも、直ちに水を以て練り合せ使用し得るドロマイドプラスターの爲に假令その性質、仕上等に數段優るところあるにしてもその領域を奪れんとしてをる。更らに進んで左官工事の現場作業が手數であり、他の作業を防害し又は損傷し其の上多く時日を要することからセロテックス、タイガーボード、キルク板、アートメタル等の加工品にて內部の壁や天井を仕上ぐることに讓らなければならぬ場合を招來しつゝある。外部の左官工事も同樣でタイル、石、ブロック等に、床は木製の各種ブロック、タイル、ゴム製品等に替へられんとしつゝある。防水工事の材料も最近著しき進歩と改良を見た一つである。往年のコールタールピッチやオイルピッチは已に影を潛め、天然アスファルトも良好なる幾多の性質を備ふるに不拘その不純物を含有すること多きがためと石油アスファルトの窒氣處理法による精製が完成したために、建築工事界から驅逐せられんさしつゝある。又その補强材たる紙製のフエルトやルーヒングは織布製のものに替へられんとし、更らに一轉して鑛物性の纖維にその領域を讓らねばならぬ時代さなつた。尚限りなき進歩は近代建築の構造主體たる混凝土には餘り異なつた物質であるが爲に、セメントに混和して安全に防水の目的を達し得るハイドラタイトやシイカ等に替へられんとする有樣さなつた。更らに不安を感ずる地下室防水工事の如きは之等の施工を止め、機械的設備によりて床上に水が浸出するとを防がんとするやうになつた。建物の構造主體の多くは鐵材や混凝土となりて十六五年前の如くに煉瓦を以て構造の主體となすものは殆ど見受けられないやうになつた。然も鐵材の品質は益々向上改良せられ、製品は統一せられて來た。施工に當りて電氣熔接の完成が鐵

加工に大なる革命を與へんとしてをることは前述の通りで、薄板や各種の合金による優良なる鐵製品は內外造作、家具、裝飾品等に一大センセーションを起しつつある。混凝土工事に於てはポートランドセメントの進歩改良は十數年前に比して隔世の觀をなさしむるもので、調合一、二、四のモルタルの四週間試驗の強度が六百斤（一平方糎につき）を越ゆるものを見ることが普通のこととなつた。尙高級セメントにありては一週試驗にて同樣の強度を示すものも已に使用せられつゝあるやうになつた。砂利や砂や水の撰擇も愈々嚴密に規格化せられ、思ふがまゝに要求強度の混凝土を製出することも敢へて難事にあらざるやうになつた。其の他木工に於ける機械化は益々優良なる造作、建具、家具等を供給するに至り特に貼付材料や合板（プライウッド）等は狂はない、乾割れない、反らない然も美麗な木肌を表はすものを提供することが出來るやうになつた。

3 勞働力の變化　工事數量の急激なる增加は多數の人々を建築工事に從事せしめるやうになつた。而して是れまでの工事に熟練せる職工數は工事の數量に比して著しく尠少となつた。又年期奉公制による舊來の徒弟養成法は速成を要求する新時代にありては何時の間にか消滅せざるを得ざるやうになつた。然も國家や社會が時代に適應した徒弟養成法を案出し之を實行する以前に消滅した。以上二つの理由で最近の工事數量に比して、熟練せる職工や勞働者を不足するに至つたのは寧ろ當然のことであらねばならぬ。即ち何れの工事現場にありても以前に十人の熟練工がをつたのが、今日では三人の熟練工となり他は凡て半熟練工で作業を進めなければならぬ狀態となつた。然もこの三人の熟練工も他の半熟練工をして一人前の仕事をなさしむる必要上、仕事の巧拙よりも指導の巧拙に重きを置くやうになつた。而して斯くの如く半熟練工が多きにかゝわらず工事能率は十五六年前に比して減少せざるのみか却つて增進した。この事實は今後の徒弟養成方法につきて深く考へねばならぬことで、職工や勞働者が最近の建築工事に對して理解（馴染）が多くなつたこと、作業が單純となつたこと、複雜なるものは工場作業に移れること、監督者の計畫や指導が宜しきを得て標準方式が普及したこと等に起因することを認めねばならぬ、例へば現今の混凝土型枠に從事する大工の如き、大工として十五年前の職工に比すれば或は何物をもなし得ない程度のものであるかも知ない、彼等の大部分は鋸と指金と金槌としか所有せぬが優良なる世話役に指導せらるる時は或る程度までの成績を擧げ得るもので往時に一人一坪當りの混凝土型枠を取付け得るに過なかつたものが今日は其の二三倍の仕事をなし得るのである。鐵筋工にしても同樣で殆んど人夫に等しき鐵筋工も適當なる世話役の下では尙往時の二三倍の仕事をなすことが出來る左官工、鐵工、塗工、土工等も皆同樣な狀態である。

賃銀制度は常傭制度（時間賃銀制）と請負制度（個數賃銀制度）の兩者が採用せられてをるが、常傭制度は單に工事の性質が不明の場合、工事數量が明瞭でない場合及機械が主に作業して勞力が單に助手たる時のみに限られてをる。他は凡て請負制度とすることが多い。請負と云ふ方法は確かに多くの點に於て常傭制度に優つてをるが、不用意の方法や調査が足らなかつた場合には却つて大なる失敗を招くことがある。常傭制度はより仕事を望む場合には豫期した結果を得らるることもあるが余分の費用を要することは免れない。常傭制度のこの欠點を補ふには賞與法を附加せられねばならぬ。吾國でもハルゼー氏の賞與法、ガント式賞與法、エマーソン氏の賞與法等は度々試みられたことがあつた。現今の請負制度は大部分順當に執行せられてをるが調査や研究がせられずして實行せらるることあるが爲か、彼等の奮勵努力も水泡に歸せしむることが多い。常傭制度にありては熟練工も半熟練工もその賃銀益々相接近するやうになつたことは見逃しからざる現象で、遠らずして賃銀制度にある變化を與へる前兆であることを豫想し得らるるのである。殊に東西より浸入し來るアメリカニズムと共產思想とは吾國の勞働者にも或る變化を與へつつあるからである。

4 企業經營組織の發達　營

つて技術が幼稚であり經營の規模が概して小さかつた時には、企業の財務的統制者も經營の實際的管理者も大體一人が兼任し之等の職能も簡單であり整理もされ易かつた。否經營者自らが勞働者を兼ねてをつた場合もあつた。かゝる狀態は今日地方にありては尙屢々見らるる所のもので、使用人次第に膨脹し然も現代の技術を土台として考察して經營せんとするところの、大經營樣式に於ては最早應用することの出來ないところのものになつた。現今吾國に於ける大經營者は千人を越ゆる直屬技術者を有するに至り個人管理は不可能となつた。茲に即ち會社制が發達し經營の所有が個人から多數に移つたのである。勿論數多き會社の中には必らずしもこの理由にのみよつて組織を變したものでなかつた。或は形式上或は財務的の經營上から多くの個人會社はここ十數年間に會社として經營せらるるに至つた。かくて次第に中間的管理人が出現し企業主の委託の下に、夫々專門化された部局的の管理を行ふに至つた。それと同時に複雜なる經營體は合理的に管理せんが爲めに種々なる研究が開始せられ試られたのである。

次に現在の大經營の組織は必らずしも同一でないが最高幹部は直接に工事現場に關係することが少なく、單に最高政策の決定、資金の運用、財務、見積と材料勞力の購買配給、現場管理の三者の協調を計り、事業組織を決定し、且諸實行機關の最終的統制を見るに止まつてをる。直接管理者は何れも各分擔の業務に明かなるものがその一部を司り、前者の決定した諸政策を忠實に實行し所定の組織を有效に運用せんとするものである。尙吾國に於ける會社統制の狀態を見るに二つの種類に分類することが出來る。一は聯邦組織又は前線組織とも云ひ得るもので、最高統制者の下に殆んど最高統制者に似たる次位の統制者が數人ありて各自獨立の狀態にて各の所屬工事を管理しつゝあるものである。然してその下に各部課が設けられ各專門の業務を擔當するものである。尙極端なるものは工事現場主任は資金調達以外凡ての最高統制者の業務を執行し、その利得の一部を最高統制者に納付するに止まるもののもある。

他の一は中央集權組織とも參謀組織とも云へるもので最高統制者の下に、各部課があり何れも事業執行手段の一部に過ぎず、工事現場の管理はその司る一部分に止まり、各協力して始めて完全なる管理をなし得るものである。

尙近代的經營組織にて各部課の特徵は工事計畫、實行豫算作製、原價計算の完成等であらう。

5 工事施工期間の短縮 機械設備の增加、動力の利用の增大、施工方法の發達、材料の工場加工、職工勞働者の分業化等のために、尙事業家が一時たりとも資本を固定するの不利なる理由により、出來得る限りの工期の短縮を强いた結果、十數年前に比すれば期間は約半減せられた。然し近來面白からぬ現象は設計者や施工者が、工事材料や施工方法等を合理的に精細に調査研究することをなさずして事業家の鼻息を伺ひて工期を要求さるるがままに決定することである。

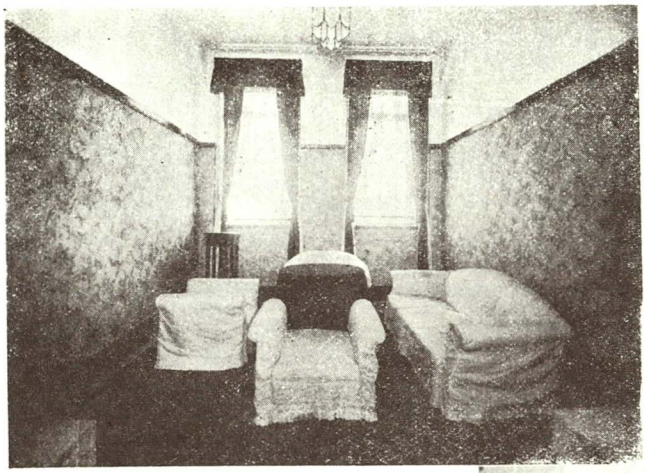
6 工事施工者側の協調 直ちに工事施工に對して影響するものではないが、この完全なる協調は今後の工事施工法の發達を促すものであることは言を俟たない。現在、全國的組合、或は地方的の組合は數十に達し、各自の利益のため法律上の研究をなし、或は斯業發達の障害を省き、或は勞働者徒弟訓練の方法を案出し、或は待遇改善のため、或は勞働者の傷害に對し保證のために盡力してをるのであるが、最近は更らに世界的となり萬國聯合請負組合に參加し斯業のために盡力せんとしてをる。

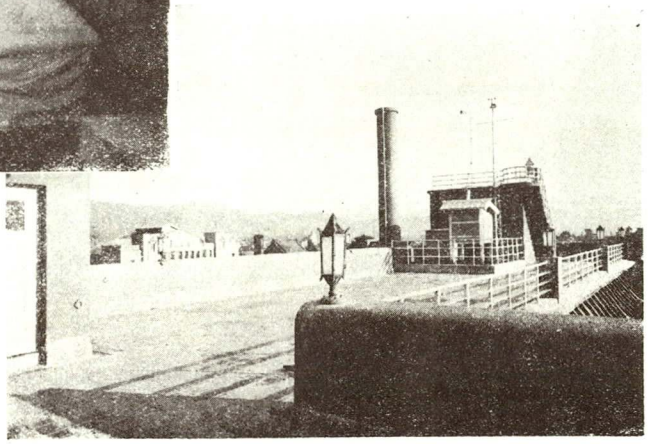
三 建築施工界の將來

十八世紀末に唱へられたる能率增進運動は世界大戰に會ひて異常に發達した。其の後千九百二十年頃に現大統領フーバー氏が主宰となり官民一致して浪費驅逐の組織的運動を開始して以來最も力强き問題となつた。獨逸に於ても戰後眞面目に米國を研究して產業合理化の名の下に、この運動を進めつつある。英、佛、露、伊何れも爭ふて產業の合理化を計りつつあり、建築工事方面に於てもその効果が認めらるるやうになつた。吾國でも濱口內閣にては之れを以て最重要なる

政策として直ちにこの運動を進めんとしつつある。世界の大勢斯の如く吾國でも目下急務として合理化運動をなさんとしつつあるを以て吾々の建築工事施工と云ふ産業に對しても益々具體化せらるるであらう。工事現場に於ける機械的設備は益々重要視せられ、手數のかからぬ安全なものが使用せられ人間勞力は出來る丈け減少することに努めらるるやうになるであらう。假設材料の一半は鐵製品と代へられ、動力は悉く電力に變り、現場照明も凡て電氣となるであらう。技術家は益々專門的となり、數種以上の部門を以て數へらるるに至るであらう。勞働者は指導的職工と半熟練工とよりなり、然も一ヶ月乃至數ヶ月にして專門職工たることが出來るやうになるであらう。殆んど凡ての同一職工は同一賃銀となり組合より勞働者を派遣するに至るのも余り遠き將來ではないであらう。而して現場の成績は凡て之を管理する技術者の指導指揮の如何によるに至るであらう。而して工事用材料は益々優秀なものとなり、强度の如きは更らに倍加するのも近き將來の事こなろであらう。現場加工や現場調合等は工事現場に於て凡て見られないことなり、主體工事の施工に當りても煤煙は勿論音響や震動により隣家や通行人を脅すことなどは見られないことになるであらう。之れに引換へ塗料工事は益々發達し凡ての部分がペイントによりて仕上げらるる時期も到來するであらう。而して建物は堅牢にして耐火耐水・防音、防熱の材料を以て覆はれ、美しい、明い、空氣の流通のよい最も人間生活に合理的建物を提供することになるであらう。然も工期更らに半減し、價格はもつと安價となるであらう。建築工事施工會社は大資本を有する大經營となるであらう。施工各會社間の協調は尚完全にとられるであらうが競爭は止む時はないであらう。

（昭和四年十一月十三日）





上　京都、林雲會館貴賓室

下　大阪毎日新聞社京都支局屋上

昭和四年物價指數の變遷

（建築業協會調査より抜萃）
（指定は大正三年九月 100 とし之を基數とせしもの也）

（●印は市價下落せしものを示す）
（△印は市價騰貴せしものを示す）

名稱	三年末	四年三月	四年六月	四年九月	同實價	
砂利	311	311	311	●300	立坪	円 27.00
川砂	587	587	587	587	立坪	13.50
セメント	220	220	220	●192	樽	4.80
煉瓦燒過二等	263	263	276	△281	千本	22.50
花崗石	333	333	333	333	切	2.00
龍山石	271	271	271	271	切	1.90
鐵筋	107	103	93	● 91	屯	98.55
アングル	100	100	95	● 94	屯	106.65
プレート	87	88	85	● 85	屯	118.80
卅番亞鉛曳鐵板	105	105	100	● 96	枚	0.96
同 波板六尺	108	108	104	● 98	枚	0.82
銅板十オンス	130	152	136	●136	十斤	71.00
杉二間四寸角	300	300	300	300	才	0.15
松二間挽立材	314	314	314	314	尺〆	24.00
檜 〃	314	314	314	314	〃	48.00
臺檜 〃	106	106	106	106	〃	85.00
米松角材	142	150	150	●142	立方尺	0.96
同 平材	135	135	135	135	〃	1.35
チーク 角材	222	222	222	222	〃	7.00
杉中板巾六寸	229	218	214	●208	坪	2.90
北海松 〃	185	182	182	●176	〃	1.50
瓦（淡路）	388	388	388	388	屋根坪	7.80
同（谷川）	351	351	351	351	〃	13.00
石綿スレート	103	103	103	103	葺上坪	7.00
硝子正一筬込	105	105	105	105	平方尺	0.20
同 磨二分	189	189	189	189	〃	1.70
ペンキ三回塗	357	357	357	357	坪	2.50
ワニス四回塗	269	269	269	269	〃	3.50
大工	403	403	379	●379	人	3.30
手傳	347	347	333	●333	〃	2.40
土工	347	347	333	●333	〃	2.40
石工	384	384	357	●357	〃	4.00
煉瓦工	330	330	311	●311	〃	3.30
左官	370	370	350	●350	〃	3.50
鐵筋工	311	311	300	●300	〃	2.70
鍛冶工	299	299	282	●282	〃	3.30
運送（肩曳）	292	292	277	●277	日	3.60
同（馬力）	243	243	229	●229	〃	8.50

『建築と社會』表紙圖案懸賞募集

本會發行の雜誌『建築と社會』の表紙圖案を左記條件により懸賞募集致しますから、奮つて應募下さるやう希望致します。

昭和四年十二月

社團法人　日本建築協會

一題號　『建築と社會　第十三輯　第　號　日本建築協會　昭和五年　月　日』と適當に配當すること

一寸法　四六倍版（竪二五糎、横一九糎）

一着色　二色（紙色の外）

一圖面　原圖紙を用ひ現寸とす

一意匠　隨意なるも本誌の特質を表現するに足るもの但し他人の意匠を剽竊せるものは審査せず

一賞金　入選一人　賞金參拾圓　佳作三人　賞金參拾圓（一人金拾圓宛）

一期日　昭和五年一月十五日締切、但し郵送のものは當日の消印あるものに限り審査開始迄受附く

一版權　應募圖案の版權は本會の所有とす

一審査　本會が依囑せる特別審査委員の合議に依り入選を決定す

一符號　圖面には適當なる符號を附し、別用紙に符號、住所、氏名を記入したるものを封書として差出すこと

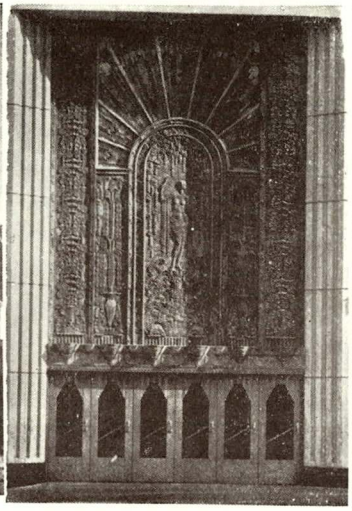
一發表　『建築と社會』第十三輯第二號誌上にて發表す

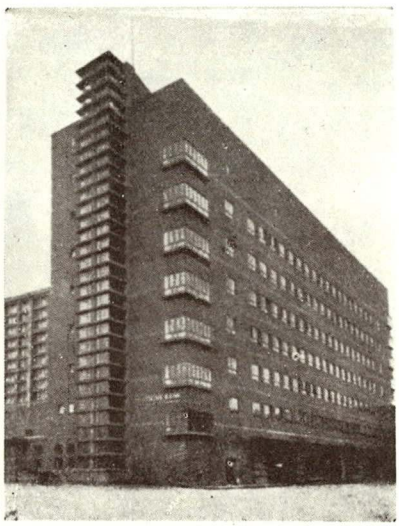
一圖案　應募したる圖案は返却せず

以上

1　　2　　3







紐育ステユアート・ビルヂング
設計者　ワーレン・ウエツトモーア兩氏
1 正面外觀　　2 正面入口詳細

3 獨逸フランクフルト公設市場事務所
設計者 エルゼーセル教授
左方はコンクリート及硝子よりなる
エレヴエーター・シヤフト

切取線



1



劇場「フォリー・ベルヂエール」（巴里）
裝飾擔當者　ピコー氏

1 正面上部裝飾詳細
2 衝　立　　3 正面姿圖

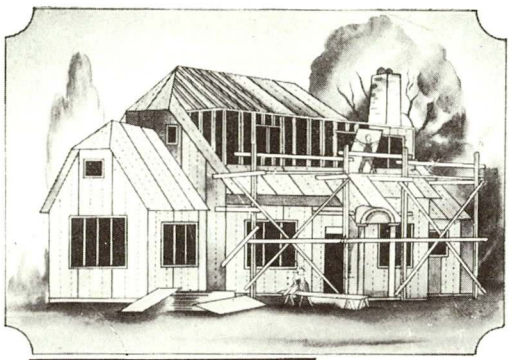
2

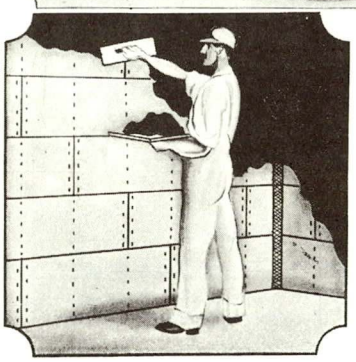


3



切　取　線





ファイバーコート
絶縁防水
耐熱耐酸
石綿塗劑

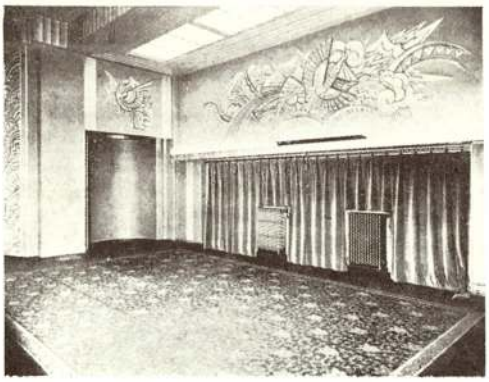
本品は火に燒けず萬代不變質の石綿纖維を主要材料とし之に各種の防水原料を加へて製品と致しました最も進歩せる防水、耐熱、耐寒、電氣絶緣等の特質を具備せる糊狀溶劑であります。使用簡易加熱の必要なく素人にて施工し得且つ價格の低廉等眞に理想的製品である事を確信を以て御推奬致します。
過去四ヶ年鐵道省、海軍工廠、砲兵工廠、汽車會社、其他の御採用を蒙り其効果を證明されました。
本品塗布後、膨脹、龜裂、剝脫等の憂なく非常の高熱に耐へ得る事は其防水力の强大と兼備せる特徴であります。

ファイバーコート
關城化學工業株式會社
關西發賣元
大阪市西區京町堀上通一ノ一四
電話土佐堀八二五番

1



3



2



1 バ　ー
2 大ホール
3 遊歩塩一部

劇場「フオリー・ベルヂエール」（巴里）

取　　締

庭園設計と施工

造庭學上の新智識を實地に應用して經驗を積む事十餘年
獨特の技術と從業職人の訓練と優秀な設計と完備せる施工

和洋庭園築造請負專門
創業大正五年我國唯一　設計と施工案內進呈



橋本庭園工務所

大阪市住吉區田邊町鶴ケ丘
電話特長天王寺（七）一三三四番

1



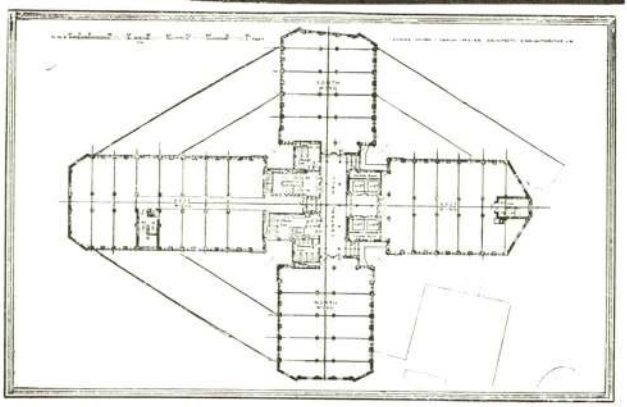
2



3



4



モダー停車場（ロンドン）一九二六年建設
設計者　アダムス・ホルドン・ピーアスン三氏
1 外　觀　　2 同夜景（洪光飾）　　3 **ウエストミンスター**所在地下鐵本社外觀　　4 同標準平面圖

切　取　線

本間式防水工事

責任保證
絕對防水

完全施工
優良材料

最新式メンブレンシステム防水工
最モ合理的最モ經濟的防水工

構成 / 材料 / 仕様番號	アスファルト 塗布回數	アスファルト 使用量 面坪	アスファルト 使用量 平方米	補強材料 フエルト	補強材料 アスタイト	補強材料 フェブリック	補強材料 貼付枚數計	防水工厚 分（約）	防水工厚 耗（約）	標準單價 面坪 円	標準單價 平方米 円
第一仕様	五回	六貫五〇匁	六瓩	一枚		一枚	二枚	三	九	7 50	2 27
第二仕様	六回	同	同		二枚		二枚	三・三	七	9 50	2 90
第三仕様	五回	同	同		一枚	一枚	二枚	三・七	八	9 50	2 90
第四仕様	六回	同	同	一枚	二枚		三枚	三・七	八	10 00	3 00
第五仕様	五回	同	同			二枚	二枚	三	九	9 50	2 90
第六仕様	八回	八貫六匁	九瓩		三枚		三枚	三・三	九	13 00	3 90

防水層補強材料
アスタイト　フエブリツク
鳳凰印アスファルトルーフ井ング
鳳凰印アスファルトフエルト
日石アスファルト特約販賣

大阪市西區京町堀通一ノ四〇
工材社
電話土佐堀(44)五八〇九番



構造より觀たる耐震耐火的建築（中）

東京工大教授兼神戸高工教授
工學博士 田邊平學

2 煉瓦造及石造建築物

(a) 煉瓦造及石造建築物の耐震性

煉瓦造及び石造建築物とは煉瓦及び石材の類を以て組積されたる壁體を以て建物の主體となすものゝ總稱であるが、石造は古來最も廣く用ひられ來つた構造であつて特に外觀と耐久性とを必要とする建築物に用ひられ、記念建築物の如きは專ら石造に限られたるの觀があつた。煉瓦造は一般に煉瓦が石材よりも廉價なる事と、品質良き材料を使用すれば充分なる強度並に耐久性を有せしめ得るの故を以て建築構造として最も廣く採用せられ、殊に材料の選擇並に其配合に意を用ふる時は建築的に面白き効果が得らるゝ爲に好んで用ひられ歐米に於ける住宅は現に九〇%以上までが此の構造によつてゐる有様である。然るに此の種の構造による建築物は過去の大地震に於て其の耐震性に重大なる缺陷を藏する事が曝露せられ、今日に於ては既に過去の構造方法として少くも我國に於ては建築構造の種類中より抹殺し去らるべき運命に置かれてゐる。以下少しく其の理由とする所を顧みて見やう。

先づ煉瓦造及び石造建築物の强度から論ずるに煉瓦造及び石造建築物の强度は其の材料たる煉瓦、石材の品質並に其の結合に用ひらるるモルタルの性質如何によつて支配される。煉瓦の强度は其の原料たる粘土の性質並に製造の際に於ける熟練の程度によつて著しく相違し、同一の材料より製したるものにても燒きの充分なるものと不充分なるものとは强度に數倍の差を生ずる如き有様である。石材に至つては强度の差が一層大であつて、同一種類の石材に於ても其の値は決して一定でなく、砂岩の如きは特に大なる開きを示すものとして知られてゐる。一般に同一種類の石材に就ては密質にして重量の大なるもの程强度も大であるが石材は前記の煉瓦と共に其の應壓强度に比して應張强度及び應剪强度の著しく低き事を缺點とする。結合材として見ひらるゝモルタルの强度はセメントと砂とが與へられたる場合には其の密度並に配合によつて決定さるゝものであつて他の條件が總て同一なりとすれば大體に於て

(一)配合の良きもの程モルタルの强度は大である。

(二)配合の密なるもの程モルタルの强度は大である。

(三)粘氣ある程度の硬さに水量を定めたる場合に强度は最大となる。

(四)モルタルの粘着力の强さはモルタルの接すべき面の吸收性如何による。

等の關係が知られてゐる。

今之等の材料によつて成れる煉瓦造及び石造建築物に作用すべき荷重を考ふるに常時荷重としては垂直荷重に基く壓力の作用する場合が最も多く、特に開口の上部に架したる部分、基礎に於ける出梁持送り等の部分に對しては撓曲に基く張力乃至剪力が作用するゝ之等の外力に對して抵抗すべき煉瓦造建築の强度は第一に煉瓦の品質モルタルの性質によつて左右せらるゝが更に煉瓦の積み方によつても影響を受ける。充分に良質なるモルタルを用ひたる場合に於ては破壞は煉瓦自身に起り目地の部分には起らないがモルタルの不良なる場合には粘着力の不足に起因して目地の部分に破壞が起る。石造建築物の强度も同樣に石材並にモルタルの品質によつて定まるものであるが石造の場合に於ては特にモルタルの强度が重要なる役割を演じ、石材の强度がモルタルの强度に及ばざる場合を除き一般に石

造建築物の強度は石材自身の強度によつて左右さるゝ事は稀である。尚石材の大小、形狀、積み方等が強度に影響を與ふべき事は論ずる迄もない。

特に嚴密なる實驗的研究の行はれたものとては聞かぬが過去の永き經驗に顧みて普通の形狀の壁體、柱等に於ては石造構造物の強度は壓力に對して充分安全に耐え得るものと考へて差支へ無いが剪力に對する抵抗は著しく小であつて、石造建築物に於ける許容應剪力の値は斜張力を伴はざる純剪貫應力が作用せる場合に於て許容應壓力の値の四分の一以下に當り、張力に對する抵抗は更に之よりも一層小である。而も此の性質は獨り石造の場合に止まらず煉瓦造の場合にも共通であつて煉瓦造及び石造の如き所謂組織式構造において避け難き所の致命的なる缺陷を成すものである。

上記の如くにして煉瓦造及び石造の建築物は垂直荷重に基く壓力を主とする平時に於ては極めて安全であつて、張力は多少之を受くる部分ありとするも構造に注意する事によつて充分に其の危險を避け得べく、又風壓に對しても其の重量の大なる點、構造の堅牢なる點等によつて木造建築物の場合よりも遙かに大なる抵抗力を有するのであるが、一旦之が地震に遭遇して横力の作用を受くる時は其の重量の大なる事に起因する強大なる破壞力と張力並に剪力に對する抵抗の微弱なる事との爲に容易に接合部より引剝されて恰かも積木細工を倒すが如き無慘なる崩壞を來すのである。而も此の場合に木造建築物なれば假令倒壞しても人命を救助し得る場合が少くないのであるが煉瓦造及び石造に於ては其の餘裕全く無く一家の壓死を來す事すらも敢て珍らしとせぬのである。

今試みに大正十二年九月一日の關東大震災に於ける煉瓦及び石造建築物の被害狀況を見るに、第十九回東京市統計年表によれば震災前に於て東京府下の煉瓦造及び石造建築物の總數は大正十年度現在にて

煉瓦造　六、九九棟　延四五、一七三坪
石　造　一、九三棟　延　四五、八三坪

であつたが其の大部分が崩壞するか又は修理の殆んど困難なる程度に龜裂を生じ、加ふるに下町方面は一帶に猛火の爲に燒毀せらるゝの厄に遭ふた。殊に震源地に近き地方は被害一層激甚にて横濱海岸通外人居留地附近の煉瓦造建築物の如きは殆んど形容を止めざる程度に壞滅し、此處に失はれた人命のみにても實に夥しき數に達してゐる。

更に之を具體的に示さんが爲に東京市及び郡部に於ける被害に就き東京市統計課の調査（大正十三年十一月）による數字を擧げれば第3表に見るが如くである。即ち煉瓦造建物の被害總棟數（尤も此の内には火災による燒失棟數を含むも燒失區域に於ける建物は全部大破損以上の損害を被りたるものと看做して誤無かるべし）は市部郡部を通じて五、九四六

第 3 表

大正12年9月1日關東大震火災に於ける東京府下煉瓦造及石造建物被害數　（大正13年11月東京市統計課調）

市郡別	被害構造種別	燒失 棟數	燒失 面積	全壞 棟數	全壞 面積	半壞 棟數	半壞 面積	大破 棟數	大破 面積	合計 棟數	合計 面積
			延坪		延坪		延坪		延坪		延坪
市部	煉瓦造	5296	352,713	58	4,297	68	4,365	259	13,517	5,681	374,934
	石造	1251	37,842	15	246	16	576	26	851	1,308	29,533
郡部	煉瓦造	—	—	164	8,131	78	3,666	23	1,081	265	12,878
	石造	—	—	41	697	29	493	36	612	106	1,802
市郡合計	煉瓦造	—	—	222	12,410	146	8,031	282	13,678	5,946	387,832
	石造	—	—	56	943	45	1,069	62	1,463	1,414	31,335

棟にして之れを震災前に於ける總數六、九六九棟に比すれば八五・三%の高率に當る。更に石造に就て見れば被害棟數は合計一、四一四にして之を震災前に於ける一、六九三棟に比すれば同じく八三・五%の高率となる。以て被害の如何に激甚なりしかを知るに足るべし

第 4 表

大正12年9月1日關東地震に於ける東京市内煉瓦造建物被害程度比較表 (警 廳 調)

		破害狀態 全潰	半潰	大龜裂	小龜裂	異狀無	計	被害件數	被害百分比
下町 (軟盤)	實數	44	104	87	120	81	436	355	81.4
	百分比	10.0	23.9	20.0	27.5	18.6	——	——	——
山ノ手 (硬盤)	實數	3	9	15	16	6	49	43	87.7
	百分比	6.0	18.4	30.6	32.7	12.3	——	——	——
合計	實數	47	113	102	136	87	485	398	82.1
	百分比	9.7	23.3	21.0	28.0	18.0	——		

表中 全潰 壁體の大半が倒潰せるもの
半潰 壁體の一部分が倒潰せるもの
大龜裂 壁體が倒潰せるも龜裂が一目瞭然たるもの
小龜裂 壁體に龜裂あれども顯著ならざるもの
異狀なし 壁體に殆んど龜裂を認めざるもの
尙下町、山ノ手の別は主として地盤の硬軟によりたるものにして山ノ手地方に於ても地盤軟弱なるときは下町の部に入れたり。

煉瓦造建築物の震害程度と地盤の良否との關係に就ては東京市に於ける煉瓦造建築物四八五棟に就き警視廳建築課に於て調査せる數字が有る(第4表參照)。此の調査に據れば全潰半潰の如き大なる被害の率は共に軟盤なる下町に於て大なるも大龜裂、小龜裂程度の被害の率は却つて下町に於て小にして硬盤なる山の手に於て大となり、又異狀無きものも寧ろ下町に多く、全體の被害率も下町の方が小なるを見る。但し被害百分率は山の手、下町共に八〇%以上に上り地盤の硬軟如何を問はず煉瓦造建築物の非耐震的なる事を示して餘が無い。

之を要するに煉瓦造及び石造建築物は地震力の作用を受けたる場合に張力に對する抵抗乃至モルタルの附着力に於ける强度の不足に基いて龜裂の生ずる事を避け難く而も一旦生じたる龜裂は其の建築物の致命傷と看做すべきものであつて之には適當なる補强の策が無いのである。よし假りに材料乃至構造の細部に亘り充分なる考慮を廻らす事によりて煉瓦造及び石造の建築物を多少にても耐震的ならしめ得たりとするも其の効果は努力の大なるに伴はざるべきが故に他に優秀なる構造方法の見出されざる時代なれば知らず、今日に於いては斯の種の構造を墨守するの要更に無く、寧ろ我國の建築語彙中よりは一刻も早く煉瓦造及び石造なる文字を抹殺し去るべきものであつて、既に我が東京工業大學の建築學教室に於ては建築構造學の講義中から煉瓦造及び石造なる章を完全に削除してしまつてゐる有樣である。

(b) 煉瓦造及石造建築物の耐火性

耐震的價値より見て既に獨立せる建築構造として存在の理由を失ひたる煉瓦造及び石造の構造も建築物表面の化粧其他鐵筋コンクリート、鐵骨構造等の所謂架構式建築に於ける外壁の塡充物乃至間仕切壁等としては尙相當に用途の廣きものあるを以て其の耐火性に就て一言を費す事も敢て徒爾ではあるまい。

先づ煉瓦の耐火性より論ずるに煉瓦が外壁用の耐火材料として他の總ての材料に比して優秀である事は外國に於てもサンフランシスコ、バルチモア等の大火以來實證されてゐた所であるが過般の關東大震火災に於ても此の事實を有力に裏書し、煉瓦が直按火災の爲に被つた害は比較的輕微なものであつて、多少變色した程度が普通であつた。攝氏一〇〇〇度以上の高熱を受けたりと思はれる如き場所に於ても煉瓦の表面が剝落したるのみで、夫れさへも最も甚だしきものに於て深さ漸く一・五乃至二・

五センチメートルに達する程度であつて、中には表面が熔融して非常に固くなつてゐたものもあつた。何れにしても煉瓦の火災による被害は割合に表面的なものであつて、深く内部に迄及ぶ事は先づ無しと考へてよい。我國の材料を用ひて行ひたる耐火試驗の一例に就て見るも煉瓦の耐火度（茲に耐火度とは煉瓦を一旦粉末としたる後捏ねて或る標準の錐體となし之を爐中で熱して其の試驗體が軟くなりて曲り倒れる時の溫度を云ふ）は普通販賣品の赤煉瓦に於ても尙攝氏一二五〇度を示し、所謂耐火煉瓦に至ては攝氏一六七〇乃至一七三〇度と云ふ如き高き値を示してゐる。近來多く使用さるゝ貼付煉瓦は火に對しては普通の煉瓦よりも一層強く、過般の關東震火災に於ても貼付けに用ひたるモルタルが火によつて膠着力を失ひたる爲に煉瓦を剝落せしめたものは數多く見受けられたが、貼付煉瓦そのものゝ被害と認むべきものは殆んど無かつたのである。

次に花崗岩、砂岩、石灰石、大理石等の石材は建築材料として最も多く使用せられ、又意匠の上よりも建築物の外觀上缺くべからざるものゝ如くにされてゐるが之を耐火性の方面より見る時は石材は煉瓦に比して著しく抵抗力が小であつて火に遭へば鱗片狀に破碎し又は完全に崩壞し去り、殊に熱したる後に水を注げば一層此の現象が甚だしく現はれる。美觀の上から盛んに愛用される花崗岩の如きは石灰岩、大理石に次いで石材中にても最も耐火力弱きもので焰に遭へば攝氏五〇〇度内外に於て早くも龜裂を生じ、八〇〇度以上の熱に遭へば粉碎して破壞し去るが故に普通の火事の程度の熱にさへも耐へ切れぬ場合が多いのである。斯の如く石材の耐火性に乏しき所以は石材を構成する數種の鑛物の熱に對する作用殊に其の膨脹係數の値の異なるに因るものであつて、例へば花崗岩に於ては其の成分たる石英、長石、雲母が熱せられたる場合に夫々異りたる量の膨脹をなす爲に花崗岩としての組織が崩壞されるものと說明されるのであるが、更に興味ある性質として例へば花崗岩を形成する石英なり、長石なり、雲母なりの固有の熔融點よりも之等三種の鑛物の集つて成つた岩石の熔融點の方が著しく低くなり一層熔け易くなる傾向ある爲に耐火性は益々低下する事となるのである。

煉瓦造建築物の耐火性に富む事は上に述べたる如く煉瓦自身の耐火力の大なる事によつて知られるが、尙大火災の經驗乃至科學的實驗の結果に基いて大略次の諸點が確かめられてゐる。

（一）薄き煉瓦壁は厚き煉瓦壁に比して高熱によつて蒙る被害が大である。

（二）並燒煉瓦は上燒煉瓦に比して高熱の影響を受ける事が著しい。

（三）良質の煉瓦を用ひて造られたる建築物は普通の程度の火災に對しては長時間火に曝さるゝも被害を受くる事無し。

（四）良質の煉瓦を用ひて造られたる建築物が長時間に亘りて高熱の大火災に遭ふときは高熱を受くる側に於て膨脹を來して煉瓦に龜裂を生じ、時としては其の一部を熔融せしむる爲に壁體の安定を脅すに至る事も無いではない。

（五）中空煉瓦又は多孔質タイルによつて兩面を被覆せられたる煉瓦造壁體は之等の被覆を有せざる壁體に比して長時間高熱に抵抗して無被害なる事を得る。

石造建築物の耐火性は其の構成に用ひらるゝ石材の耐火性によつて決するのであるが、石材は既に述べたる如く高熱の作用に對して抵抗し得るもの極めて少く、種類によりては全然火に抵抗し得ざるものもあるが故に石造建築物は一般に之を耐火構造と認める事が出來ない。故に萬一火災に遭遇したる場合には材料の全部を取替へる覺悟で建築物の化粧に石材を使用する場合なれば兎も角、柱、楣等の如く荷重を負擔する部分にして火を受ける恐れある部材に對しては石材を使用する事は絶對に禁物である。

尙煉瓦造建築物は上記の如く其の外壁の耐火力大なる爲に、窓、出入口等に防火扉を設け、或は軒先の構造に注意する等の工夫を廻らせば、たとへ内部が木造の場合にても平時の際の火災に對しては至極安全なるものと云ひ得るが、火災が若し地震に伴つて起りたる

ものである場合には問題が全然別になる。即ち煉瓦造建築物は既に述べたる通り耐震性に於て著しき欠陷を有するが故に一度地震の作用を受けたる以後に於ては壁體其他に損傷を蒙る爲に火焰を防止すべき道を失ひ、殆んど無抵抗に火を建物の內部に導き入れる結果となる。此の點より見て石造は勿論一般に耐火構造と信ぜらるゝ煉瓦造すらも我國に於ては眞の耐火構造とは考ふべからざるものとなるのである。

今之を數字に基いて具體的に示すに前揭第2表に見る如く關東大震火災に於て東京市燒失區域內に殘存せる建物四一〇棟中に煉瓦造建築物一一三棟(即ち二八%)を見出す事は一面に於て煉瓦造の耐火性に富む所以を示すものであるが同時に他の一面に於て第3表に見る如く東京府下に於ける震災前の煉瓦造建築物總數六、九六九棟の中、市內のみにて五、二九六(即ち七六%)が燒失せる點を思へば以て一般に耐火構造と稱せらるゝ煉瓦造なるものが震害を受けたる後に於て如何に耐火的に無能力となるかを明瞭に知る事が出來るであらう。

3 鐵筋コンクリート造建築物

(a) 鐵筋コンクリート造建築物の耐震性

鐵筋コンクリート造建築物の耐震性を支配すべき强度は第一義に於て其の構成材料たる鐵筋及びコンクリート自身の强度及び此の兩者の結合狀態如何によつて決せられる。

鐵筋は製鐵所に於て科學的方法の下に製造せらるゝが故に其の强度は鐵材の種類に從つて略一定であつて、更に之を工事に使用するに當つては豫め規格試驗を行ふが常であるから其の强度に就ては各種の建築材料中最も信賴し得るものゝ云ひ得られるであらう。

コンクリートは之に反して工事現場に於て製作しつゝ使用に供せらるゝものなるが爲に種々なる原因によつて其の强度に影響を蒙むる。即ちセメント及び骨材の品質、混練の方法、養生方法等を同一に保つとしても尙

(一)骨材の粗細率
(二)セメントと骨材との配合
(三)水量
(四)材齡
(五)溫度

等によつて强度に影響を受くる事人の知る通りである。以上は專らコンクリートの應壓强度に就て述べたものであるが之と略同樣なる關係は應張强度、應剪强度に對しても適用される。故に鐵筋コンクリート造建築物の材料たるコンクリートに對してはセメント及び骨材の品質を吟味し、混練の方法養生等に注意すれば配合並に水量を適當に擇ぶ事によつて所要の大さの應壓强度を與へ得べく而も此の强度は材齡の增加に伴つて增加し行く利點を有してゐる。應壓强度に比して應張强度並に應剪强度の著しく低き事はコンクリートの重大なる缺點であるが、此の點は强度高き鐵筋によつて合理的に補足せらるゝ事となるが故に此の兩材料の結合によつて成れる鐵筋コンクリート構造は其の設計並に施工に於て缺陷の存せざる限り應壓應張、應剪等の起り得べき總ての應力に對して安全ならしむるを得るものであつて、之を如實に示すものが即ち鐵筋コンクリート造建築物の耐震性である。

地震に對する鐵筋コンクリート構造の價値は久しき以前より識者によつて唱へられ來つた所であるが大正十二年の關東大震災の結果は果然此の事實を完全に裏書したものであつた。即ち鐵筋コンクリート造建築物は煉瓦造、石造等の如き所謂組積式構造のものに比すれば著しく重量が小なるを以て先づ第一に地震による破壞力が小である。又一體的構造なるが故に靜力學的には多元の不靜定架構となりて解法は容易でないが、夫れだけに又內力の分布は複雜となりて建物は一體となりてよく外力に抗し、構成材料たる鐵並にコンクリートの强度の大なる點と相俟つて優秀なる耐震構造を爲すものである。尙鐵筋コンクリート造建築物は一般に剛なる爲、後に述べる所の鐵骨構造に比して自由振動の週期が小であつて、故大森博士其他の研究によれば高さ三〇メートル程度の建築物に於て鐵骨構造なれば週期〇・四乃至一・〇秒內外なるに對して鐵筋コンクリート構造に於ては〇・三乃至〇・六五秒內外を測定せられてをるが故に地震動を受けたる場合にも大なる强制振動

第 5 表

大正12年9月1日關東地震に於ける東京府下鐵筋コンクリート造建物被害表 (警視廳調)

市郡別	被害の程度＼種別	工場	事務所	商店	住宅	病院	學校	倉庫	觀物場	公共	其他	合計	百分比	
市内	全潰	3	2	2	1	0	0	0	1	0	0	9	1.51	11.21
	半潰	4	1	0	0	0	0	7	0	2	2	16	2.68	
	大破損	3	8	6	4	0	1	15	0	0	5	42	7.02	
	小破損	8	25	7	2	4	5	9	1	5	3	69	11.54	88.80
	無被害	42	129	47	45	8	15	97	3	13	63	462	77.26	
	計	60	165	62	52	12	21	125	5	20	73	598	100.00	
郡部	全潰	1	1	0	1	0	0	1	0	0	1	5	4.20	21.00
	半潰	6	0	0	1	0	0	5	0	0	0	12	10.08	
	大破損	0	1	0	1	0	1	1	0	1	3	8	6.72	
	小破損	1	1	0	0	1	1	0	0	0	1	5	4.20	78.99
	無被害	39	8	0	11	1	3	14	0	0	13	89	74.79	
	計	47	11	0	14	2	5	21	0	1	18	119	100.00	

ート造建築物の被害狀況を見れば警視廳の調査に基いて第5表に示す如き數字が得れる。此の表によつて明かなる如く之を市内に就て見るに全潰、半潰等の被害程度の最も甚だしきものは鐵筋コンクリート造建築物總數の一・五乃至二・七%に過ぎず、之に對して無被害に殘りたるものは七七%を越えてゐる。今之を使用に堪えざる大破損以上のものと、多少の修復によりて使用し得らるべき小破損以下のものとに區別するときは前者の約一一%に對して後者は約八九%となる。郡部に於ても略之に近き比率が示されてゐる。尙此の表の示す如く鐵筋コンクリート造建築物中に於て幾分にても不成績を示したるものゝある事は鐵筋コンクリート構造の耐震性に關して或は不安の念を抱かしめる事があるかも知れぬが、若し此の大破損乃至倒潰を來せる所の個々の建築物に就き其の被害の跡を仔細に檢すれば、大被害を招きたるもの多くが鐵筋コンクリート構造が我國に輸入せられたる當時の初期の作品に屬し其の設計の上に於て又は施工の上に於て、或は又此の兩者の上に於て重大なる缺陷を藏したりし事が明確に指摘し得らるゝが故に之等の小數の不成績を示したるものは當然不結果に陷るべき原因を有したるものと斷定し得べく、從つて設計並に施工の進歩し來りたる今日に於ては毫も鐵筋コンクリート構造の耐震的價値を疑はしむるものでない事を確かめ得るであらう。

(b) 鐵筋コンクリート造建築物の耐火性

鐵筋コンクリート造建築物の耐火性は先づ其の構成材料たる鐵並にコンクリートの耐火性によつて決定される。

鐵の耐火性に就ては後に鐵骨構造の條に述べる如く之を直接火に露出せしむる場合に於ては比較的弱いものであるが、鐵筋コンクリート構造に於ける鐵筋は相當の厚さを有するコンクリートを以て被覆せらるゝを以て直接其の耐火性に就て顧慮する必要が無いのを普通とする。

次にコンクリートは熱の傳導度が煉瓦の場合よりも更に低きが故に現在知られてゐる建築材料中に於て耐火材料としては最も優秀なるものとする事が出來る。コンクリートの耐火性はコンクリート中に結晶水が含まるゝ事と、コンクリート自身が多孔質なる事との二つの理由に基くものと說明される。コンクリートが熱を受ければ徐々に先づ此の結晶水が失はれる。此の際一面に於ては氣化熱が奪はれる爲にコンクリート自身の溫度の上昇が防がれるが、他の一面に於てはコンクリートは結晶水を失ふ爲に各分子間の附着力が減

じて質は次第に脆弱となり、其の結果として龜裂を生じ又は部分的に崩壞を來す事となる。但し一旦脫水して變質したるコンクリートは普通のコンクリートよりも更に一層熱に對して不良導體となる爲脫水せるコンクリートの屑を生じたる場合には夫れより内部に在る部分に對しては熱の上昇を防ぐ効果がある。コンクリートの脫水作用は略攝氏三六〇度附近に於て始まり四八〇度附近に於て完結する。熱の傳導度は配合の如何、骨材の品質等によつて著しく相違するが、一般は花崗岩、石灰石等を骨材としたるものは熱の傳導多く砂岩、凝灰岩等のもの之に次ぎ、煉瓦屑、石炭燼、コークス屑等を入れたるものは傳導が著しく少ない事が知られてゐる。尙高溫度に於けるコンクリートの耐火性は其の材料たる骨材の耐火性に比例するものであつて、又セメントの量は之が多い程熱の傳導度は低いのであるが此の影響はさまで著しくない。更に耐火性の點より論ずれば碎石コンクリートの方が砂利コンクリートに優るものとされる。

コンククリートが高熱を受くる場合の强度に就ては種々なる實驗の結果があるが强度と配合との關係は常溫に於ける場合と同樣であつて、配合の良きもの程高溫度に於ける强度も亦大である。又コンクリートの耐火性に關しては骨材の大小が影響を有し、砂利、碎石等の粒の大なるものは成績が不良である。之は石造建築物の場合に述べたると同樣に粒の大なるものは鑛物の膨脹係數の差に因つて先づ砂利、碎石等が碎せられ從つてコンクリート自身の崩壞を招致するのである。尙コンクリートの彈率に就ては溫度の上昇に伴つて之が著しく値を減じコンクリートは從つて次第に脆くなるものと知られてゐる。

溫度の上昇に伴ふてコンクリートの表面に可たりの剝落を來す事は事實である。之はコンクリートが熱の不良導體なる爲に表面は熱せられて膨脹するも内部には熱を傳へざる故に膨脹を來さず、その結果として兩者の間に生ずる力の差によつて剝落を來し、而も單に表面がボロ〳〵ミなる程度に止まらずして相當大なる破片をなして剝がれる場合が多い。此の剝落は砂岩、花崗岩又は普通の砂利を骨材としたる場合に比較的多く起り石炭燼、コークスの屑、石灰岩の類を用ひたる場合に於て比較的少いが、剝落を來す溫度としては一般に攝氏六〇〇度以上と考へて大過が無い。更にコンクリートの耐火性と軟さの關係に就て研究したる實驗の結果によれば、强度の場合の關係とは逆に耐火力の點より見れば堅練のコンクリートよりも寧ろ軟練のもの、方が有利なる事が見出されてゐる。

鐵並にコンクリートの耐火性に就ては以上に述べたる如くであるが、此の兩材料の結合によつて成れる鐵筋コンクリート造建築物の耐火性に就ても過去に於ける多數の火災並に科學的に試みられた耐火試驗の結果が充分に其信賴し得べき所以を示してゐる。尤も火に對して弱き鐵筋は充分にコンクリートを以て被覆されてゐる事が必要であると共に火氣によつて生ずべき龜裂を防ぐ爲には直接張力の作用を受けざる部分に對しても充分に相互間を緊結して置く必要がある。鐵筋を火氣に對して保護するに必要なるコンクリートの被覆厚としてはコンクリートの熱傳導度の關係上、一般に約一・五乃至二・〇センチメートルあれば充分であつて、コンクリート内に包まれたる鐵筋に對してはコンクリートを攝氏三〇〇度乃至四〇〇度程度まで熱しても其の不屈限度乃至應張强度に何等著しき影響の無い事が確かめられてゐる。

鐵筋コンクリート造建築物が强烈なる火災に襲はれたる場合、殊に室内等に於てコンクリートの表面に漆喰塗が施れて空氣の流通が遮斷せられたる如き場合にはコンクリートの内部に生ずる水蒸氣の高壓乃至膨張係數の差によつて相當大なる破片となつて表皮の剝落する事も起り、又熱せられたる表面に消防用水が注がる事によつて龜裂、凹凸等を生ずる事も免れぬのであるが、之等の被害は何れも單なる表面的のものであつて、骨組としての架構の强度に對しては何等影響する所無きを以て、木造等の場合に見る如く建物全體が燒け落ちるとか、或は火を傳へるとか云ふ恐れは全然無いのである。現に攝氏一一〇〇度の高熱に於てさへ僅か厚八センチメートルの壁

があれば隣室を保護するに充分であつて必要に應じては燃燒せる最中に其の隣室に立入る事すらも敢て困難でないと云はれてゐる。

之を要するに施工の良き鐵筋コンクリート造建築物は斷じて火災によつて破壞せらるゝ恐れ無く、萬一防火扉等の設備無くして室内を燒盡さるゝ場合ありとするも骨組は深く侵さるゝ事無きを以て災後直ちに再使用に供し得べきが故に特殊の倉庫等の場合は別として普通の建築物に對しては極めて安全なる耐火の構造なりと稱し得べし。殊に將來の戰時を豫想したる場合、其の耐火性の信賴し得べき點より、又多くの場合に避難場所たるに適する地下室を有する點より鐵筋コンクリート造建築物が防空的見地よりして如何に其の効果を發揮すべきかは茲に更めて喋々を要せぬ所であらう。(未完)



昭和四年度の本誌
編輯を回顧して

編輯子

例年本誌の編輯子となるものは其原稿の蒐集難には相當頭を腦まされる例になつて居ると云ふことである。

本年度は何とかして編輯方針のコースを目新しくして蒐集難を打破してみやうではないか、といつた樣な申合せが初編輯會に於ける編輯子達の力强い叫びであつた。

ところで其具體的の案として、さてどんなコースを辿らうかこんなに進まうかと、したたか其案に付ては練つてみたものだ。夫れと云ふのも向先十二ケ月の各ナンバー毎にスペシャル號としやうかといふ豫定方針を樹てたからだ。

編輯子達の考へとしては右の樣な方針を年度變りのスタートから公表しておいたならば、必ずや會員各位からの投稿も願へやうしといつた樣な事も一案であつたし、夫れに又寄稿を願出るにしても相當に時日の餘裕をおいて向先の依賴も出來やうし、旁々各月號を豫告しておく事によつていくらかそこに意義をなし又いくらか期待して頂く事も出來はせないかしら、なぞゝ各號標題選定には實の處色々と氣をあせつてみたつもりである。

漸つとこのこと各號と季節其他色々の關係なども考慮に入れて選み出してみたのが、既刊十二冊の會誌であつた。

昭和四年度『建築と社會』特輯號表

二　月號　震災豫防號
三　月號　レストラントとカツフエー號
四　月號　鄉土建築號
五　月號　小住宅研究第一集
六　月號　小住宅研究第二集
七　月號　都市美觀號
八　月號　貸家建築とアパートメント號
九　月號　商店建築號
十　月號　林泉と庭園號
十一月號　照明、煖房、衛生研究號
十二月號　防火建築號
一　月號　昭和四年建築大觀號

さて愈々發行してみると、色んな點に物足りない筋もあつたけれど、幸に原稿の蒐集其他萬端編輯子達のスタートの叫びと大した喰ひ違ひもなく、計畫通りに曲りなりにも夫を遂行する事が出來得た事は、一つは會員各位の援助の賜であつたと感謝して居る樣な譯である。

過ぎし一ケ年間に亘る編輯の跡を顧みて所感の一端を筆にしてみた。

(四、一二、一四)

誌上講座

建築工事の勘定と事務 (8)

由良基夫
中島智喜

財産毀損保險 一般事故保險は習慣上財産の毀損例へば隣接建物の毀損、現場入場の材料商人の馬車又はトラックの破損或ひは現場通行の車に對する損害等に對しては塡補しないものである。

財産毀損保險は各種の損害の塡補をなし且一般事故保險中の(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ト)(チ)の各項に對する責任を持つものである。

特殊の保險契約 特に記載なき限り一般事故保險及び財産毀損保險は次の諸物件より生ずる損害を塡補しないことになつて居る。

エレベーター
ステイーム、ボイラー
自働車其他動力附の車
貨物を索く動物及び之に用ひられる運搬車

故に現場に右の如き物件を所有するときは夫々特別の保險契約を締結しなければならない。又之等の物件を賃借又は雇入れるときも同樣保險を附することが出來る。

エレベーター、ステイーム、ボイラー又は動力附の車の使用に就ては之に關する規定を嚴重に守る必要がある。然らざれば保險會社は損害の賠償に應じないことがある。この規定といふのはステイーム、ボイラーの場合に殊に喧しいのであるが定期に檢査を州の役員又は保險會社の檢査員が行ひ合格したものは州の役員が使用の許可を與へることになつてゐる。又ある地方では運轉手は免許狀を所持することを要し且機械に必要なる被覆又は安全裝置を設備する事が必要である。

火災保險 建築物の火災に對する保險契約は建築の注文者が附することになつて居る。保險契約には損害發生のときの利害關係の如何により建築業者又は注文者の何れかに保險金を支拂ふことゝする。斯る諒解の下に保險契約を締結した場合には建築業者は工事中一定の時期毎に建築物の價格の增加を注文者に通知して保險金額の增額をせねばならない。併し通常契約內金請求書によつて此の目的を達することが出來るものである。

契約書に右の如き條項がない場合は建築業者は工事に對する自己の利益を保護する爲めに適當なる火災保險を附さねばならない。茲に利益と稱するものは工事の總出來高金額と今回迄の請負內金領收濟金額との差額を指すものである。

勿論地下室根伐工事費或ひは地盤下のコンクリート壁等に對しては火災保險を附する必要はないが往々足場の燒失により高い煉瓦又は石造の壁體を損壞し再築の必要を生じる事があるのは注意を要する事である。故に建築物中の燃燒し易き部分は凡て火災保險に附する事が必要である。

第十八章 銀行

一般の人の考へる銀行の役目といふのは預金を扱ひ小切手を現金に引換える位のことである。若し夫れ丈けが銀行の仕事とすれば銀行は小切手を現金に引換える場合に多額の手數料を徴取しなければ營業を續けて行くことが出來ない結果に陷る。

一般に銀行とは公債及び有價證券等の賣買によつて（但これは第一義的の業務にあらず）利益を擧げるものであるが銀行の收入の最も主要なる源泉は商人に手形又は有價證券等によつて金錢を貸付け之に依て利息をとることである。即ち銀行預金は銀行が利益を擧ぐる爲に使用する材料で恰も建築業者の用ふる煉瓦、セメント等の材料と同樣である。唯建築業者は材料を購入し銀行は之を借入れるのである。銀行は借入先に對しては預金、代金取立、支拂、爲替其他の取扱をなすものである。

銀行の選擇は會計係の重要なる任務である。株式會社にあつては支配人が之を選定すべきである。銀行の選擇には注意すべき點が極めて多いが、實際は不幸にして之等は豫め豫期する程詳細に調べる事が出來ない。注意の要點を擧ぐれば次の通りである。

イ、堅實なること
ロ、保守的なること
ハ、場所の便利なること
ニ、取扱丁寧にして設備完全なること
ホ、借越金の範圍の如何

一般に(ホ)は前以て決定が出來ない。之は建築業者が基礎確立し相當の信用を得てゐなければならない。

保守主義の銀行家は基礎不確實な會社に對しては初めから信用擴張の問題には關係しようとしない。特に建築會社に對しては一層用心をする樣である。夫は他の製造工業等では土地建物の外永久的の機械設備を有するものであるが建築業に於ては資本を土地建物に投ずる必要がなく且使用の機械の如きも比較的消耗し易くその消却の時季も早いものが多いからである。

借入をなす場合には銀行は確實なる財産の擔保を要求する。但これは手形滿期の際借主が返却不能に陷つても此の擔保條件で充分借入金支拂に充當することが出來るものでなければならない。

建築業者は其事業を始むるに當つて多數の銀行に分割して預金をするよりは自己に最も有利なる銀行を一つ選び常に工事費取立を確實に行ひ預金殘高を高め又手形は直ちに支拂ひ常に最高の信用を維持しておくことが必要である。

商人に對し發行せる材料の手形代金を即時に支拂ひ即時拂により受くる割引額の特典が同一金額を銀行より借出し辨濟迄に支拂ふ利息より多き場合には直ちに銀行に赴き必要なる金額の借出をなし直ちに手形代金の支拂をなすべきである。

預金者に對し銀行が貸出をなす限度は預金者の最近の財政狀態、商業上の評判及び銀行の營業方針によつて異るものである。一般に銀行は預金者の最近六ケ月又は其他の期間中の平均預金殘高により一般の關係的率によつて貸出の限度を定めて居る。併し預金者は斯ることに頓着なく必要なる丈けの借入金を要求すべきである。然らざれば借入中は取立金によつて埋合せをする場合の外はこれ以上借入れることが出來ない事になる。

銀行が餘り信用して呉れない間は借入金は少額とし事業の擴張が確實となるに從ひ漸次借入金を增加する樣にして行けばよい。

建築業者が現在の設備では到底持續することが出來ない樣な大工事を引受ける機會に遭遇した時は直接銀行へ赴き其工事に對する詳細の說明と確實に利益を擧げ得る所以を縷述して諒解を求め工事に對する銀行よりの貸出の金額、時期及び期間等に就て協定すべきである。銀

行が事業家に對して便宜を與へ之によつて利益を得て居るのは丁度事業家が預金として之を銀行に利用せしめて居るのと同樣で斯くしてこそ銀行の存在は有意義となるのである。

借入金の問題は別としても銀行の自己に對する信用を維持することは必要なことである。銀行の重役又は支配人は往々他の事業にも關係して居る事があるから之が信用を受けることは漸々極めて有利な工事を獲得する端緒となることがある。

この外銀行は詐欺的の危險より免れしむる役目をするものである。即ち銀行の支配人は常に一般事業家に就て其信用狀態を承知して居るものであるから之に質問すると工事に對する極めて有益なる報告を得ることがある。時には工事引受の不利なることさへ發見し危機を脫することが出來るのである。

附錄A 契約書式

請負人と注文者の總額請負契約には米國建築學會發行の公定契約書を推薦したい。同契約書式は建築業者と設計者の合議になるもので極めて一般的に廣い範圍に亘つて應用の出來るものである。

實費報酬が算式施工契約に就ては右と異りたる書式が必要で之には過去數年間各種工事に用ひられたものを推薦することゝし左に其の一班を示す。

實費報酬加算式施工契約書

本契約ハ 年 月 日オハイオ州トロイ市アトラス建築會社（以下請負人ト稱ス）ト何某（以下注文者ト稱ス）ノ間ニ作成締結セラレタルモノナリ。

前記請負人、其ノ代表者及ビ立會人ハ注文者ト相互ニ左記條項ニ對シテ同意スルモノトス。

第一條 請負人ハ（何某）ノ作成セル圖面仕樣書ニ從ヒ（ ）ノタメ（ ）ヲ前記（ ）ノ指圖ニヨリ工事ニ必要ナル一切ノ材料及ビ手間ヲ提供シ且圖面仕樣書ハ其ノ實際ノ意味ヲ酌量シ以テ工事ヲ完成セシムベシ。

第二條 注文者ハ請負人ニ對シ直チニ現場ヲ提供シ且工事ノ遲延ヲ防グ爲メ特殊ノ器具、設置物ノ取除キニ關シテハ請負人ニ對シ相當ノ時日ヲ與フルモノトス。請負人ハ建築ニ必要ナル各種ノ材料手間及ビ機械器具ヲ提供シ且建築中ハ養生ヲ施シ本契約ニ定ムル通リノ狀態ニ完成ノ上注文者ニ引渡スベキモノトス。請負人ハ都市ノ慣習及ビ州ノ法律ヲ守リ之ニ違背セル結果蒙ムリタル損害ハ施主ノ負擔トナラザル樣請負人ニ於テ解決スベキモノトス。

第三條 注文者ハ何時ニテモ工事ノ各部ヲ檢閱シ圖面仕樣書ニ適應セザル箇所ヲ取除キ又ハ改修ヲ命ズル權利ヲ有ス。

第四條 特ニ規定ナキ限リ請負人又ハ其ノ代人、下請人及ビ之等ノ人々ノ使用人ノ與ヘタル工事各部及ビ材料ノ損傷又ハ他人ニ與ヘタル負傷ニ就テハ注文者ハ其責任ナキモノトス。請負人ハ工事中他人ニ傷害ヲ與フベキ危險アル個所ニハ相當ノ防禦設備ヲナスコト。若シ之ヲ怠リ他人ニ損害ヲ與ヘタルトキハ請負人其責ニ任ズベキモノトス。

第五條 建築物ノ火災保險ハ注文者ニ於テ之ヲ附ス。保險ハ注文者及ビ請負人ノ双方ニ効力ヲ有スルモノニシテ建築物及ビ其ノ材料或ハ工事場全體ニ就テ損害ヲ塡補スベキモノトス。而シテ保險金額ノ支拂ヲ受クルモノハ其場合ノ利害關係ノ如何ニヨリテ決定スルモノトス。

第六條 請負人ハ契約締結ト共ニ工事ニ着手シ優秀ナル技術及ビ精選セル材料ヲ用ヒ注文者ノ利益ノ爲メ能フ限リノ努力ヲナスベシ。

第七條 請負人ハ本契約締結後（ ）以內ニ工事完成ノ上注文者ニ引

渡ヲナス。請負人ガ注文者側ノ都合、ストライキ、事故、工事差止及ビ政府ノ命令等ニヨリ工事ノ遲延ヲ蒙リタルトキハ其ノ工事中止期間ニ相當スル工期ノ延長ヲナスコトヲ得。

第八條　請負人ガ優秀ナル職工及ビ精選セル材料ヲ用ヒズ且誠意ヲ以テ契約ノ履行ヲナサザルトキハ注文者ハ三日間ノ豫告ヲ以テ不良部分ノ取替ヲ命ズ、若シ請負人ガ之ヲ實行セザルトキハ注文者ハ契約ヲ解除シ工事ノ中止ヲ命ジ今後ノ材料ノ入場、勞力ノ使用ヲ禁ズ、此場合請負人ハ其時迄ニ要セル工事費及ビ其ノ一〇パーセントヲ合算セルモノヽ支拂ヲ受ク。

第九條　請負人ハ契約書圖面及ビ仕樣書等ニヨリ提供セル材料、勞力ノ實費ハ之ニ對スル（　）ノ報酬ト共ニ注文者ヨリ其ノ支拂ヲ受クルモノトス。

實費

實費ハ次ノ費目ヨリ成ル。

イ、材料　契約ニヨル工事ノ爲ニ購入セル材料ニシテ之ハ同材料ニ對スル送狀ニヨリ證明スベキモノトス。

ロ、手間　請負人ノ賃銀支拂表ニヨル手間實費ニシテ之ニハ工事主任、世話役、出面係、守衛、職工其他工事ニ必要ナル使用人ヲ包含ス。

ハ、下請　下請セシメタルモノニシテ之ハ請負人ノ判斷ニヨリ下請セシムル方ガ利益且結果宜シト思考スル場合ニ限リ實行スルモノトス。

ニ、特別費　電信電話料、運賃、職工奬勵金一般事故保險、職工傷害保險請負人代人ノ費用、材料手配ニ關スル世話役又ハ出面係ノ旅費等ヲ含ム。

ホ、雜費　職工、材料及ビ機械器具ノ運賃、遠隔ノ地ニ必要ナル宿舍費、許可料其他工事ニ必要ナル雜費ヲ含ム。

ヘ、小器具　工事中ニ購入セル小器具ト工事終了後請負人ノ手ニ殘存スルモノトノ差額ヲ以テ之ニ充ツ。

ト、請負人ノ機械設備　建築機械標準賃借料率表ニヨル機械ハ充分檢査ノ上現場ニ發送スルモノトス、又機械ニ要スル燃料、油等ハ賃貸料ニ含マズシテ(イ)ノ項目ニ入ル。

機械賃貸料　（一日に付）

自動車	フオード	六弗
	パツセンジヤー(大型)	一五弗又ハ一哩ニ付十五仙
	トラック	一定セズ
バケツト	チツプ	〇、六〇
	ボトム、ダンプ	〇、九〇
カー	フラツト	〇、五〇
	チツプ	〇、七五
カート コンクリート		〇、五〇
コンクリート ミキサー	注ギ込ミ用具	六、〇〇
	塔	一、〇〇
	ワンバツク	七、五〇
	ガソリン	
	ツーバツク	七、五〇
	ガソリン	
デリツキ	ブレスト	一、五〇
	スティフレツヾ	六、〇〇
	グイ	六、〇〇
	ホヰール	一、五〇

料率ハ一日當リトス　然料、手間、修理、保險、運賃ハ別トス

積出ノ日ヨリ返送ヲ受ケタル日迄ノ內、作業使用日以外ノ日ハ此ノ料率ノ四分ノ一トス

エンヂン	ボイラー付スティームホイスト	九、〇〇
	ボイラー無スティームホイスト	五、〇〇
	ボイラーガソリンホイスト	五、〇〇
	ホードレー ボイラー及エンヂン	六、〇〇
	ホードレーボイラー	四、〇〇
エレベーター		三、〇〇
ジンポール		一、五〇
モーター（電氣）		五、〇〇
杭打ハンマー		四、五〇
タイプライター		〇、二五
箱尺		〇、五〇
ポンプ	手押	〇、七五
	蒸氣	二、五〇
	パルソメーター	二、五〇
	ボイラー付スティーム	四、二五
	ガソリン	二、五〇
ソーリング、ソーテーブル		一、五〇
スキングソー及ビローラー		二、二五
小屋	職工小屋	一定セズ
	事務所	〇、五〇

附屬小器具代ハ別トス、工事終了後殘品調査ノ上精算スベシ

トランシツト、ロツド其他付　一、〇〇
レベル　ロツド其他付　一、〇〇
ター、ケツトル　〇、五〇

第十條　本契約ニ基ク圖面仕樣書ニヨリ且第九條ニ定ムル實費ニ基キ請負人ノ見積リタル工事費總額ハ（　）ヲ超過セザルモノトス。若シ工事ガ前項規定ノ金額以內ニテ完成セルトキハ節約セラレタル金額ノ半額ヲ注文者ヨリ請負人ニ支拂フ。

第十一條　注文者ハ本契約ニ基ク工事ノ變更ヲ命ズル事ヲ得。

第十二條　工事變更ニヨリ相互諒解ノモトニ工費ノ增額セルトキハ第十條ニ定ムル工費ノ最大限モ亦增加ス、此ノ場合增加ノ部分ニ對シテハ報酬トシテ請負人ニ對シ其ノ金額ノ一〇パーセントヲ支拂フ、若シ工事變更ニヨリ相互諒解ノモトニ工費ノ減少セルトキハ第十條ニ定ムル工費ノ最大限モ亦減少ス。此ノ場合請負人ノ報酬ニ對シ何等變更ナキモノトス。

第十三條　其他本契約外ノ追加工事ハ其實費及ビ一〇パーセントノ報酬ヲ請負人ニ支拂フモノトス。

第十四條　二週間毎ニ現場ニ入場セル材料及ビ工事出來高ニ對シテ精算ヲ行ヒ左ノ如ク支拂金額ヲ決定スベシ。二週間毎ニ請負人ハ其ノ期間中ニ使用セル材料手間ノ請求明細書並ニ之ニ附隨セル送リ狀、賃銀支拂表其他ノ證憑書類ヲ注文者ニ提出ス。而シテコノ工事費並ニ之ニ對スル一〇パーセントノ報酬ヲ合算セルモノヲ以テ其ノ期ノ支拂金額ト定ム。但報酬金ハ本契約ニ規定ノ總額ヲ超過ス可ラズ（

第十二條及ビ第十三條ニヨルトキハ此ノ限リニ非ズ）支拂金額ハ請求明細書提出ノ日ヨリ七日以內ニ支拂ハルベキモノトス。

第十五條　材料ニシテ即時拂ニ對シ割引ノ特典アルモノハ必ズ即時拂ヲナスモノトス。其ノ手續キヲ次ノ通リ定ム。每週月曜日ニ請負人

ハ其ノ週間ニ要スル概算費用ヲ計算シ注文者ニ通知ス。コノ費用ニ相當スル金額ハ注文者ヨリ請負人ニ前渡シヲナシ請負人ハ之ヲ以テ出來得ル限リ即時拂ヲナシ工費ノ節約ヲ計ルモノトス。コノ假拂金ノ精算ハ第十四條ニヨル。

第十六條　工事費ノ精算殘金ハ工事ノ完成引渡後三十日以內ニ支拂フベキモノトス。尙報酬金ニ殘金アルトキハ工事費精算殘金ト同時ニ支拂フベキモノトス。

第十七條　本契約ニ定ムル條項ヲ忠實且完全ニ履行センコトヲ双方ニ於テ堅ク相誓フモノトス。

本契約締結ノ證トシテ當事者間ニ左ノ通リ署名ス。

アトラス建築會社

支配人　何　某

右證人　何　某

附錄 B　參考書

本書に述べた出面計算、原價計算、簿記及び購買等に就て更に研究せんとする諸氏は專門の關係著書を讀まれんことを望む。この目的の一助として茲に參考書を少しく摘記して置く。此等の著書は本書に於て極めて簡單に記述したものを更に詳述してあるので其內容は必ずや稗益する所が多いと思ふ。又本書に述ぶるものと同一命題に就て論じたものもあるが之も必ずしも同一の見界にあるものでない。即ち讀者は同一命題に對する各種の異りたる意見を味得することにより漸く其の眞相を把握するに至るものであると信ずる。

Allen, Leslic Hy "Cost Accounting on Construction Work," Aber thaw Construction Co., Boston.

Gillette, Herbert P., "Handbook of Cost Data," Mc Graw-Hill Book Co., Mc., New York.

Gillette, H erbert., P., "Handbook of Construction Costs,' Mc Graw-Hill Book Co., Inc., New York.

Gillette and Dans, "Construction Cost-Keeping and Management," Mc-Graw-Hill Book Co., Inc., New York

Gillette and Hill. "Concrete Construction, Methods and Cost," Mc-Graw-Hill Book Co., Inc., New York.

Taylor and Mompson, "Concrete Costs," John Wiley & Son, Inc., New York.

Walker, Frank R., "The Building Estimator's Reference Book," Frank R. Walker, Chicago.

Walker, Frank R., "Practical Cost Accounting for Contractors," Frank R. Walker, Chicago.

Grant, H.D., "Practical Accounting for the General Contractor," Me-Graw-Hill Book Co, Inc., New York.

Kidcler, F. E., "Building Construction and Superintendence." W.T. Constock, New York.

次に參考雜誌を揭ぐれば

Engineering and Contracting (Chicago), Weekly.

Engineering News-Record (New York), Weekly.

Concrete (Detroit), Monthly.

Contract Record (Tronto).

1



2



竣工　昭和四年三月
坪數　建坪　二四〇・四二八
　　延坪　八七三・〇九三
階數　地階付三階建
工費　三十三萬圓

3

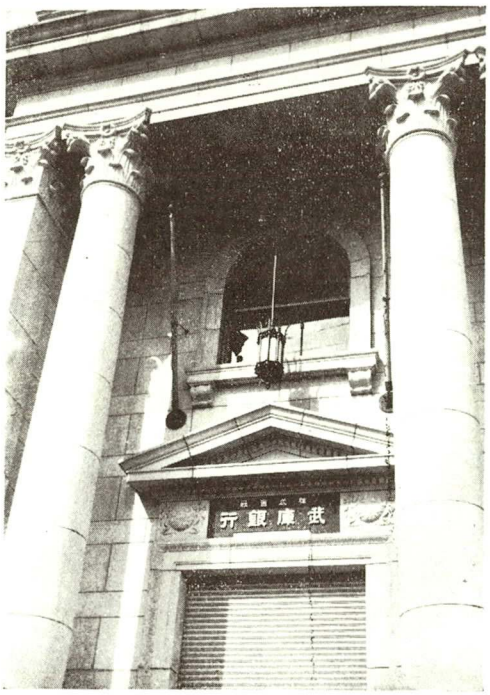


1 外　觀
2 營業室
3 大會議室

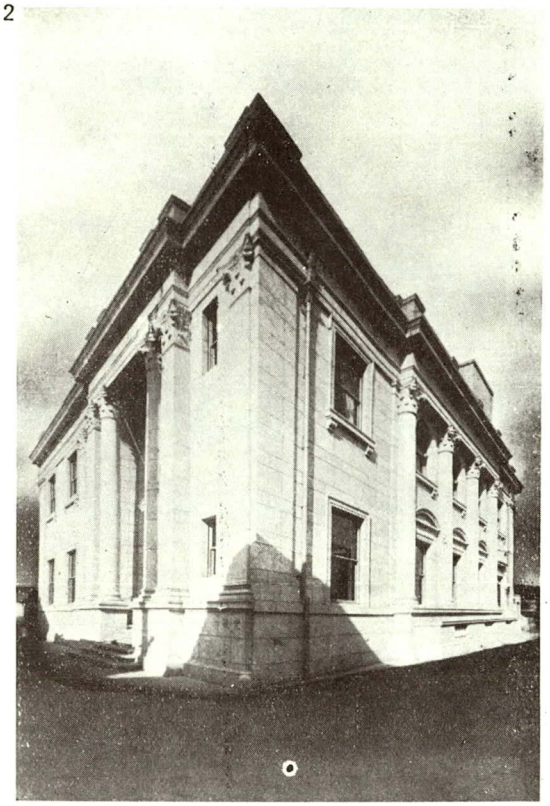
大日本紡績株式會社本社
設計　橋本建築事務所
施工　竹中工務店

1 多聞ビル武庫銀行入口詳細
2 外　觀
3 武庫銀行營業室

1



2



3



西宮・多聞ビルヂング
設　計　古塚建築事務所
施　工　大　林　組

1



2



3



1 外　觀
2 三階外務員室
3 二階事務室

第一生命保險相互會社京都支部
設　計　第一生命會社營繕係
施　工　大　林　組

4



4
日本相互貯蓄銀行外觀
設計施工　大　林　組

1



1

大阪・モリビル外觀

設　計　片岡石本建築事務所
施　工　森本建築社

竣工　昭和四年五月
坪數　建坪　五四・三九
　　延坪　二三五・八五
階數　鐵筋混凝土造四階建
工費　八萬圓



2

滿鐵大阪鮮滿案內所外觀

設　計　安井建築事務所
施　工　大林組

3



大阪輸出莫大小工業組合外觀

設　計　宗建築事務所
施　工　大阪橋本組

竣工　昭和四年五月
坪數　建坪　一一〇・八三
　　延坪　二六二・一〇
階數　鐵筋混凝土造三階建
　　(塔屋付)

1



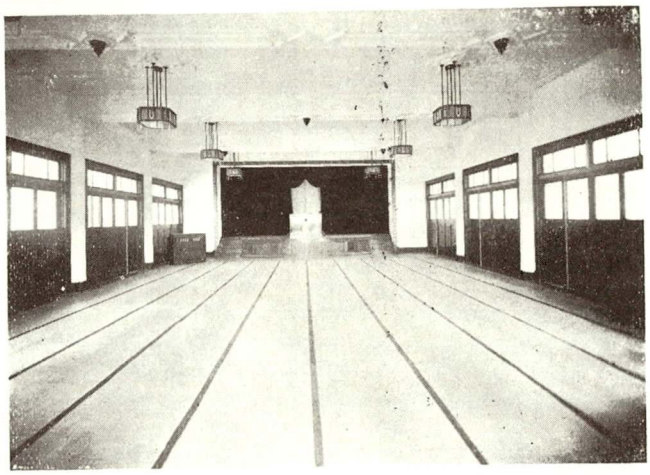
京都・村雲會舘

施　工　大阪橋本組

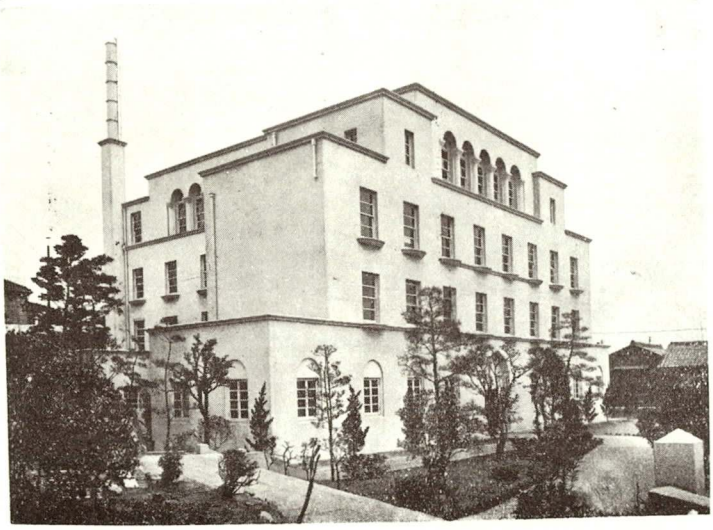
1 外　觀

2 講堂の內部

2



3



3

商船學校神戶校友會々舘外觀

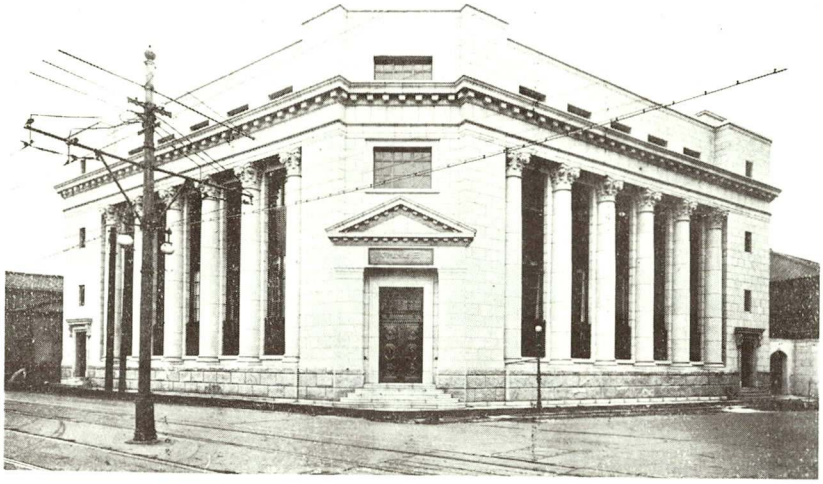
設計施工　大　林　組

1

三菱銀行三宮支店

設計　三菱地所部
施工　竹中工務店

1 外　觀
2 營業室



2



3



3

奈良電氣鐵道株式會社外觀

施工　大林組

1



株式會社三十四銀行堺支店

設計　宗建築事務所
施工　竹中工務店

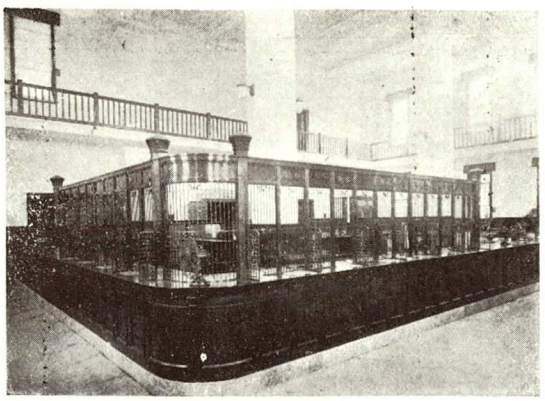
竣工　昭和四年四月

坪數　建坪　一三四・八六
　　延坪　一九六　六六

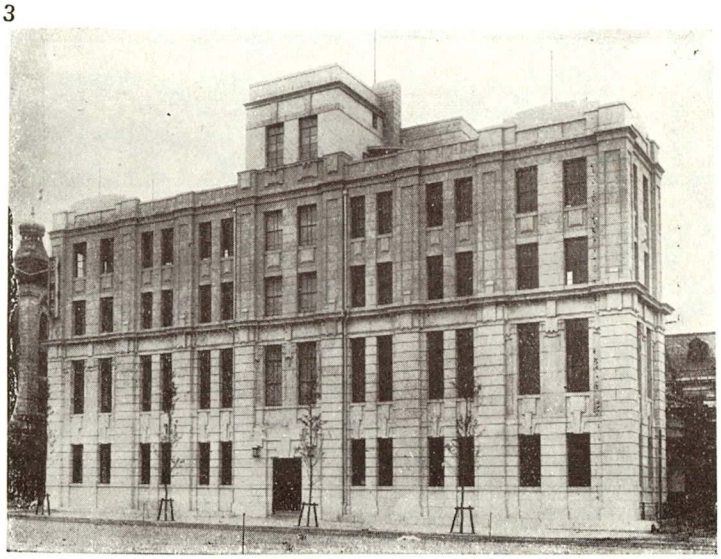
階數　鐵筋混凝土二階建塔屋付

1 外觀
2 營業室

2



3

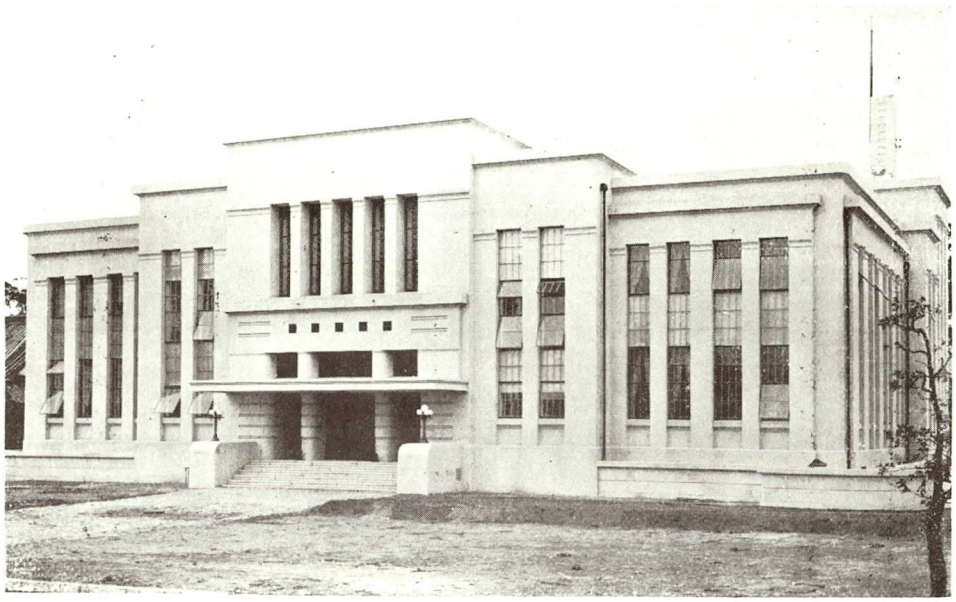


3

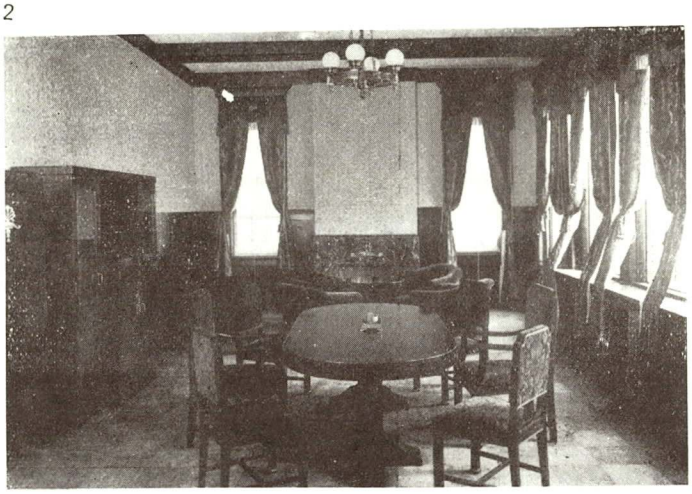
日本生命保險株式會社大阪支店外觀

設計　片岡石本建築事務所
施工　大林組

1



2



階數　鐵筋混凝土造三階建
（地階付共）

坪數　建坪　二六八・八〇
　　延坪　九一〇・四〇

3

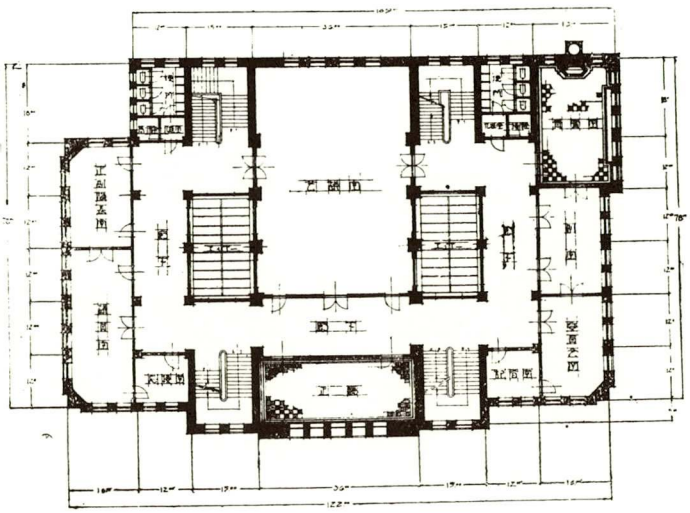


1 外　觀
2 市長公室
3 事務室

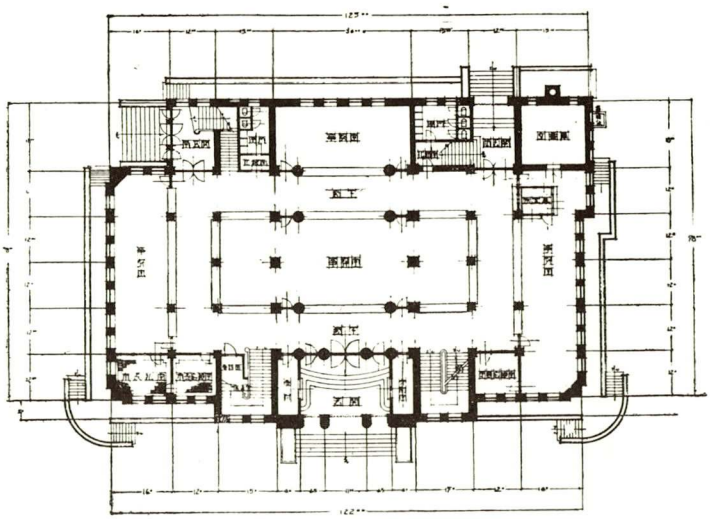
西宮市役所廳舍

設　計　古塚建築事務所
施　工　神戸中島組

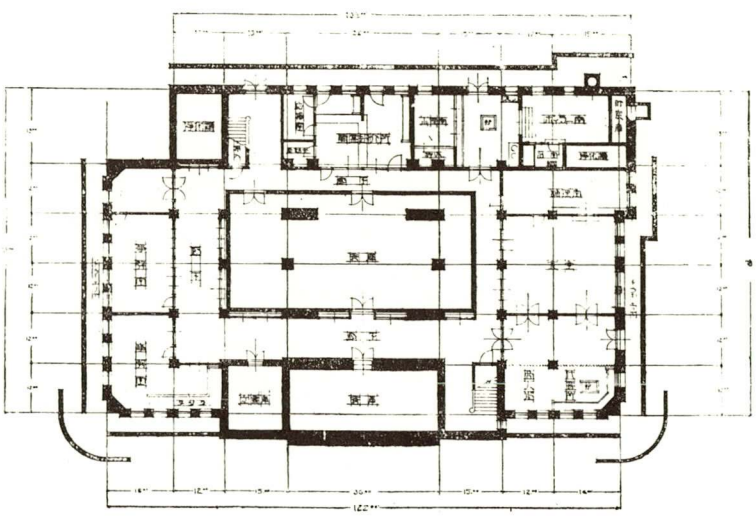
1



2



3



1 第二階
平面圖
2 第一階
平面圖
3 地　階
平面圖

西宮市役所廳舍

設計　古塚建築事務所
施工　神戸中島組

1



2



3



1 正面外觀
2 正門詳細
3 背面外觀

神戸移民舘
設計 兵庫縣營繕課
施工 大林組

1



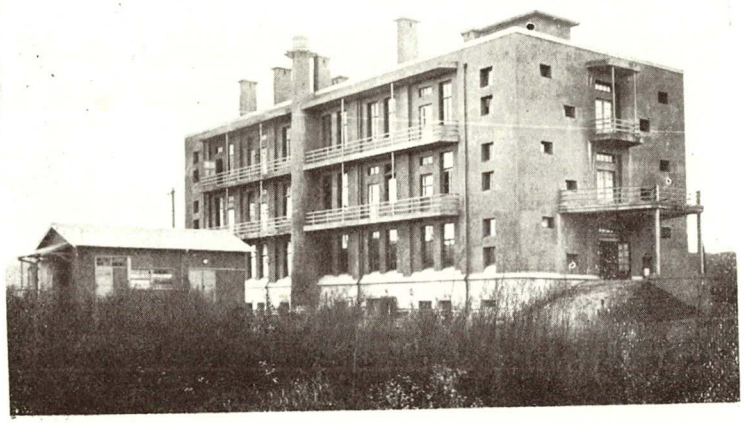
神戸稅關旅具檢查所
設計 大藏省營繕管財局
施工 大林組

1 外觀の一
2 外觀の二

2

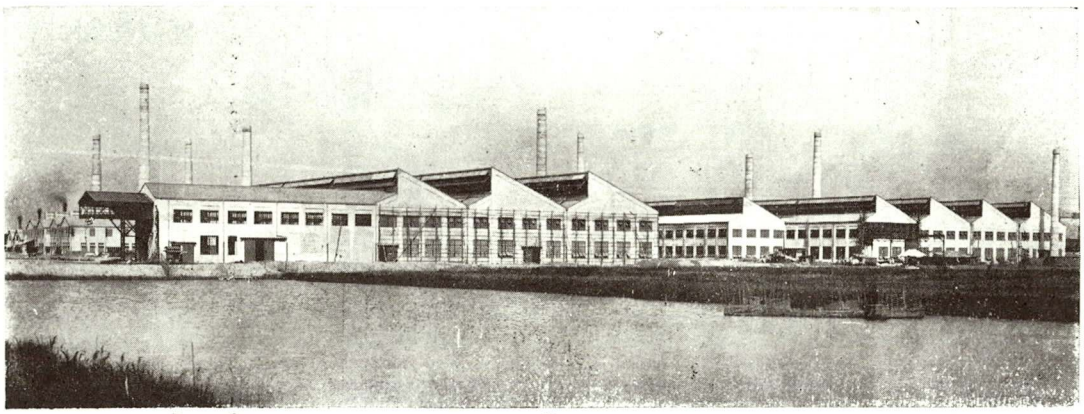


3

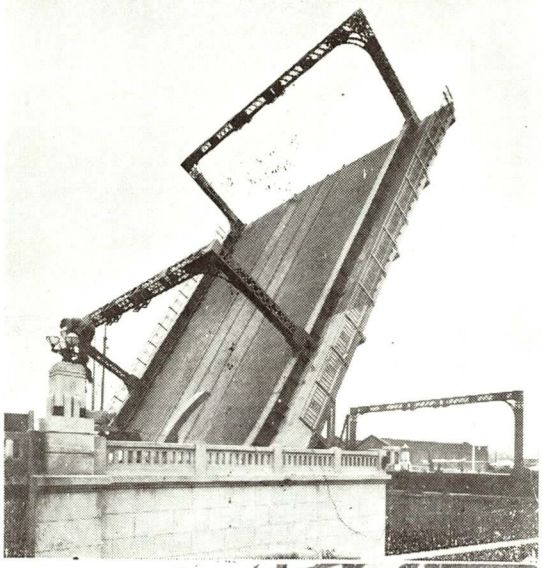


3
京都帝國大學化學研究所外觀
設計 京都帝國大學營繕課
施工 大林組

1



2



1 住友伸銅所工場全景
設計　住友合資會社工作部
施工　大林組

2 神戸運河第一橋
施工　大林組

3 神戸・小泉製麻株式會社工場
設計　眞砂治太郎氏
施工　清水組

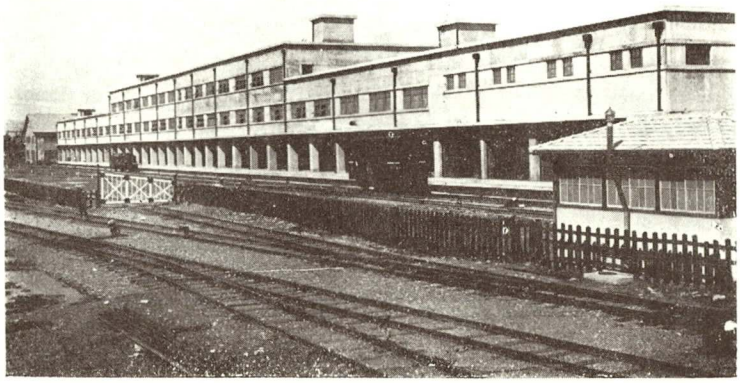
3



1



2



1 **杉村倉庫外觀**
設計　杉村倉庫營繕係
施工　大林組

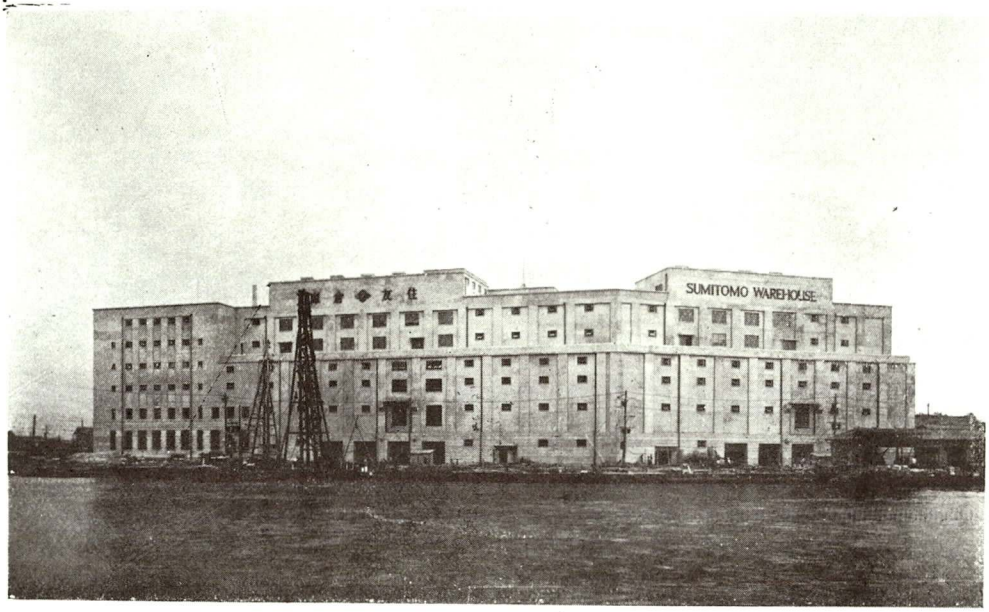
2 **鐵道局大阪倉庫**
設計　鐵道局工務課
施工　大林組

3 **大阪市築港上家**
設計　大阪市建築課
施工　大林組

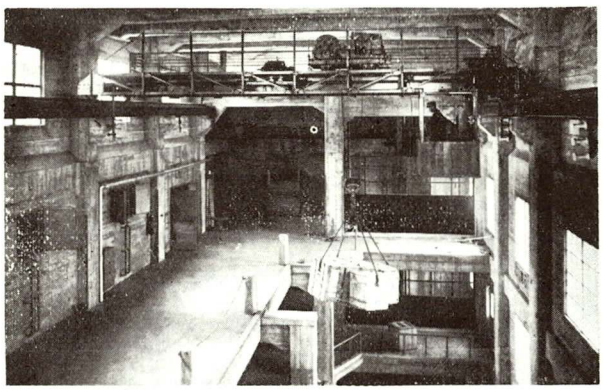
3



1



3



2



4

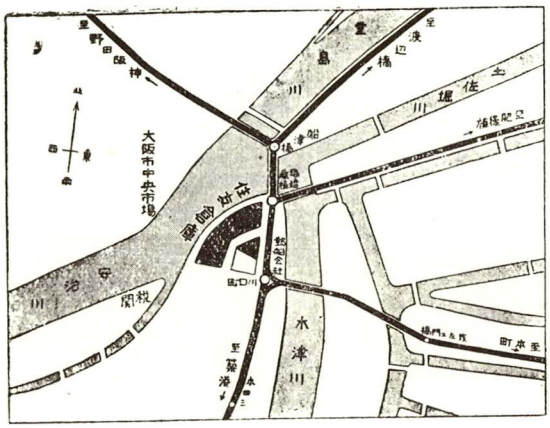


1 外　觀
2 荷捌場
3 起重機天井走行
4 倉庫內部

住友倉庫川口支店

設計　住友合資會社工作部
施工　大林組

附近見取圖

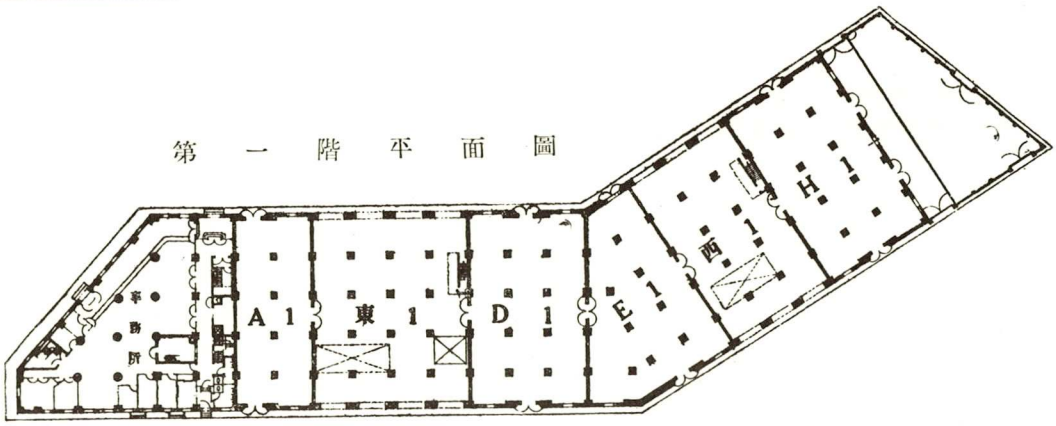


住友倉庫川口支店

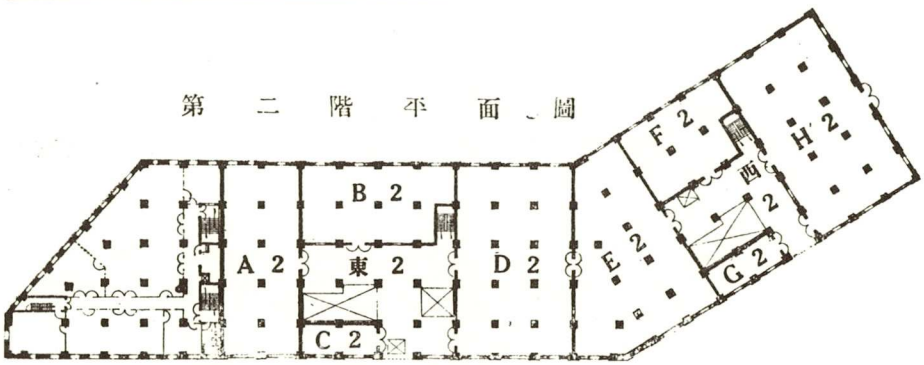
設計　住友合資會社工作部
施工　大林組

竣工　昭和四年十月
坪數　建坪　一・〇四二・九一
　　延坪　六・二一〇・九一
階數　鐵筋混凝土造六階建

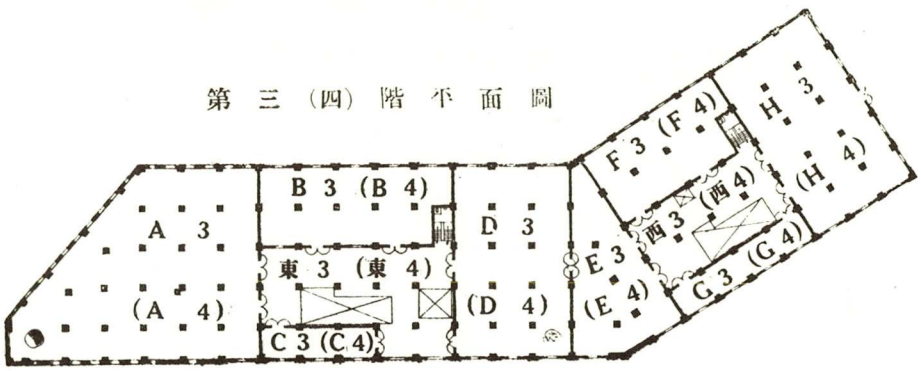
第一階平面圖



第二階平面圖



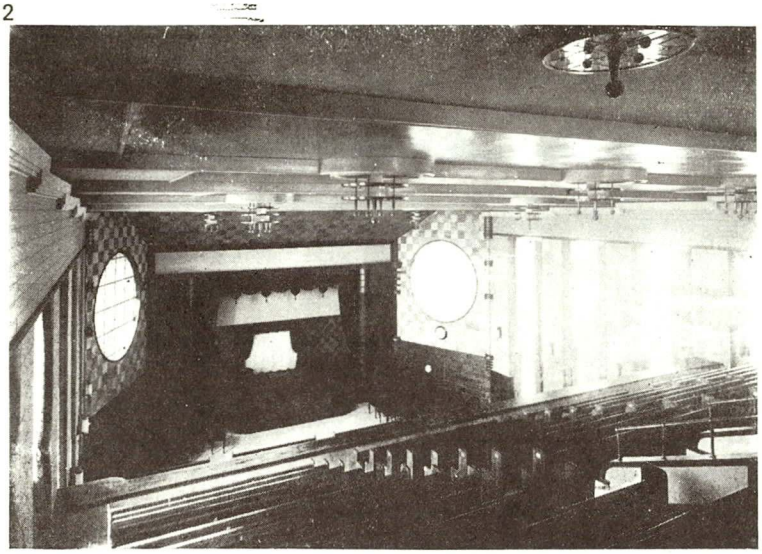
第三（四）階平面圖



1

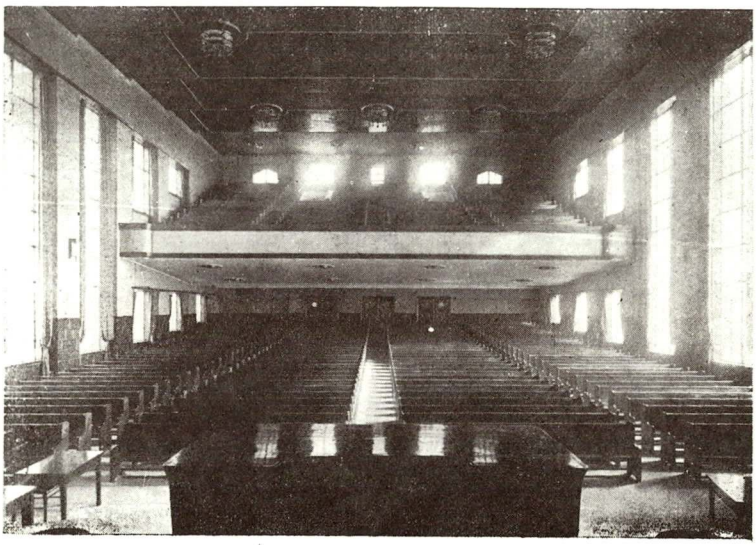


2



竣工　昭和四年十一月
坪數　建坪 一・〇一七・六六
　　延坪 二・五八八・三五
階數　鐵筋混凝土造四階建
工費　七十萬圓

3



1 外　觀
2 講堂內部(1)
3 同　上　(2)

阪神・甲陽中學校
設計施工　竹中工務店

1



1 本館外觀
2 校舍外觀

大阪高等醫學專門學校

設計施工　大林組

2



3

大阪府立八尾高等女學校外觀

設計　大阪府營繕課
施工　大林組

3



1



大阪市明治小學校

設計　大阪市建築課
施工　松村組

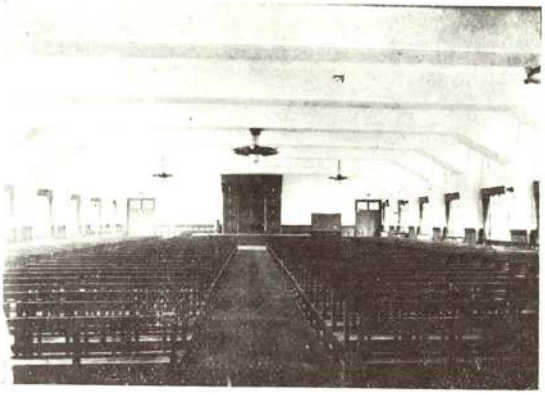
1 外觀
2 講堂內部

坪數　延坪一・三一〇・七〇
階數　鐵筋混凝土造三階建
工費　二十七萬八千圓

2



3



4



竣工　昭和四年十一月
坪數　延坪一・〇七二・〇〇
階數　鐵筋混凝土造三階建
工費　二十二萬一百圓

3 講堂內部
4 外觀

大阪市高津小學校

設計　花岡建築事務所
施工　岡本吉造氏

大阪市精華小學校

設計　增田建築事務所
施工　松　村　組

1 外　觀
2 講堂內部

竣工　昭和四年十一月
坪數　延坪八・三〇〇平方米
階數　鐵筋混凝土造五階建
工費　五十九萬八千圓

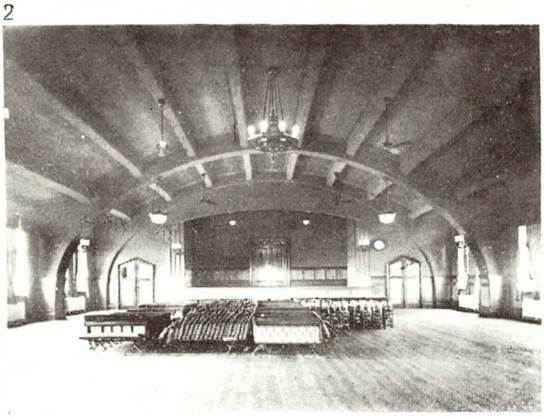
1



3



2



4



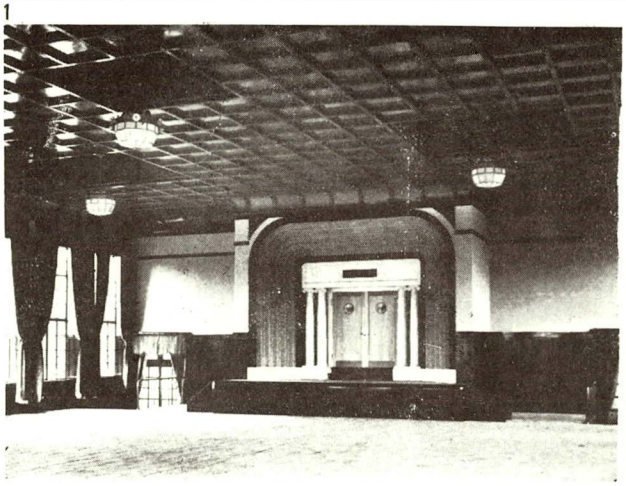
竣工　昭和四年六月
坪數　延坪一・七八五・〇〇坪
階數　鐵筋混凝土造三階建
工費　四十五萬圓

3 講堂內部
4 外　觀

大阪市堂島小學校

設　計　匡枝工務所
施　工　淺　沼　組

1



2



大阪市下福島小學校

設計　橋本建築事務所
施工　大林組

1 講堂內部
2 奉安殿

3



4



竣工　昭和四年十一月
坪數　延坪一・四四八・〇〇
階數　鐵筋混凝土造三階建
工費　三十二萬二千圓

3 講堂內部
4 外觀

大阪市堀川小學校

設計　橋本建築事務所
施工　淺沼組

大阪市濟美小學校

設計　大阪市建築課
施工　成山組

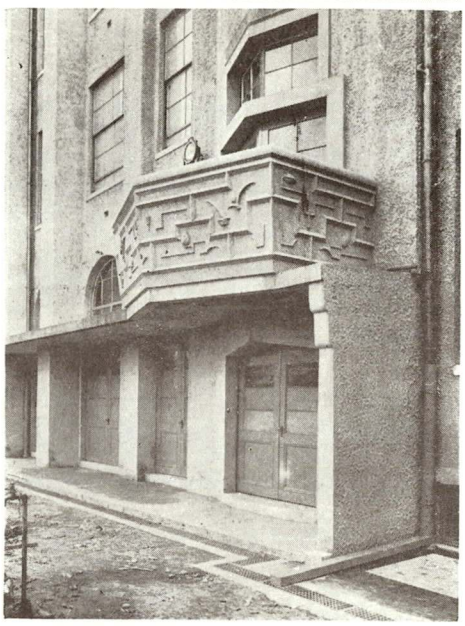
1 外觀
2 運動場面號令臺
3 講堂內部

坪數　延坪九七九·九〇
階數　鐵筋混凝土造三階建
工費　二十四萬圓

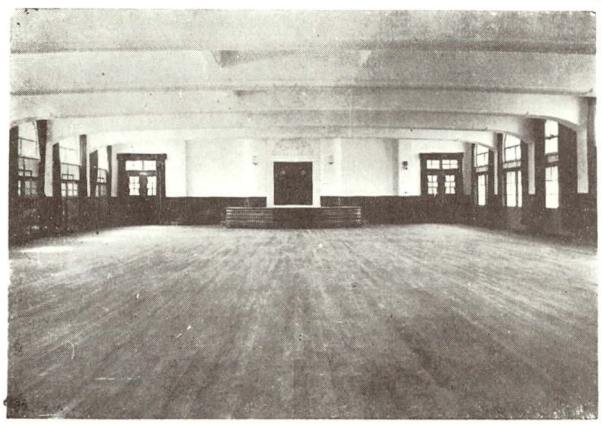
I



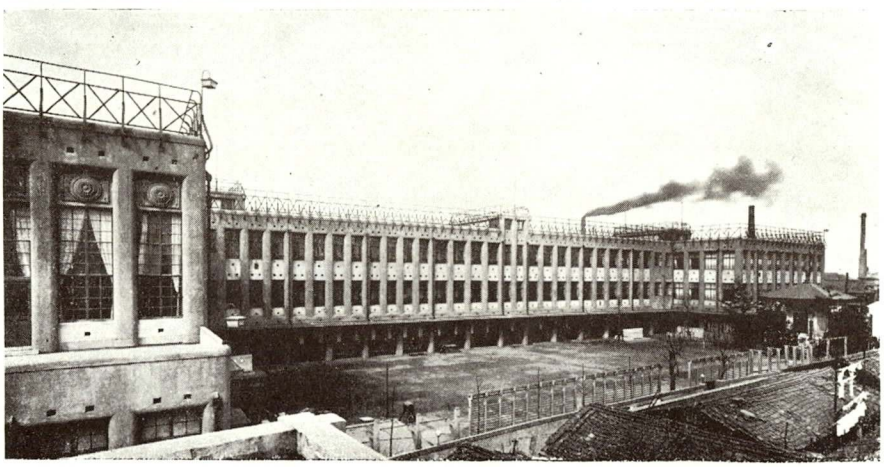
3



2



4



4

大阪市下福島小學校　外觀

設計　橋本建築事務所
施工　大林組

大阪市廣教小學校

設計　池田工務所
施工　松村組

1 外觀
2 講堂內部

竣工　昭和四年一月
坪數　延坪一・二二四・二九
階數　鐵筋混凝土造三階建
工費　二十五萬二千圓

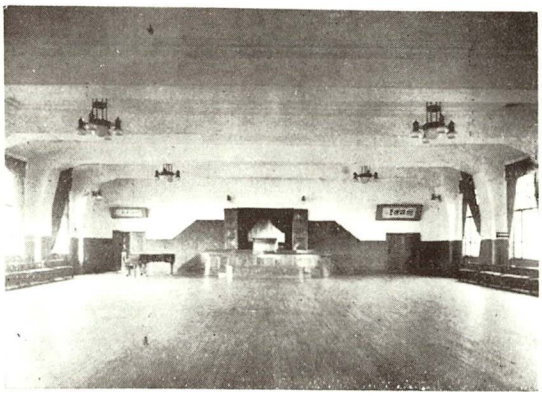
1



3



2



4



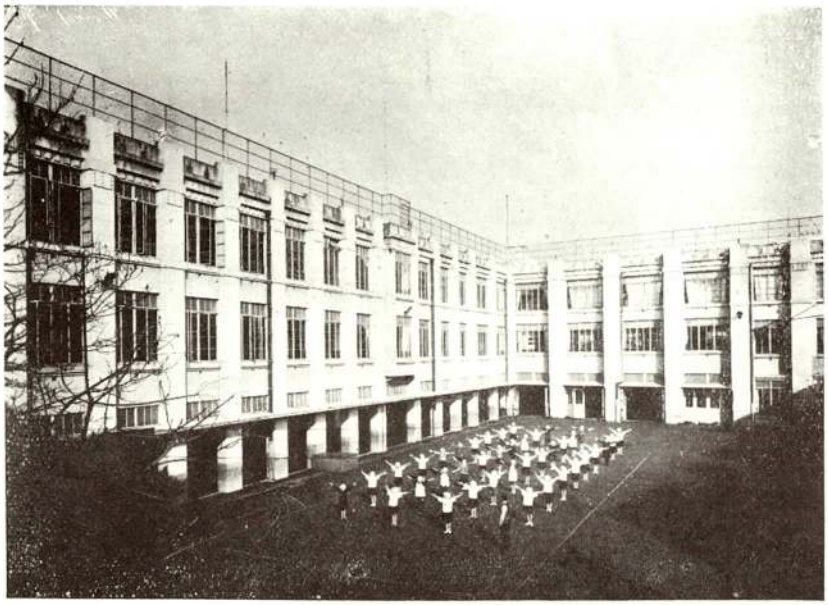
竣工　昭和四年五月
坪數　延坪一・〇六九・〇〇
階數　鐵筋混凝土造三階建
施工　三十三萬六千圓

3 講堂內部
4 外觀

大阪市金甌小學校

設計　增田建築事務所
施工　久保田組

1

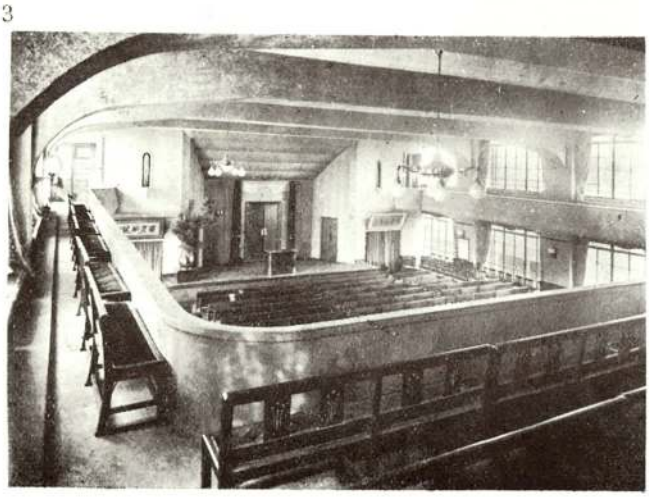


2



竣工　昭和四年四月
坪數　延坪一・二一八・〇〇
階數　鐵筋混凝土造三階建
工費　二十五萬七千圓

3



1 外　觀
2 講堂內部（1）
3 同　（2）

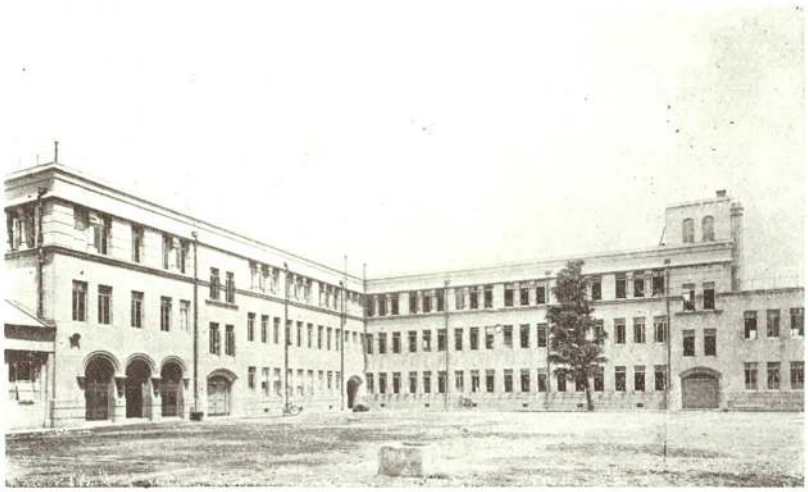
大阪市靭小學校

設計　國枝工務所
施工　中島辰造氏

大阪市本田小學校

設計　國技工務所
施工　大林組

1

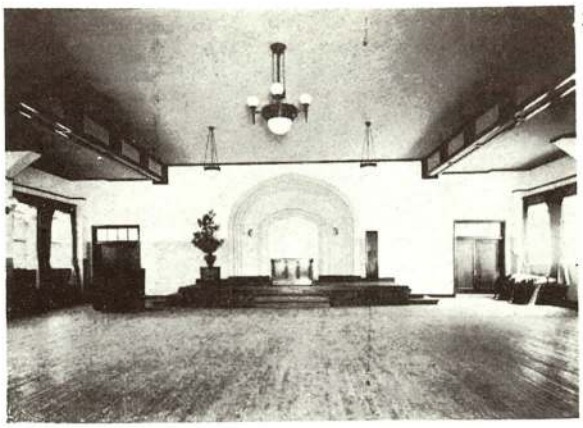


1 外觀
正面詳細

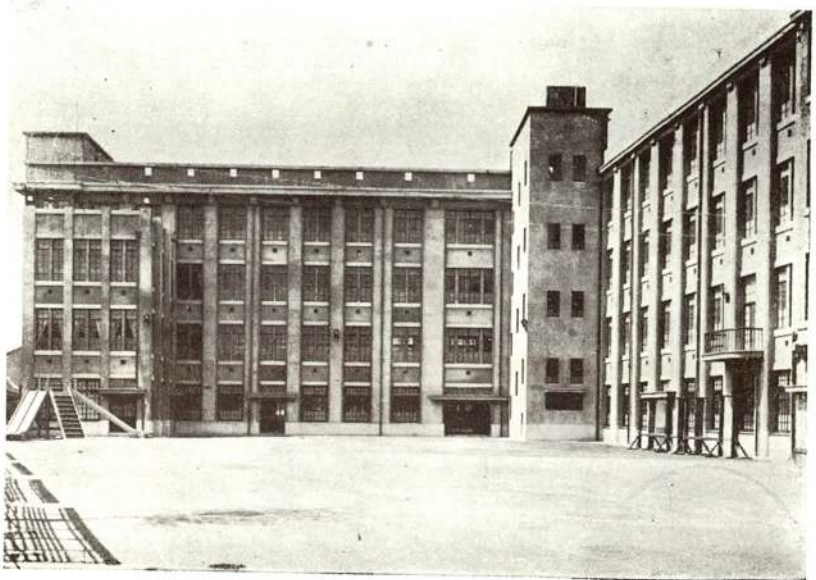
2



3



4

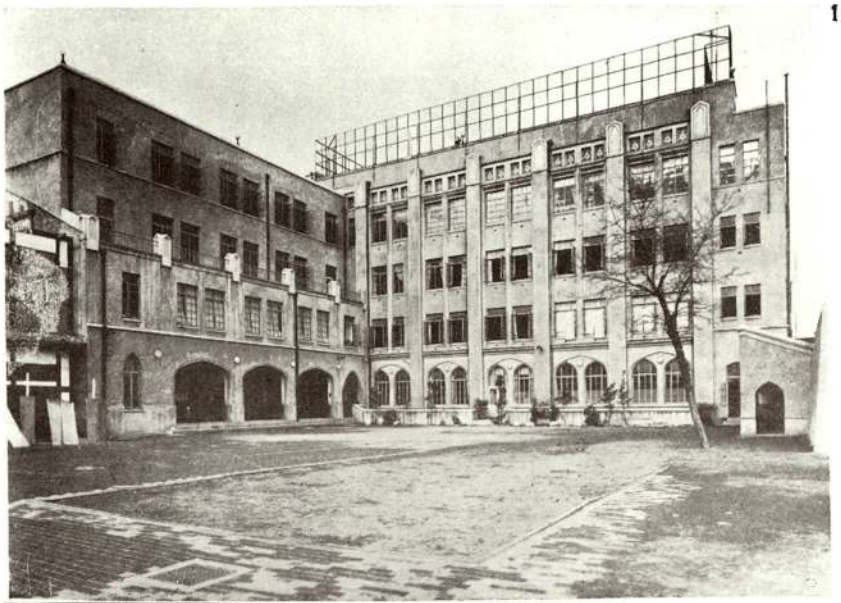


3 講堂
4 外觀

京都市修德學校

設計　京都市營繕課
施工　大林組

1



2



坪數　延坪一・四一一・九七
階數　鐵筋混凝土造五階建
工費　三十一萬三千圓

2



1 外　觀
2 講堂內部
3 正面詳細

大阪市御津小學校
設計　花岡建築事務所
施工　松　村　組

1



京都・日の出會舘

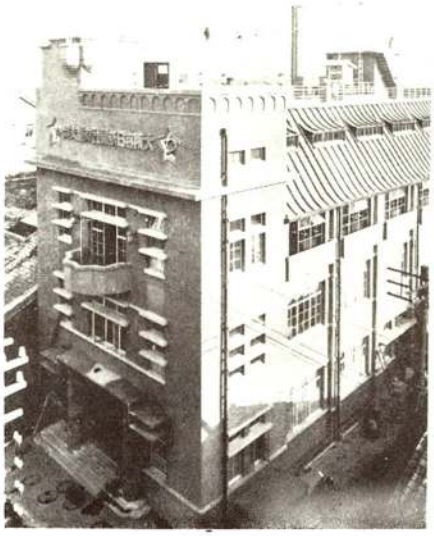
設計　武田五一氏
施工　大阪橋本組

1 講堂內部
2 外觀

2



3



4



大阪毎日新聞京都支局

施工　大林組

3 外觀
4 講堂內部

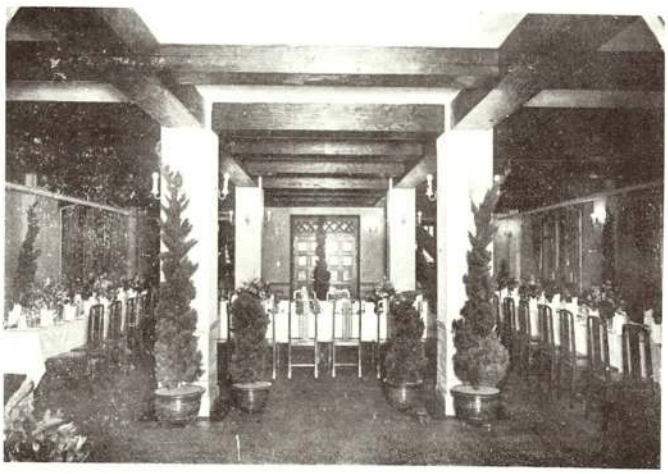
1



1 外觀
2 地階大食堂
3 ローンジユ

竣工　昭和四年五月
坪數　建坪一七五・〇〇
　　延坪五一五・一七
階數　二階建(地階付)
工費　二十萬圓

2



3



六甲山ホテル
設計　古塚建築事務所
施工　竹中工務店

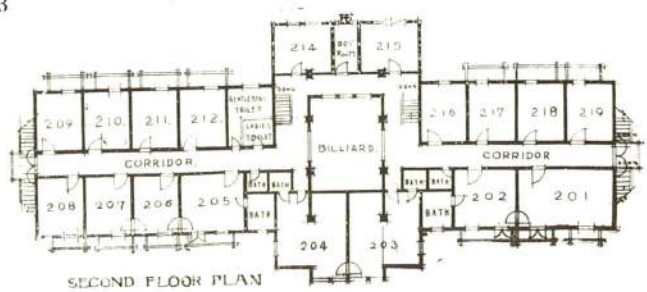
1



2

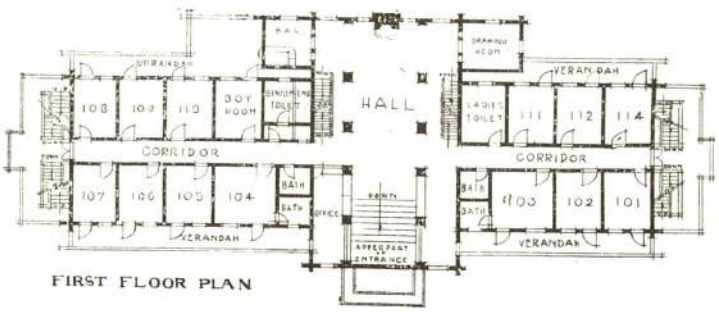


3



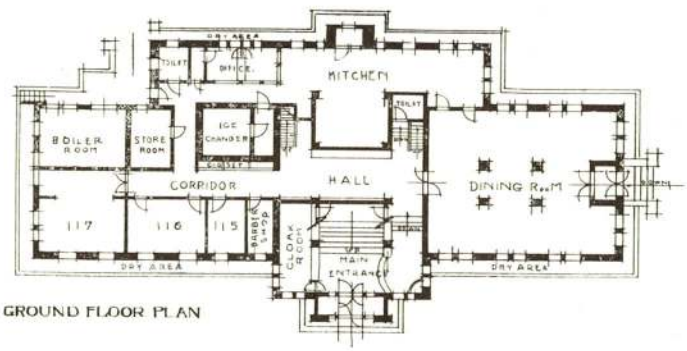
SECOND FLOOR PLAN

4



FIRST FLOOR PLAN

5



GROUND FLOOR PLAN

1 上等客室
2 特等客室附屬談話室
3 第二階平面圖
4 第一階平面圖
5 地階平面圖

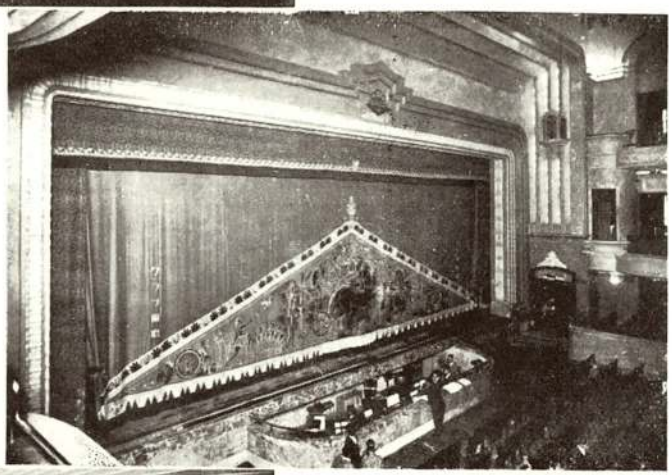
六甲山ホテル
設計　古塚建築事務所
施工　竹中工務店

1

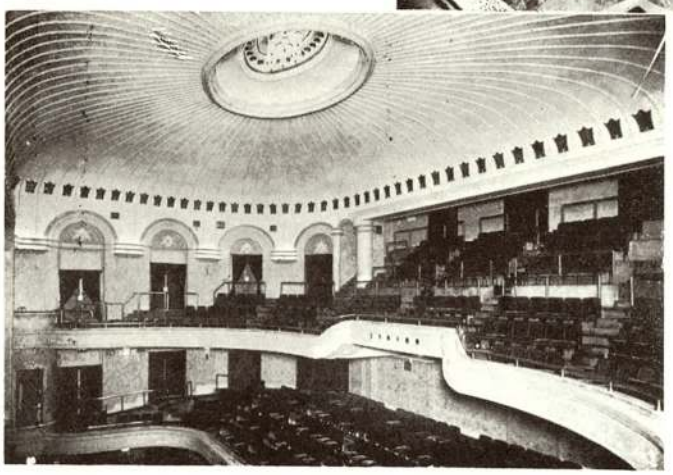


竣工　昭和四年十月
建坪　二三八・四六八坪
延坪　七五五・九七〇坪
地下室　一六〇・二四
一　階　二八三・四六
二　階　一四九・八九
三　階　一四二・一八
階數　鐵筋混凝土造三階建
（地階塔屋付）

2



3

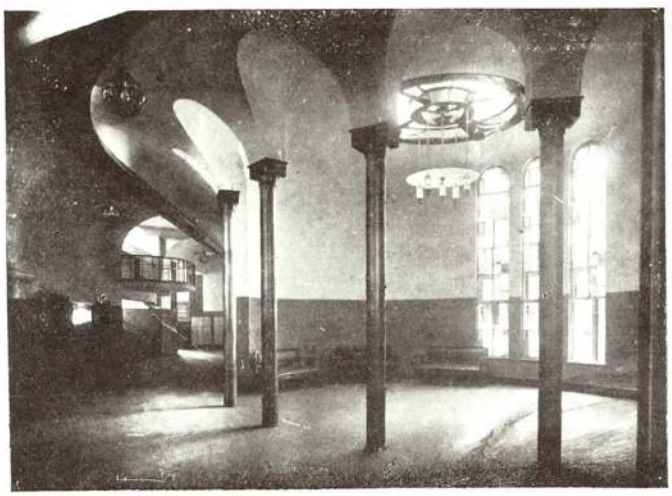


1 外觀
2 ステージ
3 天井詳細

神戸・松竹座
設計　原科建築事務所
施工　山本工務店

1





2

竣工　昭和四年六月
坪數　延坪八九七・八一
階數　鐵筋混凝土造三階建(地階付)
工費　二十八萬圓

3



1 外　觀
2 ホール
3 食　堂

あやめ池温泉場

設　計　大軌本社營繕係
施　工　竹中工務店

1



竣工　昭和四年十一月
メンスタンド兼クラブハウス
建坪　六八三・五〇
延坪　一・七三一・五〇
階數　鐵筋混凝土造三階建

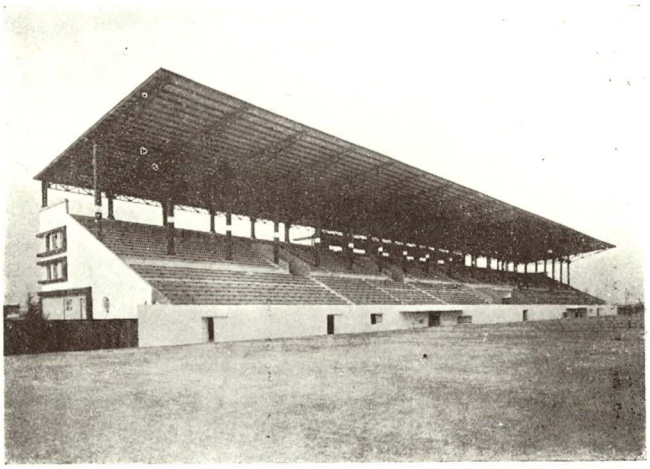
2



3



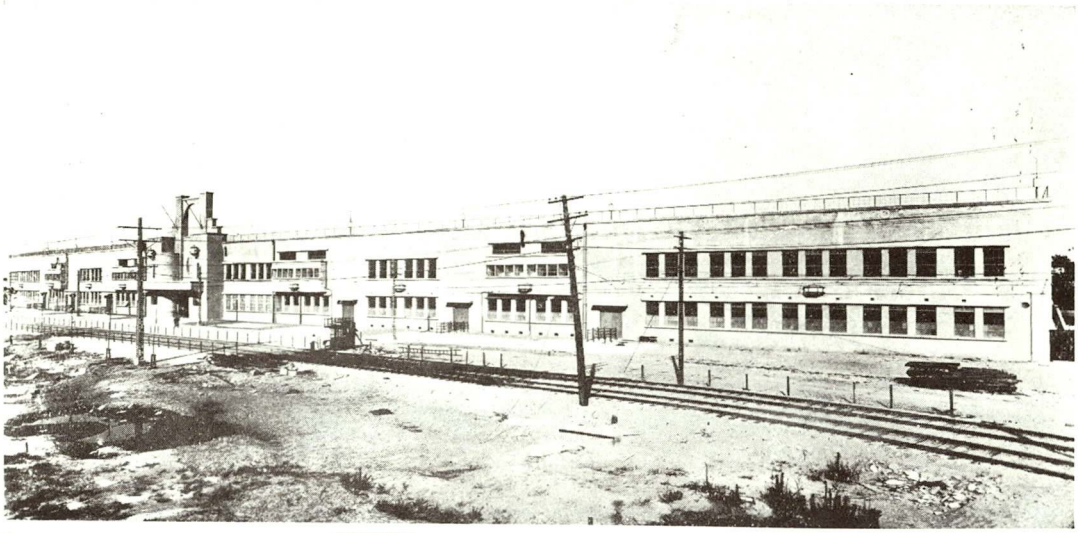
4



1 正面外觀
2 觀覽席
3 正面詳細
4 **スタンド**

花園ラグビー競技場
設計　中尾保氏
施工　清水組

1



1

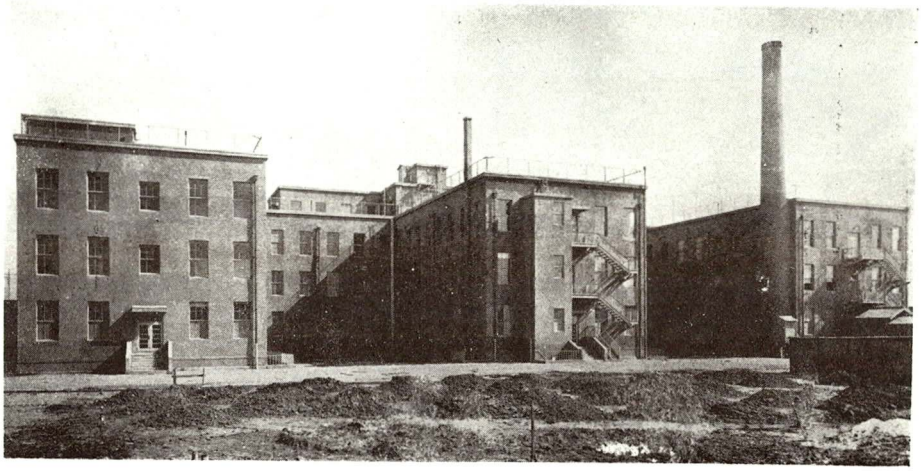
甲子園南運動場外觀

施工　大林組

2



3



2 正面外觀

3 背面外觀

大阪鐵道局天王病院

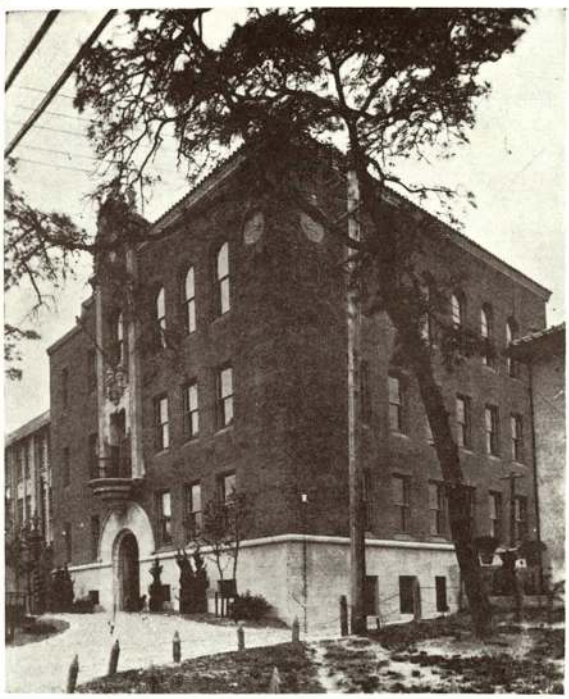
設計　鐵道局工務課

施工　大林組

1



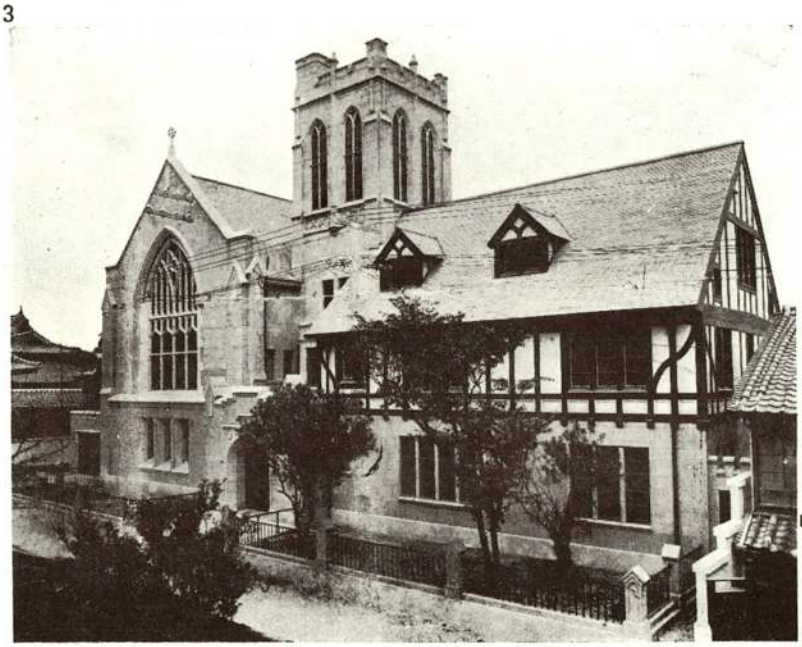
2



1 正面詳細
2 外　觀

日本赤十字社大阪支部
設計　木子建築事務所
施工　大林組

3



3

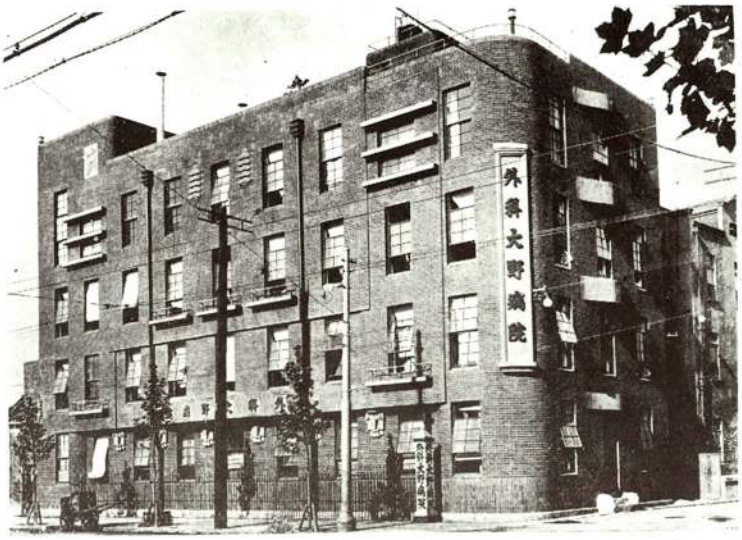
神戸ユニオン教會
設計　ヴオーリス建築事務所
施工　竹中工務店

1

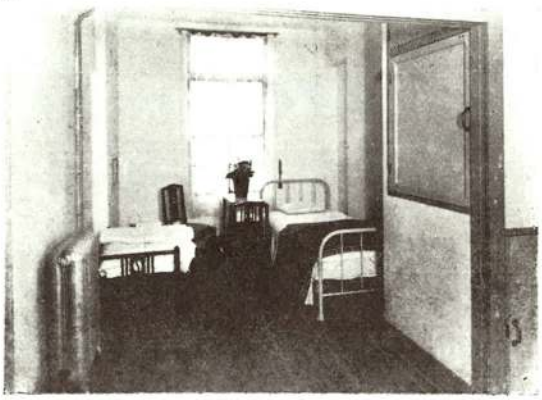
大阪・大野病院外觀

設計施工　大林組

1



2



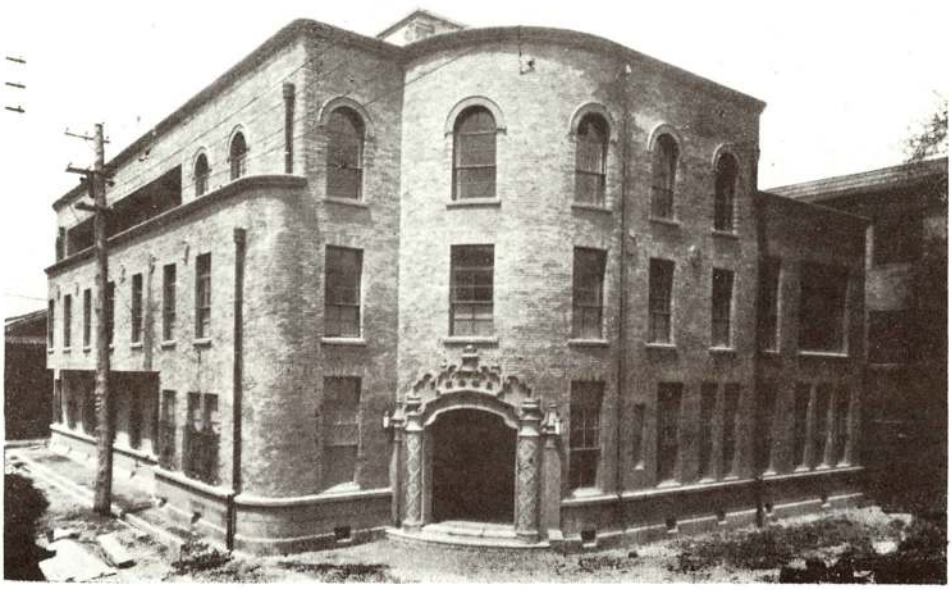
大阪・東條病院

設計　木子建築事務所
施工　竹中工務店

2 病室の一隅
3 外　　觀

竣工　昭和四年三月
坪數　{建坪 一七四・七〇 / 延坪 五二四・八九}
階數　鐵筋混凝土造四階建
工費　十八萬圓

3



1

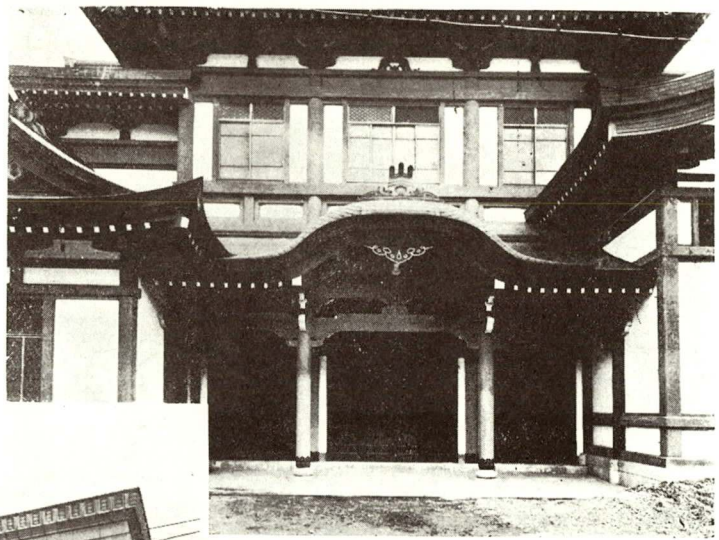


金光教大阪教會所

設計　設樂建築事務所
施工　大林組

1 外觀
2 正面詳細

2



3



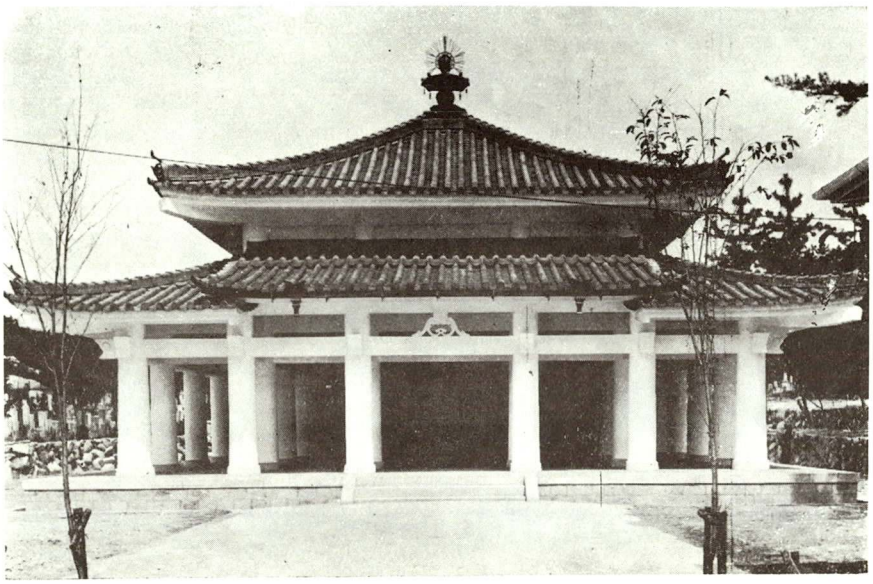
竣工　昭和四年十月
坪數　延坪一六五・九五
階數　鐵筋混凝土造二階建
工費　十萬圓

3

和歌山・南海信託株式會社本社

設計施工　森本建築社

1



2



1 外　觀 (1)
2 同　上 (2)

西宮市營火葬場
設　計　古塚建築事務所

社團法人日本建築協會會報

常務會

日時　十一月二十一日午後五時三十分―同八時
會場　本協會會議室
出席者　理事　片岡安、宗兵藏、日高胖
常務　坪井誠一　波江悌夫　岡部顯則　山脇友三郎　本間乙彦　松本儀八　酒井勇三郎
監事　横濱勉
報告　美觀地區並風致地區指定の件に付建議追申案
第一部委員會委員長より書面報告
右報告書全文の謄寫、各員に配布し審議に入る
參考の爲前回府知事に建議せし美觀地區並風致地區指定促進の建議書調査
追申案と添付地圖と對照し審議
議事　一、昭和五年度收支豫算の件……可決
一、劈頭橫濱監事より明年度豫算は時節がら出來るだけ緊縮方針を以て編成されたき希望あり
一、昭和三年度決算報告の件……可決
一、評議員會其他諸會開催日取決定
一、處務細則一部變更の件……可決
一、會員詮衡

第五部（住宅）委員會

日時　十一月二十二日午後六時三十分―同八時四十五分
會場　住友倶樂部二階談話室
出席者　委員長　日高胖
幹事　大原芳知
委員　富士岡重一　小林三造　南信　末澤周次
記事　一、大原幹事より前回委員會に於て決定せし伊藤正文氏（上野委員の補缺）に委員依囑方を常務會に要求しあり處今回辭退申出られたる旨報告す
一、次て前回委員會の經過報告あり
一、分科委員の人選に移る

第一分科

富士岡重一氏　南信氏
中山榮太郎氏　丹藤貎雄氏

第二分科

西村辰次郎氏　渡邊久雄氏
須賀藤五郎氏　萩原貞氏

第三分科

末澤周次氏　小林三造氏
角尾篤彦氏　永山美樹氏

一、B實行促進に關する委員の推薦は大原幹事引受けのこと
一、伊藤氏の代りを安井武雄氏に富士岡委員より内交渉すること
一、大原幹事より昭和五年度豫算編成に付報告し諒解を求めらる
一、將來各分科の協議問題、及決定事項は本委員全部へ通知のこと

第一部（法制）委員總會

日時　十一月二十七日午後五時三十分―同十時
會場　本協會會議室
出席者　委員長　池田實
幹事　今林彦太郎　竹中景一
第二分科　佐藤松太郎
第四分科　伊藤幸太郎　高田利一郎
記事　一、實費精算式施工契約書に付前回審議修正をなしたるも尚修正の個所あり本夕は最初より審議修正をなし別紙規程第二十五條迄修正をなす

評議員會

日時　十一月二十八日午後六時―同八時三十分
會場　住友倶樂部三階小集會室
出席者　評議員
片岡安、池田實、伊藤幸太郎
本間乙彦、德政金吾、大野直平
岡部顯則、渡部圭吾、橫濱勉
高田利一郎、宗兵藏、坪井誠一
中島智喜、村上徹一、久保田筆雄
山脇友三郎、前内文二郎、松本儀八
增山新平、阪井米吉、酒井勇三郎
芝田知重、下浦光衛、森本藤吉
記事　一、午後六時三十分出席者定數二十一名以上に達したるを以て片岡會長開會を宣し議長となりて議事に入る
議案
第一號　昭和五年度收支豫算の件……可決
第二號　昭和三年度收支決算の件……修正可決
第三號　定款第十四條に依り協會員除名處分の件……可決
第四號　評議員一名死亡に付補選に關する件
第五號　定款改正に關する件

第三部（資料）各分科會

日時　十二月二日午後五時三十分―同七時
會場　大同生命ビル地階ライオン食堂
記事　一、今夕は昭和四年度最終の會合にして各分科より今年中に於ける委員會經過報告書を委員長に提出する事を可決し各主査より提出し散會す

第一部（法制）委員會總會

日時　十二月四日午後五時三十分―同十時
會場　本協會會議室
出席者　委員長　池田實
幹事　竹中景一
第一分科　加藤善吉
第二分科　前内文二郎
第三分科　和田貞治郎
第四分科　平塚鎗吉
記事　一、實費精算式施工規程に付前回委員會に引續き第二十六條より逐條審議をなし別紙の通修正を行ひ本夕を以て規程全部の審議を了る

第四部（災害）委員會

日時　十二月九日午後五時三十分　同十時
會場　住友倶樂部三階小集會室

出席者　委員長　光安梶之助
幹事　池田　宮彦
委員　林　豪藏　落藤　藤吉
黒田　茂　山本　久吉
古川　豐　岡本　弘

記事　一、建物の風壓に關する研究
此の調査研究は曩に中央氣象臺、大阪測候所、海洋氣象臺其他に對し、參考資料の送附方を依頼せし結果、各々回答に接し、種々の研究を續けたるも、更により以上研究を進むるには材料乏しく困難なるに付一先づ研究を中止す
一、鐵筋コンクリート標準仕樣書中鹽類に關する件
本問題に於ては極めて微量なる鹽分（類）の含有せらるゝことは問題とすべきに非ずとの結論を得、より以上深き研究は之を他日に讓り一時所究を中止す
一、左記諸件を來年度委員會に引繼ぐ
イ、大阪市内地質ボーリング圖
ロ、耐火耐震構造圖整理の件
ハ、大阪市防火地區增設の件
ニ、建物の活荷重の研究（法規の活荷重を減ずることの可決）

常務會

日時　十二月十一日午後四時三十分―同六時
會場　本協會會議室
出席者　理事　片岡安、宗兵藏、日高胖
監事　横濱　勉　池田　實
常務　德政　金吾　坪井　誠一
岡部　顯則　吉井　長七
山脇友三郎　池田谷久吉
本間　乙彦　松本　儀八
酒井勇三郎

議事　一、職員下半期賞與其他に關する件……決定
一、協會員外常設委員會委員に謝禮の件……決定
一、會員詮衡
本夕の常務會は秘密會議とせり

通常總會

日時　十二月十一日午後六時三十分―同六時五十分
會場　大同生命ビル八階小集會室
出席者　片岡安外二十二名
記事　一、定刻に遲るゝこと半時間午後六時三十分片岡會長開會を宣し一同に着席を求め出席人員を點檢するに二十三名にして所定の人員に達せざるに依り會長より其旨を告げ定款により通常總會不成立を宣し流會となる
一、評議員選擧の投票は片岡會長及宗、日高兩副會長監視の下に投票函に投票を行ひ郵便托送の投票も同時に投函して會長の封緘して再度總會召集開會迄協會に於て保管することゝせり

第五部（住宅）委員會

日時　十二月十六日午後六時三十分―同八時
會場　住友倶樂部二階小談話室
出席者　委員長　日高胖
幹事　大原　芳知
委員　富士岡重一　丹藤　艮雄
小林　三造

記事　一、今夕は各分科主査及委員の人選をなし大體決定したり
一、今後各分科に於て分科會を開催し協議研究をなし必要の時に總會を開き委員長の出席を仰ぎ各主査より分科會の經過報告をなす事を申合す

第二部（敎化）委員會

日時　十二月十四日午後六時―同七時三十分
會場　大同生命ビル、ライオン食堂
出席者　幹事　增山新平
委員　山本　春水　藤枝　良一
芝田　知重

記事　一、職工講習會講義速記をパンフレットとなすの件は費用の點に付て今年度印刷不可能に付來年度委員會に原稿を引繼ぐ事に決定
一、昭和四年度委員會事業報告書を會長宛に提出する事を決定す

通常總會

日時　十二月十六日
會場　大同生命ビル八階集會室
出席者　三十五名
一、午後六時開會理事會長片岡安氏議長となり只今出席者二十名なるも本總會は再度の招集なるを以て定款第二十四條に據り總會成立の旨を告げ報告議案等は豫て通知したる通左の諸件なることを述ぶ
選擧　一、評議員一名補缺選擧
二、評議員半數改選
報告　昭和四年度事業報告
議事　議案第一號　昭和五年度收支豫算の件
議案第二號　昭和三年度收支決算の件
一、議長より先つ評議員一名補缺選擧を執行し次に評議員半數改選執行に移りますに就ては補缺選擧に當選したるものにして、第二回半數改選にも當選したる場合は第二回半數改選の當選は無効と致しますと述べ異議の有無を諮り異議者なく可決
尙議長より開票立會人の選定を一任されたきことを諮り異議なく議長に於て左記四名を開票立會人に指名し次で投票を締切開票を行ふ
池田　實氏　池田谷久吉氏
德政　金吾氏　須川廉太郎氏
以上開票立會人
一、補缺選擧投票總數三百〇七票にして採點の結果當選者左の通決定す
（一票は被選者一名記載無記名投票とす）
當選　一六一票　山下豐三郎氏
次點者　七八票　中島　智喜氏
一九票　横濱　勉氏以下略
一、次に評議員半數改選に移り開票立會人は補缺選擧の場合と同じ

一、投票總數三百四十九票にして採點の結果當選者左の通決定す

（一票は十名連記無記名投票とす）

二二七票　吉井　長七氏
一七五票　岡部　顯則氏
一七三票　原科　準平氏
一七一票　岡本新次郎氏
一六九票　山田　初次氏
一六八票　前内文二郎氏
一六四票　久保田筆雄氏
一五七票　村上　徹一氏
一五六票　木村　寛一氏
一四三票　武田　經一氏
一四二票　須藤　隼人氏
一三八票　山中　茂一氏
一三七票　高橋　榮治氏
一三五票　永田三次郎氏
一三一票　小笠原　鋤氏
一一八票　本間　乙彦氏
一一六票　高田利一郎氏
一〇四票　籠田　定憲氏
九〇票　阪井　米吉氏
八二票　篠原　太郎氏

次點者

七三者　三木　來三氏
五六票　池田　實氏以下略

一、坪井主記常務より昭和四年度事業報告あり次て議案第一號昭和五年度收支豫算の件を議す、岡部主計常務より原案に付詳細說明あり二、三質問の後採決異議なく可決す

一、夫れより議案第二號昭和三年度收支決算の件に移り岡部主計常務の說明ありて異議なく承認のことに決す

一、右にて總會終了の旨を議長より告げ閉會す

一、本議事錄の代表署名者に付議長より諮り議長指名と決し左記二氏を指名す

坪井　誠一氏　須川雁太郎氏

轉勤轉居

會員

本田　林八君　神戸市平野上三條町八六ノ三
田中　四郎君　兵庫縣飾磨郡飾磨町玉地七四
竹腰　健造君　神戸市六甲篠原字番掛三二四（電御影二五六）
辻　德君　港區八幡屋實町四丁目三三四ノ三二

會員（地方在住）

久木　堅治君　愛媛縣新居郡新居濱惣開住友肥料望粟工場新築場内大林組出張所
日比　安平君　小倉市米町二丁目、大林組小倉支店
石田　信夫君　横濱市中區相生町三ノ五三東日横濱支局ビル大林組横濱支店内

普通贊助員

山田　芳雄君　西成區粉濱東之町一ノ四二
小宮山　實君　山梨縣中巨摩郡敷島村宮地
野田　義雄君　府下三島郡味舌村一二六
太田輝一方
大牟田市上官町三丁目七
佐田佐太郎君　八長山官舍
城戸　久君　名古屋市東區新出來町三ノ一八城戸武男氏方
有隅千代松君　住吉區北田邊町九四ノ一

改姓名

會員　舊姓　住友榮逸君　改姓　三木　榮逸君
同　舊姓　春日井政一君　改姓　角田（カク）　政一君

入會者

會員

中山榮太郎君　府下南河内郡西浦村東阪田二七七（大林組）
室田　實三君　兵庫縣川邊郡小田村杭瀨（中村建築事務所）
新野京次郎君　府下豊能郡岡町幸通三丁目（竹中工務店）
足立彌一郎君　東淀川區十三南ノ町七四六（工務所自營）
三宅重二郎君　西區南堀江通一丁目四〇（日本洋瓦株式會社大阪支店長）
古金　一人君　神戸市外西灘村字河原（自營）
有馬　休二君　天王寺區悲田院町三番地（住友合資會社建築課）
平井　英一君　西成區千本通三丁目二三（清水組大阪支店）

特別贊助員

藤村　愛資君　普通贊助員より轉格

普通贊助員

角戸　義一君　兵庫縣武庫郡精道村芦屋

退會者

會員　富田　宗七君

會員（地方在住）

同　野上　一郎君
同　寺田　勇一君
普通贊助員　土屋　武秋君
同　藤原　肇君
同　宮武　安造君

寄贈雜誌

電氣評論　毎號　其社
都人　毎號　其社
學士會月報　毎號　學士會
建築世界　毎號　其社
朝鮮と建築　毎號　朝鮮建築會
セメント界彙報　毎號　日本ポートランドセメント同業會
住宅　毎號　住宅改良會
建築雜誌　毎號　建築學會
工政　毎號　其會
建築新潮　毎號　洪洋社
大阪工業倶樂部　毎號　其部
通俗衛生　毎號　大阪府衛生會
帝國鐵道協會報　毎號　其會
工業評論　毎號　其社
電氣學會雜誌　毎號　其會

鐵道軌道經營資料 每號 鐵道同志會
趣味ノ園藝 每號 關西園藝會
工業ト社會 每號 東京工業會
工　業 每號 大阪工業會
滿州建築協會雜誌 每號 其 協 會
庭園と風景 每號 日本庭園協會
圖書室月報 每號 東京市政調査會
大阪工業倶樂部 每號 其 部
エンヂニヤリング 每號 其 社
工業要錄 每號 其 發行所
名古屋工業會々報 每號 其 會
大 大 阪 每號 大阪都市協會
都市問題 每號 東京市政調査會
新 建 築 每號 其 社
京都の實業 每號 京都商工會議所
都市創作 每號 其 會
木材彙報 每號 大阪木材協會
建築學研究 每號 其 會
大阪土木建築業組合報 每號 其 組 合
木材新聞 每號 關西木材商報社
工業新聞 每號 其 社
日本建材新聞 每號 其 社
日本建築士 每號 其 會
インターナショナル建築 每號 其 會
東洋建材時報 每號 其 社
朝鮮鐵道協會會誌 每號 其 協 會
經 科 學 每號 大阪綱島工業會
建築業協會々報 每號 其 協 會
建 築 畫 報 每號 其 社
土木建築工事畫報 每號 其 社

役員

會長理事	評議員	片岡安
副會長理事	評議員	古宇田實
副會長理事	評議員	宗兵藏
監事	評議員	池田實
常務	評議員	横濱勉
常務	評議員	岡部顯則
常務	評議員	小川陽吉
常務	評議員	木村寛一
常務	評議員	篠原太郎
常務	評議員	高橋榮治
常務	評議員	坪井誠一
常務	評議員	本間乙彥
常務	評議員	松本儀八
常務	評議員	山脇友三郎
常務	評議員	吉井長七
評議員		池田谷久吉
評議員		伊藤幸太郎
評議員		小笠原鋼
評議員		岡本新次郎
評議員		籠田定憲
評議員		久保田肇雄
評議員		小西一良
評議員		酒井勇三郎
評議員		阪井米吉
評議員		下浦光衛
評議員		芝田知重
評議員		須藤隼人
評議員		武田經一
評議員		高田利一郎
評議員		德政金吾
評議員		中村義雄
評議員		永田三次郎
評議員		原科準平
評議員		日高胖
評議員		姫野武
評議員		堺山新平
評議員		牧野利秋
評議員		前内文二郎
評議員		村上徹一
評議員		森本藤吉
評議員		山下豐三郎
評議員		山田初次
評議員		山中茂一
評議員		渡部圭吾
評議員		和田貞治郎

本誌定價表

冊數	定價 郵稅
一冊	五拾錢 貳錢
十二冊	六圓 貳拾四錢

昭和四年三月廿七日印刷（每月壹回）
昭和五年一月一日發行（一日發行）

大阪市港區音羽町二丁目十四番地
發行兼編輯人 鷹取陽
大阪市東區內淡路町一丁目七番地
印刷所 大阪活版所

大阪市西區土佐堀通一ノ一
大同ビルヂング
發行所 社團法人 日本建築協會
電話土四二六五番
振替口座大阪三九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店 柳々堂書店
電話土佐堀二四四〇番
振替口座二二〇八四番

御購讀の向は本會直接又は特約店へ
振替又は爲替にて前金御拂込被下度候